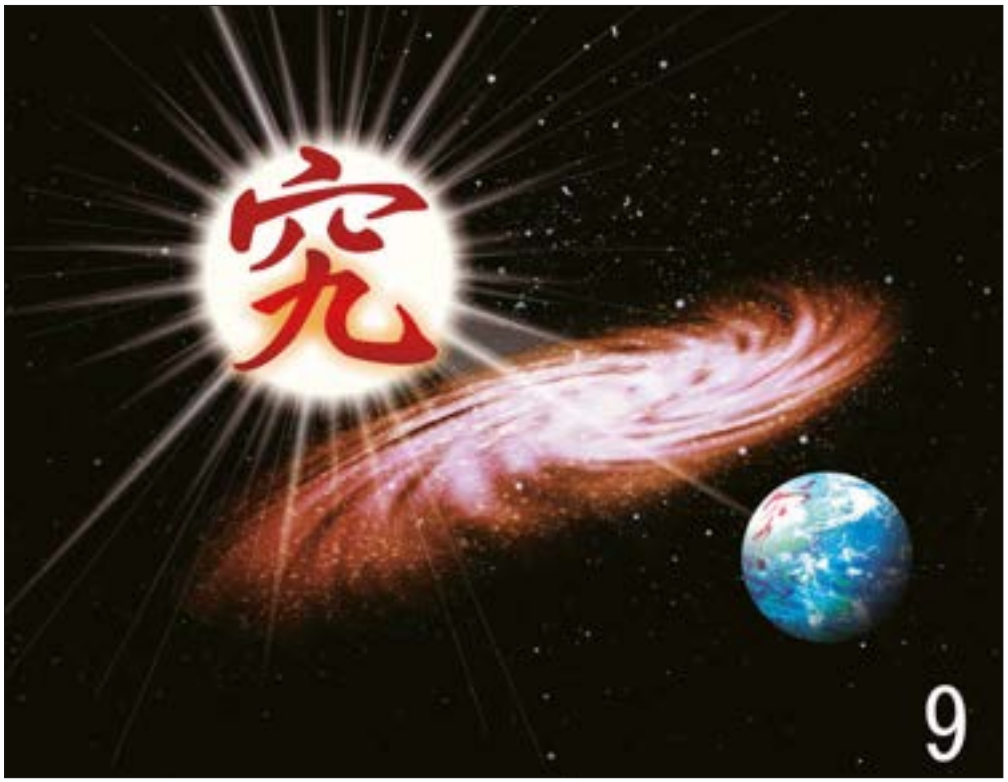
久留米大学附設高等学校同窓会

会　報

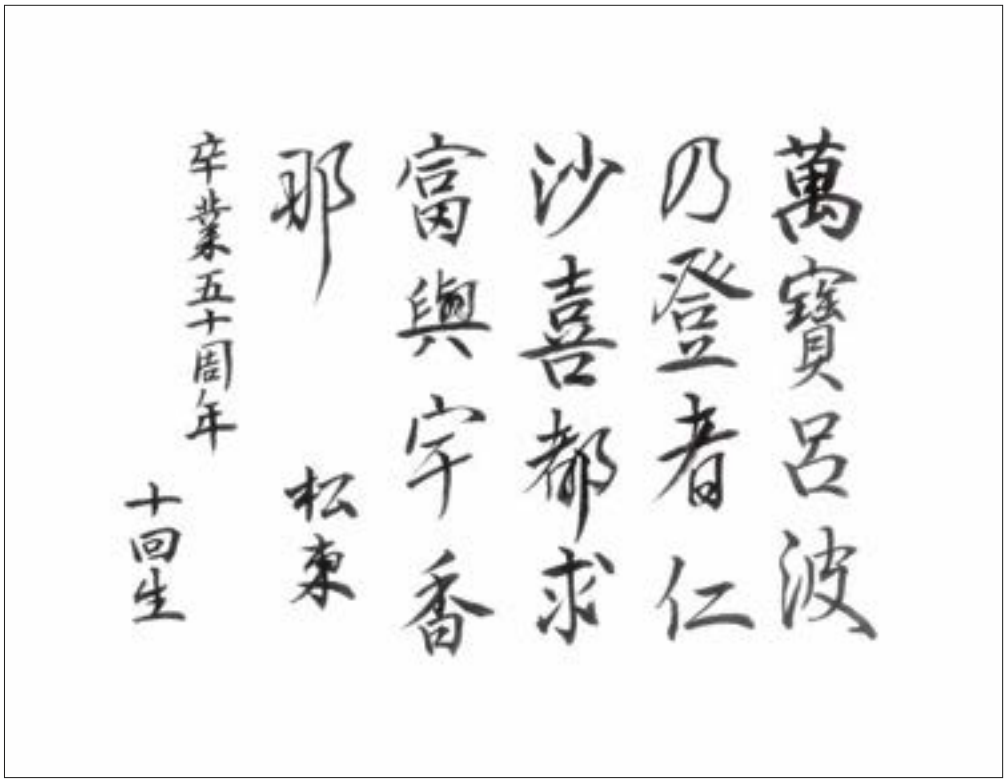
久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862　久留米市野中町20-2
TEL　0942-44-2222
FAX　0942-44-8257
◎卒業生数　13,481名

同窓会ホームページ　http://fusetsu-dosokai.com/　順次更新していますので是非ご覧ください。

附設のシンボル『思考廻廊』



9回生のパネル／究



10回生のパネル／萬寶呂波乃登者仁沙喜都求富與宇香那（まほろばの永久に咲きつぐ芙蓉かな）

■ 挨　　拶　第８代会長 吉田清隆(23回生)、学校法人久留米大学 理事長 永田見生、学校法人久留米大学学長 内村直尚、久留米大学附設中学校・高等学校校長 町田 健(23)後援会会長 藤本剛史(41)……3
■ 支部だより　全国８支部の活動（福岡、北海道、関西、中四国、佐賀、長崎、熊本、東京）……8
■ 海外だより　松村　健(28)、小椎尾龍介(30)、吉村　晃(45)、片峯暢章(58)……21
■ 高良随想　髙田翔太(48)、川上雄三(54)、小西陸斗(59)……25
■ 古稀を迎えて　井上　治・中川昭生・里村智彦・峰松一夫(19)……28
■ 還暦の会　岡村和彦(28)……30
■ トピックス　青沼隆之・鶴丸哲哉・栗木康幸(21)、田上和宏・古門成年・小西智也・吉永繁高(39)、國吉房次(41)……32
■ 会務報告　定期総会報告、活動報告、会計報告、役員・世話人名簿、正副会長プロフィール……38
■ 卒業生への支援　就職支援セミナー……47
■ 在校生への支援　進路講座……48
■ 大学だより　宮瀬崇琉(66)、的野将吾(67)、水谷　愛(67)、児島幸紀(69)、合原崇生(70)……59
■ 母校のいま　大学合格状況、生徒会長 城野光喜(71)、文化祭実行委員長 大塚悠航(71)、コロナ対策、在校生の活躍、附設グッズ紹介……64
■ HPご利用手引き……71
■ 寄付・広告……72
■ 会告・編集後記……156

久留米大学附設中学校・高等学校全景

❶正門
❷校舎東棟
❸校舎西棟
❹1号館
❺体育館・食堂
❻第1グラウンド
❼第2グラウンド
❽高校寮
❾中学寮
❿陶芸教室棟

校 歌

久留米大学附設中学校
附設高等学校 校歌

大石亀次郎 作詞
藪　文人 作曲

一、高良山下の学園に
　万朶の桜咲きそろい
若き血潮の高鳴るを
　見ずや　希望の揺籃地

二、江月冴えて　悠久の
　流れは遠し　千歳川
高き彼岸の光明を
　見ずや試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく
　平和の偉業　任として
築く不朽の真善美
　見ずや　我等の大使命

同窓会会長　挨拶

皆様のご支援に感謝致しますとともに、皆様との交流を進めて参ります

附設高校同窓会　第8代会長　**吉 田 清 隆**（23回生）

同窓会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。コロナウィルスが猛威を振るい始めたのは2020年の春でしたが、私はその９月に会長に就任し、今年７月の定期総会にて再任いただき３年目となりますが、まさにコロナに翻弄された２年間でした。医療関係者としてコロナと対峙しご尽力されてきた同窓生には心より感謝申し上げます。そして今、社会活動や海外渡航、国内旅行が物理的、行動規範的な制約はつくものの徐々に自由を取り戻しつつあります。各支部を含めて、同窓会活動もこれまでは中止とした事業も多く、やるにしてもオンラインが中心でしたが、やっとリアル開催ができる環境が整ってきました。もうしばらくは制限付にならざるを得ないでしょうが、いつになれば対面で杯を交わしての懇親会が開催できるのか、に焦点があたるようになってきました。

一方でオンラインの良さも学びました。最大の利点は場所を問わず、遠隔地や海外からも参加可能ということです。今後はリアルとオンラインのハイブリッド方式を活用することも課題です。

また、2020年度に続き2021年度も広告協賛金の大半を母校に寄付させていただきました。母校がこの２年間にて実施したコロナ対策費用の６割、約15百万円（一般会計から拠出の４百万円を含む）を母校支援にあてることができました。福岡・東京の支部総会幹事の皆様（福岡31／32回生、東京37／38回生）には、懇親会ができない辛さの中でも広告協賛金募集にご尽力いただき大変ありがとうございました。これとは別に広告協賛金への協力に合わせて直接母校の教育振興基金に寄付いただいた同窓生もあり、２年間で約２百万となりました（同窓会会計に反映されていない支援）。コロナ対策の母校支援については会報に加えて、母校ホームページ（HP）、同窓会HP、久留米大学の広報誌「EQUAL」（大学HPからダウンロード可能）に掲載してあります。

去る４月８日（金）、中高入学式の後に、母校、後援会と共に高校75周年・中学55周年事業の委員会を立ち上げました。75周年記念事業は３年後の2025年11月を予定していますが、第１回生は90才、卒寿を迎えられ、我が同窓会もシニアからジュニアまでほぼ全世代がそろうことになります。校舎建設・建替えは久留米大学の方針により既に決定しておりますが、それ以外の事業はこれからの議論となります。OB／OGの我々ができる母校への恩返し、貢献は「募金」にあることは論を待ちません。来年度には募金の案内を差し上げますので皆様から力強いご協力をいただけますようお願いします。また、2025年に向けて思考廻廊も整備する計画です。

最後に、毎度のお願いですが、WEB名簿への登録と終身会費未納の方には納入をお願いします。WEB名簿にアクセスすれば終身会費を納入済かどうかがわかります。終身会費は周年事業等の母校支援のための財源および同窓会運営上の財源として同窓会特別会計に繰り入れています。終身会費制度が発足してから45年を経過しましたが完納者率はまだまだ60%強、未納の方には是非お願いします。なお、65回生以降は高校在学中に授業料と一緒に完納済なので「お願い」の対象外です。

一日も早く対面の懇親会を復活したいものです。

理事長　御挨拶

「育英事業」の面目を発揮

学校法人久留米大学 理事長　**永 田 見 生**

1950年に設置された久留米大学附設高等学校（以下「附設高校」）は間もなく創立75周年を迎えます。附設高校は、創立時は同時に開設された御井町の久留米大学商学部商学科の敷地に併設されておりました。しかしながら、学校法人久留米大学の創立に際し、最もお世話になった方の一人であるブリヂストン創業者の石橋正二郎氏が、1968年に財団法人石橋財団を通じて現在の野中町に敷地を寄贈されたことから、新築移転することができました。なぜ「附設」という呼称になったかは、設立の際に大学の下位に属する「附属」との呼称ではなく、大学の学部と同列に位置付けるという方針によると説明されています。

さて、附設高校が創立される以前の1928年に九州医学専門学校［現久留米大学］（以下「医専」）は開校されましたが、設立にあたっては多額の資金が必要であったことから、石橋家に資金援助をお願いしたところ、「石橋家の意向では『**育英の事業**の意義は十分解っているから、遠い将来のこともふかく考慮しなければならぬ問題だし折角援助する以上は申出の額で一時的の不十分なものにしたくなく、十二万円の建設費の他に敷地買収費更に埋立工事費と合計二十万円を提供するから、**育英事業の面目を発揮し、国家社会に貢献して貰いたい**』と、同情ふかい承諾を得たのである。」とする、溝口喜六先生（本学創立に尽力された、後の校長、理事長で、医専開設時の福岡県医師会長）の記述が本学の10周年記念誌に残っており、また、結びの言葉として、石橋正二郎元本学校法人理事長に対して、「誌上ながらも十分深甚の感謝を表しておきたい。」とあります。この中の「**育英事業**」とは、不断、教育と同義で使われる言葉ですが、意味を確かめてみると「孟子の尽心上」にある言葉で、物事の真理・真相を精神智能のかぎりを尽くして知ろうとすることで、すぐれた才能を持った青少年を教育することとあります。コロナ禍、少子高齢化、ウクライナ問題などで社会が混沌とした今日に、石橋正二郎氏の「育英事業」との見識ある言葉の意義を、附設生、教職員、関係者全員はしっかり心得ておくべきではないでしょうか。

さらに、本学の今後の指針となる石橋正二郎会長随想集にある「**熟慮断行**」との言葉をご紹介します。「幸いブリヂストンの事業は繁栄をみるに至ったが、これには決断がいかに重要かを痛感する。人は必ずその生涯に、進退、左右、得喪（とくそう：得ることと失う事）を決する二者択一の岐路に遭遇する。このとき、よく事の本末、緩急を勘案し熟慮断行することが大切で、妄動（もうどう：考えもなくむやみに行動すること）或いは逡巡（しゅんじゅん：決断できないで、ぐずぐずすること）して機を逸し、断を誤ってはならぬ。」

また、溝口喜六元理事長の「私学は自分等が育ててゆくより他に道はないのである。その栄枯盛衰は即ち自分等の努力であり責任である。椅子一脚、草花一本までが、すべて自分等のものである。これが私学の誇りである。だから尊いのである。」との言葉も併せてご紹介します。

附設高校創設に際し、ご尽力いただいた偉大な先人達の願いや「国家社会に貢献しようとする、為他の気概をもった誠実・努力の人物の育成」との附設の建学の精神を、同窓生、在校生の皆様は深く心に刻み、母校のさらなる発展の為に応援して戴きたく存じます。

学長　御挨拶

創立75周年へ向かっての挑戦

学校法人久留米大学 学長　内 村 直 尚

日頃より同窓会会員の皆様には温かい御支援を賜り、心より感謝致しております。附設高校は1950年に創設され、2025年に75周年を迎えることになります。75周年に向けて、同窓会会員の皆様のさらなるご支援をお願い致したいと願っております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、皆さんが通常の日常生活を送れない状況にあり、さまざまな面で不安を抱えておられることだと思います。４回目のワクチン接種が始まり、また治療薬も開発されていますが、私たちの生活スタイルを変えることも大切です。感染防止のためには、密閉・密集・密接を避けること、手洗いやマスクを着けること、人と人との距離をとることなどが不可欠です。一方、孤立しないように友人や家族とのつながりを保つことも大切です。懐かしい学生時代の友人と久しぶりに携帯やインターネットを通して思い出を語り合い、互いに励まし合うことはとても大切な孤立しないリラックス法です。このような時代であればこそ、同窓会のつながりや交流の場が不可欠です。

ところで現在、コロナをはじめ地球温暖化など複雑で多様な難題に直面し、私たちは自分一人あるいは一企業では解決できないことや人間の限界に気付いています。答えのみつからない状況に耐えられる能力、「ネガティブ・ケイパビリティ」を養うことが、人に寄り添い共感を育む力になり、人間力を高めます。今をピンチと思わず、人として成長できるチャンスに変えてください。

互いに心を通わせ未来を信じ、一歩ずつ進むことが現状を乗り切る一策だと思います。それには心に余裕をもって他人へ接することが大事です。つらさや哀しみを体験すると人は強くなり寛容になります。コロナの時代は心の時代、今は少し立ち止まり準備する期間として、将来この苦労が報われるよう活かせればと思います。

未来に向かって夢を抱いて発展していくことは大きな目標です。組織として同じ方向を目指して進んでいくためには、安心・安全という土台を提供する必要があります。ただ、客観的にみて危険でない状況を指す安全を生み出すことよりも、不安を感じさせず心が安らぐ場である安心を提供することはより難しくなります。久留米大学の建学の精神である「国手の矜持（ほこり）は常に仁なり」の「国手」は名医の意味だけでなく、優れた名人の意味があり、「仁」とは「礼に基づく自己抑制と他者への思いやり」を意味します。この「仁の精神」に通ずる、自分に厳しく周囲に寛容に振る舞うことが安心つまり心理的安全性につながり、変化に強い組織形成の根幹となります。心理的安全性を高める組織作りのためには、発言を頭ごなしに否定しないことやミスを咎めず怒らず指導する寛容さが大切です。個人が心を育み人間力を高めることが重要です。久留米大学および久留米大学附設中・高校そして同窓会全体がOneteamとなって「仁の精神」を共有し、未来に向かって邁進していきたいと思います。

感染症が終息するまではしばらく時間がかかりそうですが、安心して皆がマスクを外して会話や会食ができる日が来ることを心から願っています。

今後も久留米大学学長として久留米大学、附設高校および附設高校同窓会の発展に少しでも寄与できるよう励んで参ります。至らない点も多々あろうかと存じますが、同窓会会長を始め同窓会役員の皆様、会員の皆様には引き続きご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げご挨拶と致します。

校長　御挨拶

困難を克服して発展する附設

久留米大学附設中学校・高等学校校長
（高校23回生・中学1回生）　町 田　　健

同窓会員の皆さまには日頃より多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。2020年初頭より猛威を奮い始めた新型コロナ感染症は、2021年度にはさらに勢いを増して、学校の運営にも少なからぬ障害を与えました。しかし、同窓会・後援会からのご寄付のおかげで、緊急を要する対策も万全に実行することが可能になり、感染の状況に応じた制約を課されることはあったものの、概ね無事に学校の運営を遂行することができました。皆さまのご配慮には改めて衷心からのお礼を申し上げます。

年度の当初から繰り返し発せられた宣言や重点措置は、人類の疫病に対する無力さを痛感させましたが、附設では行事の縮小や中止などの措置が必要であった時期を除いては、授業や試験はほぼ通常通りに行うことができ、生徒たちの学力の向上という最も重要な目標は、何とか達成できたものと安堵しております。この結果、昨年度末の大学への合格者は東大が43名、京大が17名、国公立大学医学部医学科が64名など、期待通りの成果をあげることができました。附設の生徒たちの、困難を勇敢に克服する意志の強さと能力の高さに改めて感銘を受けた次第です。

附設高校の文化祭「男く祭」は、疫病禍での実施が危ぶまれたのですが、昨年に引き続き今年も無事に実行することができました。防疫体制を十分整えての学校での各種催しも、久留米シティプラザでのコーラス、演舞等の演目も、全てが非常に水準の高い優れたもので、附設の生徒たちの文化的活動に対する熱意と才能が傑出していることを深く認識しました。このような優れた人材が本校に多数集結していることを、一卒業生としてもまことに嬉しく思います。

固より附設は創設以来優秀な人材を国内外のあらゆる分野に輩出し、附設の同窓生が日本と世界を強力に支えるまさに豊かな源泉を築き上げています。1950年（昭和25年）に附設高校が創立されてから2025年（令和７年）で75周年、1969年（昭和44年）に附設中学が誕生して以来2024年（令和６年）で55周年を迎えます。2025年度には、これらを記念する事業として、記念式典に加えて、第二体育館や新校舎、新寮棟の設営、いこいの森の整備などを計画しております。附設中学高校が今後さらなる発展を遂げ、これまでに劣らぬ高い水準の教育を生徒たちに提供することにより、人類の繁栄と幸福に寄与する人材を生み出し続けることを確実に実現させるためにも、同窓生の皆さまよりご助力とご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げるとともに、皆さまの今後とものご健康とお幸せを祈念いたします。

後援会長　御挨拶

御挨拶と母校の近況

後援会会長　**藤 本 剛 史**（高校41回生･中学19回生）

今年度、後援会会長を務めさせていただきます藤本剛史です。附設中学校19回生、高校41回生として卒業し、久留米大学を卒業後に産婦人科医として研鑽ののちに2015年より実家の産婦人科医院を継承開業しております。

父が高校14回生でありまた子供が中学３年生に在学中で、三世代にわたり縁のある学校に後援会として携われることを大変嬉しく存じます。

さて皆様も週刊誌やネットなどで御存知の通り、昨年度の卒業生は東大43名、京大17名、阪大４名、九大37名、久留米大（医）７名等、非常に優秀な成績を残してくれました。同窓生として大変誇らしく、今後もさらなる飛躍を期待しております。

また昨今の新型コロナウイルスの影響で行事は下記のようになりました。

2020年度

後援会総会	中止
文化祭	中止
体育祭	開催
中１のオリエンテーション	中止
高２のスキー旅行	中止

2021年度

後援会総会	委任状議決
文化祭	開催
体育祭	時期をずらして開催
高２のスキー旅行	中止

その他開催された行事も参加者の制限があるなど生徒たちには残念な期間となりました。またその間、学年別懇親会や地区別懇親会も中止になり保護者の方たちにとってもここ２年は残念な、また我慢の期間でした。しかし2022年度は今のところは行事の中止予定はなく、先日も後援会総会を３年ぶりに開催できました。久しぶりの交流の場で感染対策を行いながらも笑顔の多い会となり、非常に多数の保護者の方々にご参加いただきやはり直接の交流が必要なことを改めて感じました。今後も徐々に制限が解除されることを祈るばかりです。

さらに、2025年には75周年事業があります。先日は実行委員会が立ち上がりいよいよという時期になってまいりました。今回の事業は１号館の移設、第２体育館の建築、中学寮の建て替えを予定しています。その他、記念式典、記念誌などすべての業務には同窓会の皆様の御支援が不可欠です。後援会としましても微力ながら協力してまいります。

今後とも後援会に御支援、御協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和４年度　附設中学校高等学校後援会役員名簿

役　　職	氏　　名	新学年
会　　長	藤本　剛史	中３
副 会 長	安増　雅史	高３
副 会 長	射場 裕美子	高３
副 会 長	松尾 貴代美	高２
会計主任	林　ひろみ	中３
庶務主任	堺　めぐみ	高２
庶務主任	永江　美樹	高２
庶務主任	出口　弘子	高１
庶務主任	諸冨　智子	高１
庶務主任	小倉　容子	中３
庶務主任	森　　龍祐	中２
庶務主任	今泉　裕登	中２
庶務主任	前山　泰彦	中２
庶務主任	太田　理絵	中２
監　事	徳永 久美恵	高３
監　事	横倉　義典	高１

全国各地で様々な同窓会活動が繰り広げられています。
この『支部だより』コーナーでは、
各支部からの活動報告をお届けします。

●福岡支部●

福岡支部活動報告

「コロナ明け」の活動に向けて

福岡支部長　**実 藤 光二郎**（26回生）

福岡支部の運営は、回生代表世話人会を年２回開催し、各回生及び職域の代表世話人に参集頂き、支部総会をはじめとした活動・取組の各回生への伝達や総会出欠の取り纏め等をお願いしています。

また、県内で、有明・筑後・久留米・朝倉・筑豊・北九州の６つのOB会が運営されており、OB会が地域内同窓生の繋がりを深め、県内同窓生のネットワークを支えていただいています。

この回生世話人会とOB会の開催により、１年を通して支部総会に向けての機運を高めた上で、７月の支部総会を迎えるというのが、福岡支部の１年間の流れです。

しかしながら、令和２年の春先より始まったコロナウィルス蔓延により、令和２年度の支部総会は中止に追い込まれ、各所のOB会の開催もままならず、令和３年の総会もZOOMを使っての「完全リモート形式」開催を強いられました。

このような「低空飛行」の２年間でしたが、唯一回生世話人会だけは、従来通り会場に参集頂いての開催を行うことができ、２年12月の回生世話人会では樋口元校長先生による「附設とは」の講話、４年３月の回生世話人会では、コロナで中止となった令和２年の総会で講演予定だった31回生の小林元太さんより、「酵・醸造による地域貢献と産学連携」の演題で１時間に亘る講演を頂きました。加えて、ZOOMによる配信という新機軸にもチャレンジしました。ご参集頂きました回生世話人をはじめ関係各位には改めて感謝申し上げる次第です。

そしていよいよ、７月17日の福岡支部総会・同窓会に漕ぎつけることができました。

とは言え、昨年12月時点では今年７月の状況についての見通しもままならないため、回生世話人会を今年２月に後ろ倒しして開催しようとしたところ、コロナ第６波で３月に順延せざるを得ず、２年間のブランクによって前回生からの引継ぎに沿って準備を進めていくという従来の流れも断ち切られ、枝國源一郎新幹事長以下33回生幹事団の皆さまにとっては、短い準備期間で十分なノウハウも得られない中で、大変なご苦労をおかけしました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、結果として、皆さまへの種々のご案内が遅れ遅れとなった点につきましては、お詫び申し上げます。

まだまだ油断はできない状況ではございますが、従来の流れを踏襲しつつも幹事学年の創意と工夫を凝らして開催する支部総会、それぞれ特色を持って運営頂いているOB会の「コロナ明け」の活動に向け、臨んでまいりたいと考えております。

相変わらず至らない点も多々ある次第ですが、引き続きのご支援・ご協力をお願いいたします。

●福岡支部●

令和3年度　福岡支部　収支報告書

【収入の部】　（単位：円）

費　目	決算額	備　考
1. 前年度繰越金	3,448,633	
2. 広告等協賛金	500,000	
3. 同窓会本部補助金	370,745	2020年12月14日回生代表世話人会補助　114,015円 2021年4月17日回生代表世話人会補助　114,015円 2022年3月26日回生代表世話人会補助　142,715円
4. 寄付金	6,000	
5. 預金利息	38	
計	4,325,416	

【支出の部】　（単位：円）

費　目	決算額	備　考
1. 事務費		
印刷・通信費	2,534	同窓会当番幹事資料発送料
事務雑費	5,500	振込手数料
2. 事業費		
会議費	35,000	福岡支部運営会議(2022年1月15日)
回生代表世話人会	256,730	2021年4月17日 114,015円 2022年3月26日 142,715円
3. 翌年度繰越金	4,025,652	
計	4,325,416	

久留米大学附設高等学校同窓会福岡支部の令和3年度収支は上記の通りであり、その内容が妥当であることを確認しました。

令和4年5月13日

32回生会計幹事
新屋　潔

令和4年5月13日

33回生会計幹事
松本　孝文

●福岡支部●

令和四年度

定期総会･福岡支部総会報告

幹事長 **枝 國 源一郎**（33回生）

令和４年７月17日（日）、３年ぶりに復活した前々日早朝の博多祇園山笠フィナーレの追い山笠の余韻もさめやらぬ中、天神のソラリア西鉄ホテル福岡で、令和四年度久留米大学附設高等学校同窓会定期総会・福岡支部総会が開催されました。開催直前に新型コロナ感染者数が急増し、開催に一抹の不安がありましたが、ホテル側にもご協力頂いて徹底的な感染対策を行い、また残念ではありましたが、総会後の全体での懇親会の実施を見送り、２年前は中止、１年前はZoomを使っての完全リモート形式だった本会を、111名の出席者の息吹を感じつつ開催できたことは喜ばしい限りでした。災い多い昨今、まさに相手を思いやり和を成すことが必要であり、そのような世を救うべく、附設の仲間が、様々な形で活躍されんことを期待し、その多様性を認め合いつつ、附設の「和」の再認識につながればと願い、今回のテーマは「以恕為和　和而不同」としました。また、今年度、オンラインで会場の様子を配信することで、来場が困難な方も総会の様子を視聴する事が可能となり、ウィズコロナの流れに沿ったよき方法だったと思いました。今後、ハイブリット形式をさらに発展して開催していただければと期待しております。

まず、15:00より、福岡支部総会が開催されました。司会は、村上尚彌君（33回生）が務め、実藤光二郎支部長（26回生）の挨拶の後、岸哲司さん（22回生）が議長に指名され、活動報告、収支報告、役員改選の議題が承認されました。引き続き、定期総会が開催され、同窓会の古賀善彦副会長（23回生）に司会を務めて頂きました。物故者31名への黙祷の後、実藤光二郎福岡支部長が議長に指名され、吉田清隆会長（23回生）の挨拶、報告事項として本部活動・就職セミナー・広報委員会・附設75周年記念事業委員会・思考廻廊推進委員会についての報告、決議事項として令和３年度決算案ならびに監査の報告・令和４年度予算案・役員改選が決議され、いずれも承認されました（詳細につきましては、38ページ以降をご参照下さい）。また、この定期総会を以て退任される砂場泰浩副会長（21回生）と、新たに就任される飯沼良介副会長（36回生）が、それぞれ挨拶されました。

ご来賓として町田健校長（23回生）、ならびに総会の１週間前の参議院議員選挙で３回目の当選を果たされた大家敏志さん（34回生）から挨拶を頂きました。また、終盤には、太宰府市長の楠田大蔵さん（42回生）も駆けつけられました。なお、幹事学年担任の佐々木健治先生と堀畑正臣先生もご来賓としてお招きしておりましたが、直前で欠席となったのは残念でした。

その後、山口智太郎君（33回生）に『複職のすすめ（別業種（職種）を相互にリンクさせて仕事を効率的に進める）』という演題で講演を行って頂きました。多方面で活躍する山口君は、八木厚生会八木病院の院長兼整形外科部長でありながら、家業の株式会社山口油屋福太郎の取締役もされていて、その他の肩書はここでは書ききれないほどです。『複職』『食のレビュアーとしての活動』『めんべい誕生物語』『広東料理SESSION誕生物語』についてのお話でしたが、実に興味深い内容でした。

最後に、33回生幹事団を代表して私からの挨拶ならびに来年の幹事長の34回生井村公哉さんの挨拶を以て、無事終了の運びとなりました。

当日ご出席頂いた同窓生ならびにオンラインで視聴頂いた方々、この会報に掲載されております広告に協賛頂いた皆様、幹事団として活動して頂いた同期の仲間に、心から御礼申し上げますとともに、母校・附設と同窓生の皆さまの今後益々のご発展を祈念し、報告とさせていただきます。

●北海道支部●

令和4年度久留米大学附設高校同窓会

北海道支部便り

北海道支部長　**檀 浦 龍二郎**（20回生）

今年も北海道に初夏の訪れが感じられる季節になりました。コロナの状況も集団免疫が形成されてきたためか、流行にも少し落ち着きが見えてきました。ここ２年間北海道支部同窓会が開けず、会員の方との交流も途絶えがちになっておりました。例年６月に同窓会を開いておりましたが、今年はコロナの流行状況にもよりますが、７－９月ごろにサッポロビール園の屋外で開く予定で準備しています。開催できれば、次回の同窓会報にその様子をお伝えできると思います。札幌も今まで各種行事が自粛となっておりましたが、今年はライラック祭り、よさこいソーラン祭り、北海道神宮例大祭、大通りビアガーデンなどが、規模を縮小して開催されています。冬の札幌雪祭りも開催できればと願っています。

さて私事、2006年より北海道支部長を努めて参りましたが、今期で退任することになりました。長い間支部会員、同窓会会員各位には、一方ならぬご指導ご鞭撻を頂きありがとうございました。７月より新役員で新たにスタートいたします。次期役員は次の通りです。

支部長、理事　　：西見寿博　20回生
副支部長　　：中島泰志　35回生
副支部長、評議員：草場鉄周　41回生
監事、事務局　　：桜木　修　43回生

従来にも増して、北海道支部をよろしくお願いいたします。

（文責　檀浦龍二郎　20回生）

●関西支部●

関西支部活動報告

関西支部長 **甲斐田 郁 夫**（21回生）

昨年度は各方面のご助力もあり、Zoomでオンライン同窓会を開催することができました。本年度も多人数での会合は未だ憚られる日々が続き、これといった活動もせずに、さらに一年を無為に過ごしてしまいました。

正体が徐々に判明し対処方法も分かりかけて来た昨今、油断はできませんがコロナも小康状態となって参りました。そろそろ対面での同窓会が可能になるのではと、大阪日赤病院に勤務する63回生の今村啓明さんに相談し、６月19日（日）に学生幹事にお集まりいただき、対面で集まれるか否かの状況判断を行う事と致しました。

当日、京都大学３回生山内拓巳さん（68回生）は都合がつきませんでしたが、京都大学理学部３回生河津智也さん（68回生）と今村さんとの３人で相談の結果、以下の対応をとる事と致しました。

①各大学でも、４人程度での少人数会合は容認されている事。
②感染対策のされた場所で、大声を出さずマイクで各自が近況報告をすると言う事であれば、一同に会しての同窓会も可能であろう事。
③事の性質上、可能な時期に時をおかず開催することも肝要である事。

従って、８月６日（土）11:30～13:30に、学生が集まりやすい、京都の同志社大学寒梅館 ７Ｆ（同大学法科大学棟の最上階）のレストランウィルで関西支部同窓会を開催する事としました。なお、同レストランは次の運営方針で、同大学の管理下で運営されています。

［当店のコロナ対策への取り組み］
- お客様入替ごとの座席消毒
- 換気装置の常時稼働
- 窓や出入口の開放
- 出入口への手指消毒液設置
- 入店時の手指消毒
- 従業員のマスク着用
- 京都市新型コロナあんしん追跡サービス導入
- 尚、営業を行っている場合は、大学の指導のもと、１テーブル４名様まで、２時間を目安にご退出以上をお願いしております。

とは言え、２年半の空白は長く、学生諸氏に連絡を取れる連絡網を再構できるかや、社会人の方々に京都まで来ていただけるか若干の懸念がございます。盛会を祈るばかりです。

さて、長く関西支部の評議員を務められた21回生の横山俊祐氏が、大阪市立大学を退官し九州に戻られ、関西支部の会員資格を無くされました。後任には24回生の中路秀宏氏に、ご無理をお願いして評議員に就任していただきます。

例年、春に京都で新大学生の歓迎会、暮れの11月末に大阪で支部総会を行なって参りましたが、状況の急変に備えて、今年は８月６日（土）開催予定のこの同窓会会合を支部総会とし、同時に評議員の改選決議案も採決したいと存じます。

事態急変の折は無論の事、便宜中止致します。僥倖を頼み、無事に総会を終えられる事を願っております。

以上

（編者注：このご寄稿は７月３日付で執筆頂いたものです）

●中四国支部●

附設高校同窓会中四国支部活動状況

附設高校同窓会（2021.４～2022.６）報告

中四国支部長　近 藤 治 幸（16回生）

2020年３月末、今田忠則支部長（19回生）から近藤が引継いで以降、コロナ感染状況は依然として予断を許さず、その影響が継続していたため、定期総会をやむを得ず延期し、同様に、夏恒例の納涼会、新年懇親会も取り止めるに至って２年が経過してしまいました。

その間、メールアドレスを登録している会員に対し、2019年度支部活動報告、2020年度支部活動報告（これはそれぞれ会員に送付された同窓会報に掲載される予定の原稿です。）を事前にメール配信し、会員との情報の共有とコミュニケーションを図りました。

また、同窓会会報への会員の広告掲載にご協力をいただいた方々には、改めてお礼を申し上げます。掲載料金のうちから支部活動の財政支援として同窓会本部より還付金を頂戴していることも、合わせてご報告の上、誌面をかりまして心から感謝を申し上げます。

事務局としては、2021年度は（現在も同様ですが）、メールでの意見の交換により、意思疎通を図ってまいりました。2022年度も引き続き会員の皆様とも、メール等を活用したコミュニケーションを図っていきたいと思っています。

《活動状況》

1　2021.5.22（土）「支部長；理事；評議員の打ち合わせ会を「ZOOM会議」で試みました。

2　2021.7.18（日）の理事評議員WEB会議及び定期総会WEB会議に参加しました。

＜１、２は前年に引き続き再掲＞

3　2022.5.29（日）開催された理事評議員会に出席しました。

コロナ感染の鎮静化が見られるなか、感染対策実施の下、だだっ広い会議室で開催されました。ただし、懇親会はありません（残念ながら）。なお、中四国支部の理事・評議員で打ち合わせを行い、７月以降の懇親会（幹事会）、11月頃の定期総会について協議しました。コロナ感染の様子を見極めながら、皆さんに、開催についてお諮りしたいと思っています。

なお、コロナ禍の下、現役の方々の職務遂行のご心労に深く感謝を申し上げます。そして、行政上の対策に奔走されている方々のご活躍にも厚く御礼申し上げます。

勿論、人知れず、「必要不可欠」の行動も「自粛」しながら、感染対策を励行しておられた皆様方へも、心からありがとうございます、と申し上げる次第です。

これから、少しづつ、「日常」が戻ってくるものと信じています。

《今後のコロナ感染の鎮静と世情不安の払拭を祈念しつつ筆をおきます。》

佐賀県支部だより

佐賀支部長 **志 田 正 典**（22回生）

当支部では、昨年度も佐賀支部同窓会を開催することが叶わず、活動実績がなく、大変、残念に思っております。

そこで、今回の支部だよりは、支部同窓生の中で大変ユニークな地域活動を続けている、佐賀大学農学部教授の小林元太氏(31回生)に以下の寄稿をお願いしました。国立大学が専門分野の研究成果を活かし、日本酒を作り、販売するという取り組み、既にどこかで聴講された方もいらっしゃると思いますが、この機に、さらに同窓生の皆様に広く知って頂けましたら幸いです。

佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」

我々31回生が幹事を務めた令和２年度同窓会定期総会では、地域で活動している同窓生が多いことを踏まえて、テーマを「支える」とし、スローガンを「日本を支える附設愛～丘の上の馬鹿達の現在（いま）」としました。僭越ながら、私が講演をする予定としておりましたが、折からの新型コロナ感染拡大のためにやむなく中止となり、“幻の”同窓会定期総会となりました。しかし、それでは“可哀想だろう”という実藤光二郎福岡支部長(26回生)のご厚意で2022年３月26日に開催された福岡支部回生代表世話人会において２年越しに講演をすることができました。本寄稿は、講演を聞いてくださった皆様方には繰り返しとなるかも知れませんが、「地方大学の地域貢献と産学連携」について記したいと思います。私が、民間企業を経て、国立大学（法人）の教員になって26年が経ちました。その間に国立大学は法人化され、様々な改革がなされてきています。その国立大学法人は文科省からの運営交付金を毎年削減されており、それぞれの法人の健全な経営のための財源確保が責務となっています。また、昨今の日本を取り巻く状況は目まぐるしく変化しており、国際化が重要視されていることは言うまでもありません。しかし、そのような状況下においても、地域貢献がないがしろにされているわけでもなく、特に地方大学は地域振興・活性化に資する人材育成が求められています。私が勤務している国立大学法人佐賀大学も例外ではなく、佐賀地域の発展に資する教育研究が求められています。佐賀県は農水産業が盛んな地域であることは言うまでもなく、特に海苔の生産量は全国第一位を続けていますが、温暖化の影響もあって、その未来は順風満帆ではありません。そこで、私が農学部長の時に、「地域の農水圏生物生産・利用技術等の高度化」というプロジェクトを立ち上げ、さらに「藻類・ベントス学」という教育研究分野を新設し、佐賀県有明水産振興センターと協働で、海苔や二枚貝等の漁業資源を持続させるための研究を始めました。また、農学部附属アグリ創生教育研究センターにて栽培された米を原料とした佐賀大学オリジナル清酒「悠々知酔」の製造も16年が経ち、いまでは、佐賀大学と地場産業との地域貢献事業の目玉の一つとしてすっかり定着し、佐賀県と佐賀県酒造組合との三者共同研究契約も締結できました。当初は味や香りなどの酒質設計や造りを全て蔵元に任せましたが、学生に酒造りを主体的に考えさせることとしてから、すでに10年以上が経ちました。今春には、佐賀県内蔵元の後継者（未来の九代目蔵元）が新規酵母の分離に関する研究テーマで博士（農学）の学位を取得し、その有明海から分離した酵母による、新しい酒質の悠々知酔の開発にも成功しています。座学では分からない製造現場の様々なことを学生に学ぶ機会を与えたいという思いから始まったことが、今では学生の研究成果である酵母や乳酸菌を活かす場所にもなりつつあります。やはり地方大学の地域貢献は人材の育成、「人を育てる」と言うことに尽きるなと実感しており、その点ではやっと少しは貢献できてきたかなと自負しております。今後も学生諸君の見聞を広めて、良い人材育成のために、学生主体の酒造りを続けていきたいと思っています。また、コロナでここ数年開催できていませんが、佐賀県酒造組合と佐賀税務署のご協力により、学生を対象としたきき酒会を毎年開催して、若年層の酒離れを少しでも防ぎ、日本の文化である日本酒業界の発展に微力ながら協力していきたいと思っています。

佐賀大学農学部生物資源科学科 教授・前農学部長
小林 元太（中学９回生・高校31回生）

●長崎支部●

令和4年度久留米大学附設高等学校同窓会

長崎支部だより

長崎支部長　**安 武　亨**（24回生）

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部が令和３年11月13日（土）にWebで開催され、13名が参加しました（令和元年度は41名）。「保健衛生の仕事」長崎市市民健康部理事・保健所長本村克明（33回生）の講演会を行い好評でした。続いて支部長が議長となり総会、その後懇親会を行い自己紹介、長崎支部活性化について話し合いました。女性２名を含む学生４名の参加がありました（令和元年度14名）。開催をWebにして参加者が減ってしまいました。次回もWebで令和４年11月頃に同窓会を開催予定です。参加希望の方は福田実 E-mail: mifukuda258@nifty.com まで。長崎県北同窓会、長崎支部新入生歓迎会、長崎支部ゴルフコンペは中止になりました。長崎支部役員は支部長24回生安武亨、副支部長28回生川口哲・32回生福田実、理事32回生山縣雅義、評議員34回生松藤祐治郎、監事32回生田中邦彦・33回生尾長谷靖、幹事31回生池田裕明・32回生本村克明・38回生池松和哉、ゴルフ幹事39回生福島徹也・45回生荒木究・52回生村山直也、学生幹事長61回生北川光、学生幹事64回生松隈美佳・65回生網野伶子・65回生井上慎太郎・65回生佐藤大誠・67回生宮本優です。コロナが落ち着いて再び開催できる日が待ち遠しいです。

長崎支部長　安武　亨（24回生）
副支部長　川口　哲（28回生）
副支部長　福田　実（32回生）

●熊本支部●

ハイブリッドで卒業祝賀会、5人が次のステージへ

熊本支部長　**川 﨑　博**（ホテル日航熊本社長 16回生）

久留米大学附設高校同窓会熊本支部恒例の卒業生祝賀会が2022年３月22日、熊本市中央区上通町のホテル日航熊本で開かれた。支部総会と並ぶ熊本支部の二大イベントで、毎年、学生幹事が中心になって企画している。

今回担当したのは、熊本大学医学部３年の山中俊慶君(66回生)と的野将吾君(67回生)。前日の３月21日まで、新型コロナの「まん延防止等重点措置」が発令されていたため、準備は大変な困難を伴ったが、リアルとリモートのハイブリッドの形で、開催にこぎつけた。

この春、熊大医学部を卒業したのは、徳永成晃(61回生)、赤木涼(62回生)、徳永雄大(63回生)、持田諭(同)、熊本麻実(64回生)の５人。この日は、会場のホテルに12人、ZOOMによるリモート参加が、吉田清隆同窓会長(23回生)、町田健附設高校校長（同)、栗木康幸同窓会東京支部長(21回生)ら16人で、計28人の会となった。

まず、熊本支部長の川﨑が「祝賀会が開催できて喜ばしい。本部には、ZOOM利用でまたお世話になりました」とあいさつ。吉田同窓会長、町田校長が「附設が2025年に75周年を迎えること、母校のために多額の寄付をしていること、この春も東大合格43人、京大17人、九大医学部24人合格など優秀な成績だったこと」などを報告した。

次いで、出席した徳永成晃、徳永雄大、熊本麻実の３人が卒業できたことへの感謝と今後の抱負について語った。３人は、それぞれ八代、人吉、千葉の医療機関で働く。３人に花と記念品が手渡されると、リアルとリモートの両方で大きな拍手が送られた。

参加者の一人、昨年10月の熊本支部総会で記念講演をした熊本大学病院地域医療支援センターの谷口純一教授(29回生)もこの春、熊大を定年退官し、新たな人生を歩むということで、幹事が密かに花束のプレゼントを用意するという感動の一幕もあった。

会場とリモート参加者が全員入る形で記念写真を撮影。熊本支部副支部長である片渕秀隆熊本大学名誉教授(22回生)の乾杯の音頭で開宴した。「まん防」が解除されたこともあって、会場参加者は久しぶりのリアルの会食を楽しみ、それぞれのテーブルで会話も盛り上がっていた。

10月には、熊本支部総会が予定されており、その時はコロナ前の50－60人規模でのリアルパーティーをやりたい、と考えている。

東京支部だより

東京支部長　栗 木 康 幸（21回生）

※2021年度の活動

振り返ってみますと昨年度（2021年度）も前年に引き続きコロナにどっぷり浸かったといえる年でした。東京支部のイベントでは幹事団引き継ぎ会のようにきわめて少人数の会合を含めても片手の指で数えられるくらいの回数、しかもリモートでのイベントにとどまりました。

また附設同窓会として参加している在京の地元団体や各高校の同窓会などからも相次いで中止の連絡が舞い込み一度も出席したことはありませんでした。

そのような中、同窓会本部の重要会議の一つである拡大正副会長会議が毎月１回のペースで行われ、東京支部では支部総会、回生代表世話人会（２回）、就職支援セミナーがリモートではあるものの開催され、完全中止の対外会合が多かった中、まさにコロナに抗うような我が附設の活動ではなかったかと認識しています。

特に就職支援セミナーではリアル開催時代では困難であった、日本全国あるいは海外からの参加が多くみられ、さらにはリモートであるがゆえに散会後にも先輩後輩の垣根を越えて多くの会話が飛び交っているというまさにこれからの同窓会イベントの在り方を示唆するような光景は大いに印象的でありました。これもリーダーの大津良太副支部長(51回生)をはじめとする多くの若手同窓生のアイデアと実行力の賜ものであり、紙面をお借りして敬服と感謝を申し上げたいと思います。

※コロナシフトから通常モードへ

2022年は新規感染者数が全国でも数百人とこのままコロナ禍が収まるかに見えていましたが、わずか１か月後の２月には10万人を超えふたたび重苦しい世情になってしまいました。またロシア・ウクライナ紛争も同月に始まったと思うと時の流れの速さに驚くばかりです。

今年度（2022年４月～）は去る６月４日に回生代表世話人会をリモートで開催しました。

また創立75周年記念事業委員会が正式に発足し、東京支部としても積極的に参画しなければならないと考えています。今後議論が進むにつれ各委員会での企画や準備にさらに多くの同窓生の参加が必要になると思いますので、東京支部会員の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

さて先般の回生代表世話人会開催の案内を出しましたところ、一部のご回答の中にぜひリアルでの開催を望むとのご意見がありました。

記念事業委員会はまだ少人数ということもあり冒頭からリアルで開催されましたが、今後委員数が増えても作業の性質上リアル開催は必須だと思われます。

また東京支部におけるさまざまなイベントに関しては、コロナ以前の2019年度には20回を超える活動が報告されています。

同窓会予算においても昨年度までは、収入の相当額を母校支援に支出する方針でしたが、今年度からは本来の形に戻っています。

リアル開催のためには、コロナの状況、社会的コンセンサス、会場の規定など多くを考慮しなければなりませんが、それらをクリアできるならばリモート開催で得られたメリットも加えながら少しでも多くの同窓会員が一堂に会する機会を作れるように進めて参りたいと思っております。

●東京支部●

久留米大学附設高等学校同窓会　東京支部

令和3年度会計報告書（令和3年4月～令和4年3月）

会計担当副支部長　深野 章

【収入の部】　（単位：円）

項目	金額	備考
前年度繰越金	2,512,973	3/31通帳残2,512973円+令和3年度会場費前払い等0円
総会収支	208,906	
利息	22	
計	2,721,901	

【支出の部】

支部会議費	0	会合費（役員会）
総会関連費	0	
新人歓迎会	0	新人歓迎会に伴う会合費
附設ゴルフ	0	トロフィー代
交流費	0	他高の同窓会・久留米つつじ会等への出席
事務費	1,934	送金料、往復はがき代
小計	1,934	
翌年度繰越金	2,719,967	3/31通帳残2,719,967円+令和4年度会場費前払い等0円
計	2,721,901	

【総会収入】

会費	0	
寄付	0	同窓会本部、ご来賓、有志、幹事回生有志、当日募金等
広告	500,000	広告収入および寄付の総額のうち東京支部配分額
計	500,000	

【総会支出】

会場費	0	
交通費	42,700	取材出張交通費
冊子印刷代	0	冊子印刷・取材雑費等、広告関連費用（DM、請求書、お礼状/領収書の作成・発送）
総会雑費	131,439	ビデオ編集用ソフトウェア、ビデオ編集の外部委託費、振込手数料等
幹事会合費	116,955	幹事団打ち上げ費用、39回生との引継会
計	291,094	

【総会収支差額】　208,906

令和4年度支部活動予算（総会を除く）

支部役員活動費	200,000	会合費（拡大正副会長会、つつじ会を含む）
事業費	200,000	回生代表世話人会、就職セミナー、新人歓迎会等
合計	400,000	

活動報告（令和3年4月～令和4年3月）

2021/4/17(土)	第23回東京回生代表世話人会（37名＠WEB）
2021/4/17(土)	くるめつつじ会出席
2021/7/24(土)	第24回東京回生代表世話人会（33名＠WEB）
2021/10/16(土)	東京支部総会（WEB）

上記は当会の財産の状況を正しく表しているものと認めます。

監査担当　　髙木 裕康

令和3年度

東京支部総会のご報告

38回生幹事長　**髙 井 良 輔**

2021年（令和３年）10月16日（土）、東京支部総会をオンラインで開催いたしましたご報告となります。コロナ禍となって２年目、前年は総会のみオンラインという形であったこともあり、平常時であれば第二部の懇親会で親睦を深めて頂ける場を、今回はオンラインでどうご提供できるのか、前例がない中で我々38回生の幹事団なりに知恵を捻り出しました。その結果、我々らしくもあると思います、全く新しい様式にチャレンジしてみることにしました。

我々幹事団の想いとして、附設や久留米の町を懐かしみ、また附設生として東京支部としての歴史や価値観に思いを馳せるものを提供したいと考えました。東京支部としての幹事学年は50歳を迎える年になる訳ですが、職業人としても社会人としても大事な時期であり、より影響力の大きい立場にたっている中で、各々に附設生としての生き様を確認することが自分達には必要だったのだと今となっては振り返っております。

その内容は、幾つかの動画企画をベースにしながら、その企画に関連した先生方や同窓会関係者にスピーチを頂くというものでした。企画としては、昔そして今の久留米の街並みや、今の附設校内の景色やと生徒の学校生活、東京支部の方々は良くご存じの有薫酒蔵の寄せ書きノート、前年幹事長の丸山剛弘先輩（37回生）の力作の校歌の歴史を中心に構成しました。附設高校の企画では白水孝典教頭先生にご協力を頂き、また38回生の担任であられた松崎文雄先生にも登場頂きました。また、寄せ書きノートの企画では、高校１回生の大先輩である隈正之助先輩にも取材させて頂きました。これらも含めて、附設に対する様々な想いに触れる機会となったのではないかと思います。

元々、オンラインということで、東京支部以外の方々や海外在住の方々からも参加頂けるのではないかとの狙いもあり、また当回生だけでなく先輩･後輩の方々にも広く楽しんで頂けたらと考えておりました。実施直後にはZOOMのチャットやメールで、多くの参加者の方々から労いや称賛の温かい言葉を頂くことが出来まして、結果としては参加の皆さまには楽しんで頂けたのではないかと思っています。

以上の東京支部総会の実施報告にあたりまして、余りに多数の方々のご支援があったこともあり、一人一人のお名前をあげることは出来ずに申し訳ございません。また、今回の幹事活動を通して、38回生の仲間や先輩･後輩の幹事団の方々との交流の機会を頂きましたのは、大変貴重な機会でした。この場をお借りして厚く御礼申し上げますともに、附設高校及び東京支部、同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

久留米大学附設高等学校同窓会

東京支部総会 開催のご案内

10/15 Sat.

15:00～15:30　東京支部総会
15:45～17:30　イベント等

スパイラルホール 3F
〒107-0062 東京都港区南青山5-6-23（最寄り駅：表参道駅）

附設同窓生　各位

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、今年の東京支部総会は3年ぶりにリアルでの開催となりました。未だコロナ禍でもあり、例年のような懇親会はご用意できませんが、感染対策を講じたうえで、久しぶりに同窓生の皆さまとのリアルな交流ができれば幸いです。
Web配信も実施予定ですので、お気軽にご参加いただけますと幸いです。

2022年8月　39回生幹事団一同

当日スケジュール

受付：3Fホール
14:30～15:00

総会：3Fホール
15:00　開場
15:00～15:30　東京支部総会

15:45～15:50　来賓挨拶
15:50～17:15　特別イベント
各界で活躍する同窓生数名によるトークセッションを予定
17:15～17:25　本年度・次年度幹事長挨拶
17:25～17:30　校歌清聴

会費

リアル参加：1,000円
※シニア、一般、学生一律とします。
※定員制（先着150名）のため、事前申込必須
※定員を超える場合は、入場をお断わりする場合がございます。懇親会はございません。

Web参加：無料（事前申込必須）

申込フォーム

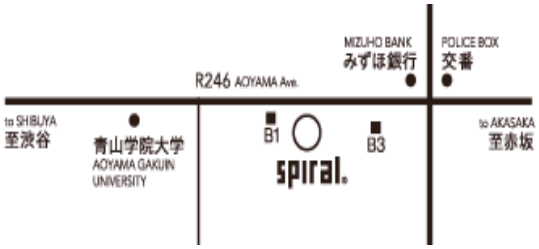
https://forms.gle/XZN9JbH58phmrU3U8

右のQRコードもしくは
上記アドレスよりお申込みください

会場案内

スパイラルホール 3F
〒107-0062 東京都港区南青山5-6-23

地下鉄
銀座線・千代田線・半蔵門線『表参道駅』下車
B1・B3出口すぐ



問い合わせ・連絡先

３９回生幹事団一同（幹事長：金城順之介）
Mail：fusetsu39_dousoukai@googlegroups.com
Tel ：090-2432-3270

松 村　　健（28回生）

1961年12月生まれ。
1986年富士銀行（現・みずほ銀行）入行、ニューヨーク勤務、M&Aアドバイザー部門、本店営業部を経て1999年GE Capitalへ転職。
1999年～2024年までGEにて子会社（オートリース＆シリコーン製販）役員を歴任。
2004年～2009年、AIUの営業担当常務執行役員。
2009年～2011年、日本マクドナルド、大型フランチャイズ担当執行役員。
2011年～2013年、産業革新機構のアドバイザーを経て、産業革新機構投資先であるUniCarriers CorporationのCIO（Chief Integration Officer）＆経営戦略室長として統合をリード。
2014年より株式会社フォーバル本社執行役員兼フォーバルミャンマー社長としてヤンゴン駐在。現在は、2022年４月よりミャンマー子会社の社長に加え、アジア５か国（カンボジア・ベトナム・インドネシア・タイ・ミャンマー）の海外グループ会社担当執行役員を兼務している。

ミャンマーだより

2021年２月１日、誰一人予想していなかった軍によるクーデターが現実のものとなったことは、周知の通りです。私は、一駐在員として2014年３月末から７年、コロナ禍の影響はあったものの、日系企業の投資・進出先として発展していくミャンマーの将来を全く疑っていませんでした。
その時の街の様子の一部を皆さんにご紹介し、個人的な想いをここにシェアさせていただきたく存じます。（左下掲載）

こういった状況が、ヤンゴン（商業的な第一の都市：旧首都）のいたるところで見られました。国民全体が、老若男女問わず、軍に対し「怒り」をぶつけていたのです。その時の驚きは、
①　何を軍は求めているのか？　このクーデターの着地点は何なのか？
ということに加え、
②　国の将来に対する特に若者たち（10代20代）の不安と子々孫々にこれを繋いではいけないという「覚悟」に触れたことだったのです。まさに死をも辞さない「覚悟」だったのです。

①については、１年４か月が経過した今を見ると、いろいろなことが分かってきています。噂の域を超えませんが、軍の後ろ盾に北のある国が見え隠れしています。機会があれば、直接お会いしてお話しさせていただきますが、ここでは触れないこととといたします。
それより、②の熱・圧力に圧倒されたのです。

私は、1961年12月、サンフランシスコ平和条約からたった10年しか経っていない日本の九州のそして福岡県大牟田市で、極めて平均的なサラリーマンの長男として生まれました。それ以来、戦争の「せ」の字も感じず触れず、平和な中、ニューヨーク駐在も経験することができ、9.11のワールドトレードセンターに一時期（1989年から1992年）勤務していた時代もありました。その後、米ソ冷戦が終焉し、資本主義とテロとの戦いの幕開けともいわれたこともありました。中国の台頭で米中貿易戦争とも言われています。ただそんな中、日本国という国体の崩壊などの恐怖に怯えたり、日本の経済が崩壊するなど寸分たりとも考えたこともありません。また、被爆国である以上、戦争に加担するなどという愚かな行為を国が選ぶ可能性を心配したこともありませんでした。
これが、世に言う「平和ボケ」なのかとも思います。

クーデターを目の前で体験し、国民の怒り・不安・涙・慟哭に触れ、ただただ呆然と見守る（？）ことしかできない「外国人」を演じきってしまっていたのです。我々のビジネスは、まさに「社会の平安」が大前提であることを、まざまざと見せつけられたのです。

ここで、個人的な政治的見解を述べるつもりは毛頭ありません。
ただ、ロシアによるウクライナ侵攻が、ミャンマーのクーデターから１年後に起きた今、世界を飲み込む激流に日本ももちろん飲み込まれているのであるということに真剣に向き合わねばならないということを、「私は、今までどのように世界を学んできたのか？　私は、今だけ自分だけ良ければいいと思って生きてこなかったか？」と、自戒の念を込めて問いかけたいのです。
附設人として、日本人として、地球人としての「熱」を失うことなく、この世にいただいた命を全うするべく、社会の平安の為、命を大切に使いたい（＝使命）と想った次第です。

今も、ミャンマーの状況は好転していません。15年ほど前、テインセイン政権の前に戻ったような状況です。私と一緒に仕事に従事してくれた社員も約20人中２名が海外留学、１名が家族ごとドバイへ移住、１名が日本へ就職、と外に出ようとしている人も増えてきましたが、一方でこのミャンマーで家族と平和を希求し生きていくと頑張っている人も多くいます。

日本人であることを感謝し、これまで生かしていただけたご恩に報いるため、少しでもこれからの社会の平安づくりに貢献することを誓い、私のミャンマーだよりを終わりたいと思います。
お読みいただき、ありがとうございました。

小椎尾 龍 介（30回生）

久留米市出身
竹中工務店国際支店アジア統括部設計主幹（シンガポール在住）
日本・ドイツ・APECの建築士資格を持ち、33年以上の設計施工プロジェクトの経験があります。京都大学大学院工学研究科修士課程終了後竹中工務店入社。1996年から2006年及び2012年から現在まで海外の支店で勤務。ミュンヘン工科大学・アーヘン工科大学などドイツの大学での講義や、WSBE（World Sustainable Built Environment）国際会議でのプレゼンテーション等、対外活動も継続しています。シンガポール国立大学（NUS）建築学部やシンガポール工科デザイン大学（SUTD）などで、講義やスタジオプロジェクトのクリティックを行っています。
竹中工務店はシンガポールで50年近く活動しており、ナショナルギャラリーシンガポールやチャンギ空港ターミナルなど、重要な建築物を提供しています。

Email: kojiosk@gmail.com
LinkedIn: linkedin.com/in/ryusukekojio
Facebook: facebook.com/ryusuke.kojio
Instagram: instagram.com/rkojio

観光客が戻ってきたマリーナ・ベイとマーライオン公園

建国50周年の2015年にオープンしたナショナルギャラリーシンガポール

コロナ禍とシンガポール

すっかりコロナ以前の姿のHaji Lane

本当はもうとっくに脱稿していなければいけない時期ながら、また本来はシンガポールで書いているはずの原稿なのですが、今関西から久留米に日帰り帰省する新幹線の中で、書き始めました。と申しますのも、日本への渡航前に受けたPCR検査で陽性判定が出てしまい、やむなく出張と一時帰国の予定を大幅に変更することになったためです。ここ２年あまりシンガポールにおいてもCOVID-19に対処すべく厳格な市民への行動統制がありましたが、この４月には欧米諸国のようにほぼ規制が無くなり、日本への往復も隔離無しで出来るようになり、街には人の流れが戻り、観光客の数も日を追って増えていっております。
（それでもPCR陰性証明が無いと入国出来ない日本は未だ厳しい国の一つです。）

コロナ禍に翻弄されたこの２年強の間、それまでは毎週のようにシンガポールから周辺国に出張していたのがパタっと無くなり、会議や打合せ、セミナーや国際コンファレンスでの発表等、あらゆることがオンラインで行われるようになりました。とても便利で楽になった反面、生の実体験が極限まで無くなってしまったことは淋しくもあります。元演劇部員・劇団員で、長年世界あちこちの劇場で生身の人間たちの舞台を観てきた私としては、この間のシンガポール生活は実に味気ないものでした。それまではヨーロッパ各国からの劇団・ダンスカンパニー等の公演が毎月のように行われ、さすが東南アジアのハブだけのことはあると喜んでいたのですが、それらが一瞬に消えてしまいました。せいぜい時々映画を観に行く程度でした。（因みに『ドライブ・マイ・カー』は名作ですね。村上春樹の短編と『ワーニャ伯父さん』を題材に構成された脚本は秀逸でした。）代わりに休日はシンガポール国内の建築・街並み巡りをしていましたが、それはそれで楽しく、一般の観光では味わえないいろいろな発見もありました。

仕事の方は最近ようやく週に半分くらいはオフィスにも行き、周辺諸国への出張も再開しつつはありますが、もはやコロナ以前には完全には戻らないだろうという気もしています。最小限の出張と対面のコミュニケーションを、オンラインやTeams等のチャットで補いながら、効率よく賢く環境負荷の少ない仕事の仕方をしていくべきなのだろうと思います。

会社人生33年のうちで、海外駐在員生活はちょうど今月で丸20年になります。ドイツ・チェコに永く住み、ヨーロッパ各国で仕事をしていた通算15年９ヶ月の間は、附設OBに出会う機会はまったく無かったのですが、2018年にシンガポールに異動して来てからは、いくつか貴重な出会いがありました。

新田圭奈子さん（61回生）は弊社に入社した2018年の秋に２ヶ月ほどシンガポールで研修をしていました。高校だけでなく大学の研究室まで同窓で、かつ同じ会社という初めてのケースでびっくりしました。今は東京の作業所で働いています。

2020年の会報でも紹介されていたシンガポール附設会に今年の２月に初めて参加したのですが、その場で関西大学環境都市工学部の木下光教授（35回生）のお名前が出て、その直後に私がたまたま講義を担当していたシンガポール国立大学でお会いする機会がありました。弊社で施工を担当したナショナルギャラリーを学生さんと一緒にご案内した後、たっぷり６時間ビールを飲みながらいろいろなお話をさせて頂きました。木下さんの後押しを頂いて、還暦直前の私ですが、来年の４月からは京都大学大学院工学研究科で社会人ドクターコースを始めようとしております。これもリモートで行われる研究室のゼミに世界のどこからでも参加出来るという新しいあり方のおかげです。既に今年度から聴講生をさせて頂いていますが、いろんな経歴の社会人の方が参加されていて、実に楽しいです。

ここまで書いてくる間に、シンガポールに戻って参りました。赤道直下の熱帯地域でありながら、本日の日中は31℃程度でしたので、この夏の日本の猛烈な暑さに比べるとだいぶん落ち着いています。街中は高く深く生い繁った街路樹が並び、直接の日差しや集中豪雨を避ける屋根付きの歩道も島全体に広がっています。熱帯の暑さと湿度との共生を図ってきたこの国の建築・都市はどんどん進化しており、快適で健康的な都市のあり方を目指す東南アジア諸国の見本となっています。

では皆様、是非シンガポールもしくは東南アジアのどこかの街でお会いしましょう！
(^^)/

ダイナミックに変わり続ける米国経済

ニューヨークのオフィスにて

吉村　晃（45回生）

福岡市出身。2001年東京大学法学部卒業後、東京三菱銀行（当時）入行。営業店勤務、官庁出向を経て、2007年より経済調査室にて各国・地域の経済・金融分析を担当。2021年６月より三菱UFJ銀行ニューヨーク駐在エコノミストとして米国経済の調査に従事。

メールアドレス
a.yoshi.221b@gmail.com

長女が通うElementary School

ニューヨークの冬はマイナス10度以下の日も

45回生の吉村晃と申します。附設では中高６年間、寮生としてお世話になりました。私は大学卒業後、2001年に現 三菱UFJ銀行に入行し、ここ15年は調査セクションで各国・地域の経済・金融分析に従事しています。銀行の本部組織は大半が東京にあるのですが、私自身はなぜか（？）東京以外の地を転々としており、名古屋、ロンドン、大阪勤務を経て、2021年６月よりニューヨークに駐在し、米国経済のリサーチを行っています。

私が赴任した時期は、米国で新型コロナワクチンの接種が進展し、経済活動が急速に戻りつつある頃でした。ただし、ニューヨークではまだ多くの会社が原則在宅勤務の体制を取っていたため、赴任後も暫くは毎日テレワークで、人と直接会えない状態が続きました。新たな職場（しかも海外）でテレワークのみというのは、何をするにも時間がかかり、情報量も限られることから正直辛く、「何のためにニューヨークに来たのだろう……」との思いもありました。この１年はオフィスのあるマンハッタンではなく、大半をニューヨーク郊外の自宅で過ごし、出張等の機会も限られましたが、今年の春先以降はようやく、オフィスが本格的に再開して人の往来が活発となり、顧客や同僚と直接会う機会も増えてきた、という状況です。

米国は国土が広く、テレワークやオンライン会議が定着しているように見えますが、欧州と比べると、最近は企業がオフィス復帰を求める動きが見られ、（特に金融業界では顕著）、新聞でも「出世するためには、テレワークをやめてオフィス勤務に戻るべきか？」といった記事を多く見かけます。もっとも、ニューヨークは米国の中でもオフィス復帰率が低く、今後のワークスタイルについて企業と従業員の間で意識の差が見られます。また、米国ではコロナ拡大初期に社員を大量にレイオフした後、従業員が戻らずに、既存の従業員も新たなライフスタイルを求めて相次いで退職する「Great Resignation（大離職時代）」と呼ばれる状況となり、空前の人手不足に陥っています。日本の労働市場はもう少し流動的になった方がよいと思いますが、米国においてもコロナ後の雇用や働き方については模索が続いています。

さて、生活面に話を転じますと、マンハッタンから電車で40～50分のEastchesterという、日本人駐在員の多い地域に家族（妻、長女）と住んでいます。日本で昨年小４だった長女は、現地のElementary Schoolでは５年生（最終学年）で、今年の秋からMiddle School（中学校）に入学予定です。米国では多くの公立校にENL（English as a New Language、またはESL：English as a Second Language）という、英語を母国語としない子供向けのプログラムがあり、サポートを受けています。もっとも、ENL以外は通常のクラスに属しており、Halloween Partyやダンスイベント、先生の思い付きで突然開かれるPizza Party等、いかにもアメリカらしい学校の様子を聞くことは、テレワーク続きの私にとって、仕事以上に米国に来たことを実感できる瞬間でした。幸い、学校は対面授業に戻っており、オミクロン株が急拡大した冬場も対面授業が続けられました。クラス内で感染者が出ても、閉鎖されずに授業が続けられたところは、日本との違いでしょうか。

ニューヨークに赴任して約１年経ちますが、この間も米国政治・経済は大きく動いており、コロナ禍からの急回復と約40年ぶりのインフレ、ロシア・ウクライナ問題への米国の対応、バイデン政権の不人気と中間選挙及び２年後の大統領選挙の行方等、エコノミストとしてネタに尽きるところがありません。米国の影響力はかつてに比べて低下したと言われますが、変化が激しくダイナミックであることは変わりなく、最近の円安の動きをみても、米国の一挙手一投足が世界経済に与える影響は依然として大きいといえます。現地での米国政治・経済の調査分析を通じて、なかなか変わらない日本に対する示唆も見出していければと思います。

かたみねのぶあき
片峯暢章
（中学36回生・高校58回生）
（伊藤忠商事株式会社）

経　歴
2015年　中央大学法学部卒
　同年　伊藤忠商事株式会社入社
　　繊維カンパニー所属
2017年 北京、2019年 寧波、2020年以降 上海、と中国本土生活は３都市目、計約３年

連絡先
nobukatamine@outlook.com

学到老,活到老
―人生ある限り、学びである―

皆様こんにちは。私、58回生の片峯 暢章（かたみね のぶあき）と申します。この度は大変貴重な機会を頂戴し、誠に有難う御座います。身に余る大役ではありますが、話題に事欠かない隣国、中国（上海）より筆を執らせて頂きますので暫し御付き合い頂けますと幸いです。

令和も４年目となり、日本は復興ムード、コロナ関連の話題も減少傾向にあると推察致しますが、話題の上海は、22年３月末より非常に厳格な２カ月間の大規模都市封鎖となりました。６月に入り、経済復興に向け、力づくで開放へ向かっている最中でありますが、まだまだ先行きは不透明、２日に１回のPCR検査が市民の日課になっている今日この頃です。日本からはとても想像し難い状況かと存じますが、当初は５日間、と告知されていた厳格な大規模都市封鎖も無期限に延長され、集団PCR検査時以外は、自宅玄関からも出ることができないような状況が約２カ月続きました。買い溜めした食品と、政府からの支給品食材で、家族３人何とか乗り切りましたが、封鎖開始直後に自宅の洗濯機が壊れ、毎日風呂場で手洗いをする生活を強いられるなど、なかなか珍しい体験をできた事は、今や家族の忘れられない思い出となっております。（笑）

封鎖の話はさておき、私自身、中国との縁が深まったのは2017年、入社３年目に北京へ短期研修生として派遣されてからです。その後は2019年に寧波の投資先中国企業へ出向駐在（オフィスには日本人一人）、そして、20年コロナ禍に上海へ。入社前に抱いた華やかな欧米駐在生活とは若干路線がずれておりますが、いつの間にかそれなりに商社マンっぽい経歴になり、何よりも巨大かつ変化の早い市場で、公私ともに充実した生活を送らせて頂いている事に感謝致しております。

一方、日本の皆様にとって「中国」は相変わらず近いようで遠い存在で、様々な意見やイメージがあるかと存じます。しかし、実際に現地で生活する一若輩者にとっては、日本より既に数歩先を行っている国だな、と感じる場面も実に多くあります。その最たるものであり、多くのモノに影響を及ぼしているのが、‘デジタル’の活用です。上海の都市封鎖に際しても、ライフラインとして活躍したのが、Wechatというスマフォアプリです。日本で例えるならば、LINEになるのでしょうが、利便性においては、前者と大きく開きがあります。封鎖中の物資購入、PCR検査管理など全てWechat等アプリ上で行いました。普段の生活においても、５年以上前から、電子決済、公共交通機関などあらゆるものがスマートフォンで済みますので、私も財布を持たずに出歩く事が殆どです。

上記は数多ある中のごく一部で、その他にも、若干の粗さや犠牲を伴った上で「やってみなはれ」を実践し、形にしていく中国の姿勢には目を見張るものがある、と個人的には考えております。国家間摩擦の相手になりがちなお隣の国ではありますが、長い歴史を振り返れば、日本が多くの事を真似（まな）んできた非常に関係の深い国である事に違いありません。イマを見て、そのトキに合わせた対象の再定義を行い、真似ぶ姿勢も持って向き合う事で、どんな国にいても、何をしていても、そこに学びや楽しみがあるのだろうな、と本寄稿を通して改めて認識させていて頂いた次第です。

当面は難しいかもしれませんが、上海にお越しの方、中華圏にご興味おありの方は、是非ともお気軽にご連絡下さいませ！

上海附設会（21年12月）
左から、26回生 牛嶋啓二先輩、
片峯本人、54回生 斉森先輩

（＊本稿は、私の個人的体験や見解であって所属する組織を代表するものではありません。）

たかだ　しょうた
髙田翔太（48回生）

出身地
福岡県太宰府市

学　歴
東京大学法学部－上智法科大学院

職　歴
現在、弁護士として髙翔法律事務所経営

連絡先
takada@kosho-lawoffice.com

「大人」の線引き変わりました!
民法改正に伴う
成年年齢引き下げに関連して

某CM「大人エレベーター」みたいなおしゃれな企画で「大人って何ですか？」と聞かれたら、皆さんはどう答えますか？

リリー・フランキーさんの「子供の想像の産物」という回答に一票を入れたい私は「老化」こそ感じれど「大人」を自分に実感することなどなく、周囲から大人とみなされる場面で最低限の立ち回りを何とかやっているのが実態です。お恥ずかしい。

さて、他者からどう「みなされる」かという観点から、今年2022年４月１日民法の成年年齢が18歳に改正されたことは見逃せない事象です。（ちなみに法律では「成人」ではなく「成年」という語句が使われます。）2002年４月２日から翌々年の2004年４月１日までの生まれの方は、生年月日ではなく2022年４月１日に成年となる日を迎えることになるので、感覚的には不思議ですね。明治９年以来のこの改正は、少年法の改正との絡みや少子高齢化における若年層の政治参加促進のための他の改正（選挙権年齢や国民投票権年齢）との整合のためとのこと。

この改正の具体的影響は、18歳・19歳が単独で（＝親の同意がなくとも）契約を締結できるようになった一方、未成年者取消権という未成熟者扱いがゆえの保護規定が受けられなくなり、一旦締結してしまった契約上の義務・責任から－それが冷静に考えれば不要不当なものであったとしても－逃れにくくなった（＝強い『キャンセルカード』が１枚なくなった！）ということです。附設在学中の18歳、親元を離れて大学生なりたて19歳、いずれも単独で、マンション賃貸借、携帯電話やクレジットカードの契約、エステや語学学校等の高額ローン契約、さらには訴訟提起、性別変更審判申立もできちゃいます。銀行カードローンは当面20歳未満には提供しない運用を取る等一定の配慮は社会上とられるようですが、仕事柄、おかしな契約は散々みているので18歳・19歳が大手とは異なる「魑魅魍魎」どもに付け込まれないかという心配はやはり払しょくしきれません。

その他言及すべきことは……在学生向けに，10年パスポート取得や多くの士業の受験要件（学術機関卒業要件等は別。）も新たな成年年齢にひき下げられたので、どんどん先取りしてほしい！　特に士業系資格試験なんか附設生には難しくないので若いうちに余技としてとっちゃうといいかも。なお、飲酒喫煙の身体系，競馬競艇等の依存系は20歳からのまま（サッカーくじは19歳）なのできちんと遵守してください。あと、お題目の政治参加を真剣に考えて頂きたい。卒業生向けには、もう多くの方にとって直接には関係しない改正なのですが、親として、18歳以上＝親権から外れた者に学費等をだすことの意味とかを御子息御息女と話し合う機会等にしてもよいのかもしれません。なお、全く別の話ですが、仮に養育費の支払を「子が成年に達するまで」等の曖昧な規定で合意していても合意当時の成年年齢＝20歳までの支払が必要になります。

本改正のおおもとの趣旨である若者の政治参加に関連して、私「センキョ割」（投票済票等の提示で協力参加店の割引等サービスが受けられる投票率向上の取り組み。一般社団法人選挙割委員会）の顧問弁護士やってます。今年の参院選ではUber Japan社等も参画していただけました。選挙割委員会の実働部隊の母体は学生ボランティアです。附設卒業の大学生，社会人の方々が勤められたり経営されたりしている企業において、協力・参画してやってもよいぞ！　という方是非お声がけください。在校生からも文化祭等での模擬選挙と地域商店街とを連携させたセンキョ割システムやりたい！　等のお声がけも待っています。

附設卒業生と思わぬところでお会いするのは成年以降の楽しみです。それは成年以後は持ちえない青年期特有の何かを附設を媒介に共有している感覚になるからでしょうか。本稿も、勝連治先輩（33回生）から弁護士による領事認証というお話を頂いたことを契機にしています。

かわ かみ ゆう ぞう
川 上 雄 三
（中学32回生　高校54回生）

福岡県出身

中学・高校　久留米大学附設中学高等学校
大学　九州大学法学部
大学院　九州大学法科大学院
2012年　日本放送協会
現在は福岡放送局で勤務

これまでの取材をまとめた書籍

“ラストツアー”に臨む財津和夫さん 4年におよぶ取材の先に

「なんとなく優しそうな、白髪頭のおじさん」。

それが財津和夫さんの第一印象でした。福岡の大スターをひょんなことから取材することになったのは2018年。私がNHKのディレクターとなってから6年が過ぎ、目標がないままなんとなく仕事に打ち込んでいる時期でした。実は財津さんは2017年に大腸がんが判明し、半年に及ぶ休養を余儀なくされていました。「福岡の大スター財津さんが復活する姿を撮りたい」。その思いがきっかけで取材をスタートすることになり、以来4年にわたって財津さんの密着取材を続けてきました。取材後はいつも見送りをしてくださるほど丁寧で温和な財津さんに、取材対象としてだけではなく、ひとりの人間として惹かれていきました。財津さんもなぜかはわからないのですが、ご自身の人生の半分も生きていない私のことを気に入ってくださり、今日まで取材を続けることができました。

思えば、附設時代、私は特に「優秀」でも「目立つ」タイプでもありませんでした。それでも、そんな私の夢や目標をいつも聞いてくれていたのが、退職された西原和美先生でした。どんなことを言っても、常に背中を押してくれた西原先生のような方がいてくれたおかげで、今の私があると思っています。

NHKで働く附設生の存在も大きいです。たまたまですが、私と同じ報道部門に同級生がいますし（しかも、生徒会で共に活動をしていた人物です）、他にもいろいろなところで附設生に出くわします。彼らの存在は、東京という縁もゆかりもない場所で働く私にとって、とても心強いものとなっています。学生の頃はわかりませんでしたが、社会に出て「附設にいてよかった」と思うことが増えました。

話を財津さんに戻します。4月にはこれまでの取材をまとめた新書を出版するに至りました。当然、執筆者である私に価値はなく、財津さんの名前あってこそのものです。それでも、私がディレクターとして取材をすることで、より多くの人に財津さんという大スターの魅力を伝えられているという事実にだけは自負を持っています。

財津さんは、今春始まったTULIPの50周年ツアーを「最後にする」といち早く私に語ってくれました。私のような若造を信頼して、取材を受け続けてくれる財津さんは、「なんとなく優しそうな、白髪頭のおじさん」から、いつしか「私のディレクター人生で欠かせない大切な存在」となっていました。取材者として、そしてひとりのファンとして“ラストツアー”を見届けたいと強く思っています。そして、これをお読みいただいた財津さんファン、TULIPファンの同窓生のみなさまにもぜひその姿を目に焼き付けていただければと思います。（私が財津さんを取材した番組は、9月19日（月・祝）夜9時30分からNHK総合で放送予定です）

小西陸斗（こにしりくと）
（中学37回生　高校59回生）

出身地　兵庫県姫路市出身
学　歴　神戸大学法学部卒業
職　歴　朝日放送テレビ株式会社
　　総合編成局アナウンス部

サッカー元日本代表FW大久保嘉人さん（右）とサウナロケへ

逆境?　でも楽しいのは附設のおかげ

今回の寄稿にあたり、附設のHPを検索し、学校紹介VTRを拝見しました。校門から校舎にかけての並木道、私も打ち込んだ文化祭の和太鼓、志高い後輩の皆さん、全くお変わりない家中潤先生……。懐かしく、間違いなく自分の青春時代はこの福岡での６年間だったなと胸が熱くなりました。夏休みには体育祭の準備や応援団の練習に勤しみ、勉強面においても先生方は夕方まで補習を行ってくださったり……。これ以上なく恵まれた環境に自分は居たんだと、今思います。

卒業から11年半が経ち、朝日放送テレビに入社して７年目を迎えました。弊社は近畿・徳島を放送圏としています。会社としては独立しているのですが、テレビ局には“系列”と呼ばれるネットワークがあり、各放送圏をもって全国をカバーしています。東京のテレビ朝日、福岡では九州朝日が同系列です。

私はいま“おはよう朝日です”という５時～８時の朝の情報番組を担当しています。福岡では“アサデス。”を放送している時間ですね。平日は毎日２時起き、朝の内に仕事が終わるといったリズムです。よく心配されますが、慣れます……国語を教えて下さった西原和美先生の言う“日常性の維持”です。毎朝、ニュース・スポーツ・芸能などさまざまな話題を伝えています。

これまでの仕事内容としては、高校野球・プロ野球の実況中継を主に担当しておりました。“朝だ！生です旅サラダ”という番組を１年半担当したこともあり、全国にいらっしゃる附設出身の皆さんにご覧いただけていれば幸いです。その他にもイベント司会・ナレーション等多岐に渡ります。

ところで、皆さんはテレビを見ますか？　今私たちは“テレビ離れ”という課題に直面しており、“マスゴミ”なんて言われたりもします。YouTube・Netflixなど個人の興味関心に合ったニッチで面白いコンテンツが溢れる中、テレビはマスメディアとして視聴者のあらゆるニーズを汲んだ、最大公約数のような番組作りであったり、様々な方面への配慮が必要だったり…苦戦を強いられております。ニュースについても今やアプリで情報収集したり、ドラマもリアルタイムで視聴することは減っています。中にはドラマを倍速で視聴する方もいるときいて驚きました。

情報番組のMCをしていて思うマスメディアの役割というのは、「視聴者への問題提起」です。事実を正確に伝えるのはもちろんなのですが、いかにニュースを他人事ではなく自分事として考えてもらうかを工夫しなければならないと感じており、そこが今の仕事の楽しさ、やりがいを感じるポイントです。

附設で得た仲間・精神が今の自分の大部分を形成しているのかなと思います。興味の赴くままに一つのことに没頭していた仲間達はまさに「好きこそ物の上手なれ」だったと思います。よく座右の銘を聞かれることがありますが、常に「和して同ぜず」と答えていて、多様な意見や考えを受け入れ、その上で自分の考えを持つように意識して日々過ごしております。同級生の結婚式などで久しぶりに会うと、「うわぁ～おじさんになってきたなぁ♪」と言いつつ附設時代を思い出し、明日への活力としています。今回このような機会を下さり本当にありがとうございました。

井上（いのうえ）　治（おさむ）（19回生）

出身地
三潴郡三潴町（現 久留米市三潴町）

学　歴
1971年　久留米大学附設高校卒業、九州大学経済学部入学
1975年　九州大学経済学部卒業

職　歴
1975年　住友電気工業(株)入社　経理部配属　伊丹製作所勤務
1977年～国内外勤務を経験
2012年　住友電装　社長
2017年　住友電工　社長

古稀を迎えて

昨年、ゴルフ場から古稀のお祝いとしてベストを贈呈され、もう70歳になるのかと思っていたら、今回附設の同窓会より寄稿の依頼を頂戴し、良い機会なので、改めて70歳になるまでの自分の歴史を振り返ってみました。

16歳で田舎の三潴町の中学より梯俊彦君、國友秀世君とともに入学。当時はまだ校舎が久留米大学商学部の中にあり、食堂・グランドも大学の施設を使わせてもらいました。途中で現在の新校舎に移りました。九州大学を卒業して1975年に大阪の住友電工に入社。経理部に配属になり兵庫県の伊丹製作所で２年過ごし、77年から２年半アフリカのナイジェリア通信工事隊で経理担当として勤務。79年に日本に帰り結婚、大阪製作所経理で11年間過ごし、この間一男一女に恵まれ、90年より米国ケンタッキー州のワイヤーハーネス（WH）会社に勤務。40歳代で６年半家族とともに米国で過ごせたのは貴重な経験でした。

96年に帰国、98年からインドネシアの電線工場に勤務、2001年からWH部門の業務部長として中国、東南アジアでのWH 関係の会社設立に奔走。この頃が仕事として一番楽しかったと思います。

2006年に四日市の住友電装に転籍、経理担当役員を３年勤め2007年に住友電工に復帰。一年もたたずにリーマンショック後のドイツのWH会社の社長として出向。2012年に住友電装の社長として帰国。2017年に住友電工の社長に就任し、今日に至ります。2008年からかれこれ12年間社長業をしていますが、必要なのは一に体力、二に気力です。元気な体に生んでくれた母に感謝しています。

女房の実家が高良内にあるので法事等で年に一回は久留米に帰り、野中からの道で附設の前を通り楽しかった高校時代を思い出します。時間が合えば同期の古賀宗次君と一緒に飲んで昔話をしています。

19回生（関東）の集まり「ふくしま夏の陣」2019年10月 強風の吾妻小富士火口（吾妻連峰）にて　左から、菅隆志、三喜英行、高橋友作、國友秀世、里村智彦、中川昭生（筆者）、山本浩介、小田惠介

中川昭生（なかがわあきお）（19回生）

出身地
八女郡黒木町（現 八女市黒木町）
学　歴
鳥取大学医学部卒
職　歴
1978年　島根医科大学　環境保健医学教室助手
1988年　島根県　浜田保健所保健予防課長
以後、県内保健所長、県庁課長、医療統括監
2018年　福島市　福島市医療政策監兼保健所長
連絡先
960-8001　福島県福島市天神町16-7
メゾン・グレース301号

福島で古稀を迎えて

猪苗代町にある野口英世記念館にて

「先生の専門は何科かね」「公衆衛生と言って地域の皆さん全体の健康を守る科ですよ」「ふーん、で、やっぱり内科かね」……（笑い）。地域の公民館で住民の方とひざを突き合わせ、時には一緒に飲みながらの語らいがたまらなく楽しい。公衆衛生を専攻して45年（大学で10年、保健衛生行政で35年）、保健師をはじめ多くの仲間と一緒に地域ぐるみの健康づくりや疾病予防システム等に取り組んできた。そして古稀を迎えた今、認知機能の低下にじれったさと限界を感じつつ、光栄にも地域の健康を守る砦である保健所で、公衆衛生史に残るコロナ対策の任を与えられている。これまでの学びと経験を総動員しての日々は充実した毎日だ。

「福島の復興支援に来ませんか」。定年を前にしたある日、福島県立医大教授の元同僚に学会場で唐突に誘われた。世界最悪の原発事故の被災地「ふくしま」には強い関心を持っていたので、公衆衛生人生の最終章として最適だと思った。信愛女卒の妻も一緒に行くと言ってくれた。かくして40年間暮らした島根を遠く離れ、新しく設置された福島市保健所に赴任した。５年前である。

赴任後たびたび訪れる福島第一原発周辺では、人が消え荒涼とした街並み、除染土壌が入った無数の黒い袋、広大な中間貯蔵施設、汚染牛の牧場等々色々と感じ学ばされることが多い。是非一度は足を運んでほしい。一方で復興は着実に進んでいる。そうした雰囲気の中で、健康なまちづくり、生活習慣病をはじめとする疾病の予防と管理、夜間や休日の医療体制確保など、職員と一緒に取り組む新しい保健所の基盤づくりが楽しい。今は新型コロナ対応がメインだが、みんなが本当によく頑張ってくれている。福島の地にはご縁があった（出雲地方の常套句）のだと思う。母の影響で幼いころから野口英世の伝記に憧れて医師を志したのだが、その出生地は囲炉裏のある雪国という程度の漠とした記憶であった。それがなんと福島県猪苗代町だったのだ！ 大喜びで記念館を訪れ、子どもの頃の気持ちに浸ってしまった。福島には、磐梯山、安達太良山、吾妻連峰をはじめ私の登山歴にちょうど良い魅力的な山がたくさんある。ロードバイクで走る阿武隈川沿いのサイクリングコースも気持ちよい。

さらに、小田惠介君(19回生)に誘われて参加させてもらっている附設19回生の関東の集まりへの出席がとても容易になった。2019年９月にはみんなで福島に来てくれた。本当に楽しいひと時だったが、その直後に台風19号、コロナ、地震で会えていない。気の置けない同級生との語らいの場は、何物にも代えがたい癒しのオアシスだ。参院選後にはコロナの取り扱い変更の動きが加速されるだろう。また酒を酌み交わしながら昔話に花を咲かせ、ともに喜寿、米寿をめざしたい。

令和２年アジア架け橋プロジェクトで来校した留学生と（男性：カンボジア、女性：フィリピン）

さと　むら　とも　ひこ
里 村 智 彦（19回生）

1952年４月　大牟田市生まれ（70歳）
1976年３月　東北大学　理学部卒
1976年４月　学校法人白菊学園　高等学校教諭
1989年５月　社会福祉法人光養会　特別養護老人ホーム事務長
1990年４月　学校法人八戸聖ウルスラ学院（旧白菊学園）　事務職員
2002年４月　同上　教諭
2006年４月　同上　教頭
2014年４月　同上　副校長
2015年４月　同上　校長
2019年４月　同上　理事長（校長兼務）
2020年４月～青森県私立中学高等学校長協会会長

メールアドレス
satochan@jomon.ne.jp

「何事にも時がある」（旧約聖書:コヘレトの言葉）

突然のことである。附設19回生同期の小田恵介君から同窓会報への原稿依頼がきた。その後、前同窓会会長で同期の高橋友作君から正式な依頼文がきた。高２・３の担任で天国にいる世良忠彦先生に向かって「え、なんでおれが」と叫んでしまった。自他共に認める文筆力（書く力）が無い人間だからである。高校時代、世良先生には随分と迷惑をかけていたことを思い出していた。しかし、断れない。二人のお願いだからである。さて、何を書こうかと、校長室の机のカバーに挟んでいる、卒業アルバムの集合写真を見ながら考えた。「なんで俺はここにいるのだろう」。福岡から遠く離れた青森に。

考えてみると、きっかけは全て附設時代にあった。

高２の時だと思う。同級生の中川昭生君と山下義昭君の「教会に行くと、女の子と話ができるよ」と言う甘い言葉に誘われ教会に行ったのがきっかけで、カトリック教会に通うようになった。不純な動機である。東北大に進むきっかけは、附設時代の浪人仲間の副田一朗君（19回生）の影響がある。高校時代はっきりとした目標が持てずにいた時、副田君の地球物理学は面白いと熱く語る姿を見ている内に、面白そうだと思うようになり、東北大学理学部物理学科に進学する事になったのである。そして仙台で出合った神父様の勧めもあり、現在の学校に理科教員として就職し、理事長・校長を務める今の私がいるのである。

学校運営の面でも、附設で受けた影響が多くある。その一つが、生徒・先生の自主性を重んじるという姿勢である。附設時代、同級生と様々な事にチャレンジし、またチャレンジさせていただいた思い出がたくさんある。特に忘れられないのが、スキー教室の代わりに行った大阪万博への修学旅行。企画は全て私たち生徒の手に委ねられ、急遽であったが、せっかくだからと京都の神社仏閣巡りツアーを提案したところ、許可され、バス１台分の希望者を集め、世良先生にガイドを務めていただき、広隆寺の弥勒菩薩などを見ることができた。附設でしか体験できなかったことである。

附設での出会い、経験があったからこそ今の自分があると思っている。そういう思いが強いので、学院の生徒達には、この学院での出会いを大切にし、何事にも積極的にチャレンジして欲しいと伝えている。

それにしても、「何事にも時がある」である。附設とその仲間に感謝。

みね　まつ　かず　お
峰 松 一 夫（19回生）

1952年12月　福岡県大牟田市生まれ（69歳）
1971年　久留米大学附設高校卒業、九州大学医学部入学
1977年　九州大学医学部卒業
1979年～82年　国立循環器病センター内科にてレジデント研修
1982年～87年　同上内科脳血管部門医師
1987年～95年　同センター研究所脳血管障害研究室長
1990年～92年　米国マサチューセッツ大学医学部留学
1995年～2010年　国立循環器病センター内科脳血管部門部長
2010年　公益信託美原脳血管障害研究振興基金美原賞受賞
国立循環器病研究センター副院長
2016年　同病院長
2018年　定年退職，名誉院長.
医療法人医誠会法人本部常務理事・臨床顧問.

メールアドレス
minematsu@holonicsystem.com

老いても学ぶ

少（わか）くして学べば、即ち壮にして為すことあり。
壮にして学べば、即ち老いて衰えず。
老いて学べば、即ち死して朽ちず。

江戸末期の大儒者佐藤一斎が、40年を費やして著した「言志四録」の1133条の中で最も有名な一節である。安政５年（1859年）に88歳で逝去した彼の教えは、160年以上過ぎた今日でも朽ちることがない。私が会長を務めた第42回日本脳卒中学会学術集会（2017年、大阪市）では、テーマを「脳卒中に学ぶ」とし、会長講演の冒頭にこの一節を掲げた。

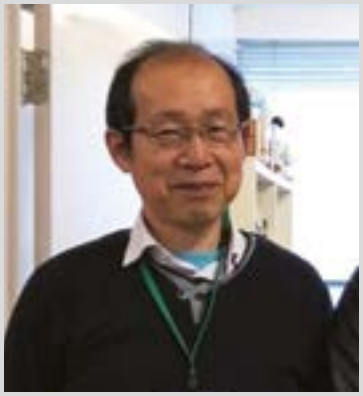
私が附設高校に在籍したのは1968～71年の３年間である。この間、キャンパス移転（御井→野中）、東京大学の入試中止、附設中新設などのトピックスがあった。大阪で万国博覧会が開催されたのも在学中で、我々は例年の大山スキー合宿の代わりに万博への修学旅行を決行した。その時は予想しなかったが、私自身は1979年から今日まで、万博記念公園のすぐ近くで働き、生活し、この43年間ほぼ毎日「太陽の塔」を眺めて過ごしている。

附設時代の３年間は寮生活であった。野中町の古びた木造の寮で、多くの寮生と同じ釜の飯を食べた。この３年間の経験、人間関係の喜怒哀楽は、その後の生き方を教えてくれた。野中寮は卒業した年に閉鎖され、キャンパス内の新設寮に移転した。

附設卒業後に九州大医学部に入学、福岡市内での２年間の初期臨床研修の後、大阪に新設された国立循環器病センター（後、国立循環器病研究センター）で、脳卒中の診療、研究、教育に携わり、最後は副院長、病院長を務めた。2018年に定年退職し、現在は大阪市内の医療法人顧問として働きながら、公益社団法人日本脳卒中協会の理事長として飛び回っている。

附設卒業から51年、古稀を迎えた私は、附設高校時代の３年間がいかに大切なものであったかを実感している。恩師、同級生、特に寮の同級生…卒業後再会できないまま既に鬼籍に入った方も少なくない。関西支部同窓会の案内が届くと無性に参加したくなる。ここで、何人かの同級生、先輩・後輩、恩師に会うこともできた。前同窓会長の高橋友作君と再会したのも、数年前の関西支部同窓会であった。コロナ禍でこの２～３年は中止状態であるが、会の再開を楽しみにしている。

少くして附設で学び、壮にして国循で学び、老いても学び続けている。「少年老い易く学成り難し」なれど、それも「また楽しからずや」である。



岡 村 和 彦（28回生）
（福岡支部・回生代表世話人）

1962年　生まれ
1980年　久留米大学附設高等学校卒業、九州大学歯学部入学
1990年　福岡歯科大学就職、現在准教授（専攻は口腔病理学）
同大学硬式野球部部長、口腔病理専門医、将棋アマ五段、青空文庫耕作員、みなまた環境大使、et al.

メールアドレス
genunsai@gmail.com
okamuk1@college.fdcnet.ac.jp
（現職在職期間のみ）

還暦の大同期会を目指して

1．同期の絆

28回生は突出して元気な学年だったそうで、先生方はもとより先輩や後輩からも太鼓判を押されます。卒後42年も経った今でもネタにされる程です。

この学年カラーに加え、関東圏は髙木裕康くんら、九州はシシこと江頭修作くんらを中心に同期生の所在がよく把握されてきた。朱雀公道くんが立ち上げ20年ほど管理し続けてくれているネット・コミュニティの力も計り知れない。卒後28年後の2007年８月に福岡市の西鉄グランドホテルで100名を優に超える同期会が賑々しく行われ、その時の集合写真が思考廻廊のパネルデザイン（2012年）の基盤となった。40代半ばの同期生の顔たちがこの先も長く母校の一角で飾り続けるはずだ。

2011年に東京支部総会、その６年後の2017年に定期総会及び福岡支部総会を28回生が担当するにあたり、この絆の強さが大きな支えになっていた。もっと小さな規模でも、誰かが上京、西下あるいは帰省すると聞けば倏ち懇親の場が出来上がりますが、各々の普段の仕事ぶりについては存外知らないものだろう。

2．28回生たちのお仕事

2017年10月21日、11月25日の両日、若き後輩たちに向けた進路指導講座は一部の同期生たちの仕事の顔を垣間見るよい機会になった。

髙木裕康くん：弁護士になるまでの道のり、実際に携わった数例の事案を具体的にイメージしやすい形でプレゼン。「元々夢だった弁護士になりたいという気持ちがさらに強まった」という男子生徒Aの感想も尤もである。

北島久くん：社会基盤の１つ“道路”のお話で、熊本地震はじめ被災地の３次元計測システムをもちいた状況解析現場の切迫感には強い感銘を受けた。「熊本地震とその後の話は、とても心に響いた」という女子生徒Bの感想は講師の狙い通りだろう。

廣松賢治くん：医師としてメジャー路線の臨床医ではなく敢えて基礎医学を志す元となった重症筋無力症の症例、留学体験を交えて、リーダシップやコミュニケーション能力も医師として重要な資質だと彼の人柄が乗り移ったような熱弁だった。

ねっちょこと、中根博くん（脳神経内科医）:「患者さんのつらさに共感でき、その解決のために行動できる人でない限り医者になるべきではない」という言葉は在校時代からブレない彼の人柄の鏡写しだった。男子生徒Cは「病気が治った際の喜びに共感して感謝されるというのは羨ましい」という感想を残している。

池田徹くん：大学教授のお仕事の実態、異種材料接合界面からの破壊防止技術について紹介。機械工学科のような古典物理学を扱うクラシカルな学科が就職に有利だそうで、インフラ中のインフラが珍重される業界の健

全さは頼もしく思えた。

東治道くん：30年ほど臨床一筋で生きてきた腎臓内科医としての視点で見えてくる医師の仕事を親しみやすく紹介。脳血流をしのぐ血液が腎臓（両腎）に供給されるなんて表現には、自身の専門性への愛が感じられた。女子生徒Ｄの“ゆるい感じで話してもらったので……”という感想もそれを裏付ける。僕らの回生の生徒会長である。

進路講座は数学の轟壽男先生、同窓会副会長の吉本幸治くん（肩書はともに当時）がキーパーソンに加わり、現行のシステムを整備されたと聞いている。

３．大使命

2017年の定期総会で同期を代表して講演し好評を博した沢畑亨くんの独創性の高い活躍を含め、国内外から聞こえてくる28回生の活躍には勇気づけられるし、終身保証付きという観点で年割にすると、実に授業料の安い学校だったなと感謝の気持ちで一杯になる。還暦という節目は、校歌に謳われている“大使命”について立ち止まって思いを馳せる好機かもしれない。

４．結び

COVID-19感染症の煽りで、同期の還暦の集いは残念なことに実施できていない。いずれ集える日が来るまで、健やかに、そして笑顔で!!

『放蕩息子の大使命　見ずや我らの附設愛』　あれから10年経ちました
2017年７月16日　於 西鉄グランドホテル（定期総会及び福岡支部総会担当直後の集合写真）

月刊誌“文藝春秋”2022年１月号掲載の

（左から）
青沼隆之（21回生）
シティユーワ法律事務所弁護士

鶴丸哲哉（21回生）
ルネサスエレクトロニクス元会長

栗木康幸（21回生）
東京エレクトロンコリア元会長

高良山麓の母校久留米大学附設高校は、昨年創立70周年を迎えた。我ら21回生の頃は、九州各県から医師を志す若者が多く集まる私立男子校だった。

現在では男女共学となり雰囲気も随分変わっただろう。私たちの時代は個性的な野武士集団。三日間ぶっ続けの体育祭や、文化祭での組対抗コーラス大会に熱中した。自由闊達な校風で恩師を先生ではなくさん付けで呼んでいた。旧制高校然とした風情だったといえるかもしれない。

私達三人は卒業後長く音信が途絶えていたが、還暦同窓会を契機に再会した。栗木君は江崎玲於奈博士のノーベル賞受賞に触発されて半導体業界へと進んだ。東京エレクトロンで主に韓国を舞台に活躍し、パスポートの韓国入国スタンプは400個になるという。現地法人会長を最後に退職後も彼の地に残ってコンサル会社を立ち上げた。コロナ禍にも拘わらず日韓を頻繁に往復し、同窓会東京支部長も引き受けてくれている。

東京都千代田区　法務省にて（撮影・杉山秀樹）

“同級生交歓”より

出版社側の許諾を得て転載しております

鶴丸君は高校時代寮暮らしで門限破りの常習。消灯後も遅くまで友人と語り合っていた。奇しくも栗木君と同じ半導体業界に身を置き、日立製作所から現ルネサスエレクトロニクスへと移り、日の丸半導体を背負った。社長を務めた後今年会長を最後に退職した。陽気な彼だが世界的な競争の中での舵取りは苦労の連続だったろう。

私は検事となり、東京地検検事正などを経て名古屋高検検事長を最後に退職し、現在は弁護士。企業の危機管理や内部統制、コンプライアンスを中心に法的助言をしている。今回はコロナ禍で大人数とはならなかったが、歴史ある法務省赤レンガ棟に集まってもらった。

母校の教育理念は、国家社会に貢献し得る誠実にして気概のある人物の育成とされている。在学中教わった「為他、至誠、和而不同」の伝統が続くことを願いたい。（青沼）

左から、手前は筆者と長野先生。
奥は奥谷尚吾、平野憲二、福島徹也。

田 上 和 宏（39回生）
（元３年Ａ組）

長野先生との想い出

長野秀樹先生を例えるなら「金八先生」。生徒の気持ちを尊重し、寄り添ってくれたお兄さんのような存在だった。想い出のエピソードがある。高３の時、先生の古文の授業に出ずに保健室で遊んでいた僕と同じＡ組のＦ君は、授業終了後、「なんで授業に出んとや？」と先生に言われた。とっさに「先生の教える授業が分からんから」と身勝手な発言をしてしまった。先生は悲しい顔をし「そうか。」とその場は終わったが、翌日、僕とＦ君は先生に呼び出され、「これで一緒に勉強せんか」と自腹で買ってくださった、古文の参考書、問題集、数冊を渡された。「ここまでしてくれたら裏切れんね」と僕とＦ君は授業に出るだけでなく、個別に問題集の添削をお願いするのが日課となった。おかげさまで、古文の苦手意識がなくなった。先生とは３年前に、長崎で同級生と一献させてもらった、変わらず良い先生だった。先生とその縁をつくってくれた学校に心から感謝している。

古 門 成 年（39回生）
（元３年Ｂ組）

大津留先生との想い出

高２の担任発表時に「ヤバい、大津留（敬）先生と２年間か」と思った記憶がある。それまで直接の関わりはなかったが、素行の悪い生徒に厳しい剛腕教師という印象を持っていたからだ。しかし、そんな先入観はすぐに覆った。

トレードマークの竹刀は誰が見ても精神注入棒だが､口癖の「バシだ！」とともに雰囲気を引き締めるだけの、そして実際はいつも手にしていないと本人が落ち着かないだけの、例えると扇子のような小道具だった。常に真剣、でもユーモアは絶やさず、そして生徒の個性や自主性をとことん尊重する先生のもと、文理混合で授業が３つに分かれたりするＢ組は「男く祭」のコーラス大会で優勝するなど、団結力はむしろ強かった。

数年前に東京地区同窓会でお会いした時は、すっかり穏やかな老紳士。でも「おお、おまえか」という先生の変わらない表情や話し方に、リーゼント頭に「バシ」を食らっていた懐かしいあの頃がすぐによみがえった。

後藤先生

小 西 智 也（39回生）
（元３年Ｃ組）

えいちゃんの思い出

後藤英治先生には高２・高３で担任をしていただきました。体育の先生特有のおっかないイメージはなく、生徒からは「えいちゃん」と慕われていました。いつもにこにこと眼鏡の奥の優しい眼差しで生徒を見守る姿が印象的ですが、もちろんエネルギッシュな面もあり、体育の授業で披露された「アラフォーの大車輪」には度肝を抜かれました。

個人的には、寮で親元離れての受験勉強でしたので、体調管理やメンタル維持の面でも大変お世話になりました。それこそ何かあったら「体育教官室」で、センター試験の直前で生えてきた親知らずの痛みのことまで相談に乗っていただきました。

卒業後も、教頭先生になられてから、退職されてから、何回かお会いする機会をいただくたび、「歩くことも立派な運動、日常生活にちょっとした運動を取り入れるだけで体力的にも精神的にも健康でいられるよ」とおっしゃいます。先生も高良山歩きの道すがら俳句を詠まれているとのことです。

城戸先生

吉 永 繁 高（39回生）
（元３年D組）

マジック城ッ戸

そのマジシャンこと城戸清先生（23回生）と初めて会ったのは高校入学時の説明会だった。緑とオレンジの数学の問題集を配り、こともなげに「入学までにココからココまでやってきて下さい」と宣い、膨大な量の宿題をくれた。それから３年間マジシャンから数学を教わったが、いつも魔法のように黒板に問題を解き、ノートに写す前に魔法のように消していった。そして我々は彼の「問題集とほぼ同じ問題なのに数字をちょっと変えるだけで劇的に難しくなる」というマジックにはまり、マジックの種がわからないまま平均点20点台をたたき出しまくった（※結果には個人差があります）。彼は私の２・３年生の時の担任だったが、彼のマジックはいつでも冴えまくっていた。センター試験が終わり、想定以上の失敗のため第一希望を某Nine大学から某Bear大学に変えた私に「志望校を変えたからって受かると思ってるの？」とおっしゃった。この予言的中のマジックの種を某Deer大学に進学した私には今でもわからない。

江上寛二先生　個展「壺中天　～いのちのふるさと～」が開催されました。

写真①

写真②

写真③

江上先生の盟友・西原和美先生が友情出品された絵はがき。「祈願高徳天」の遊印が押されています。

新緑の木陰を爽やかな風が吹き抜ける五月、朝倉市の古民家を改築した画廊・ギャラリーコバコの企画展として、江上寛二先生の画業を振り返る大規模な個展が１ヶ月にわたり開催されました。

https://gallerycobaco.com/about.html

1972年から半世紀以上、本校芸術科を支えてこられた江上寛二先生は、2013年３月に65歳で本校教諭を定年退職されてからも、本校の芸術選択科目・絵画をご担当され、昨年度まで９年間は３学年８コマ週３日、今年度からは高校１年生の２コマ週１日、美術室の教壇に立たれています。また、制作や教育活動以外にも、地元・田主丸で農業生産法人を立ち上げ、薬草の無農薬栽培などでビジネスを軌道に乗せたり、自治会長を務められたりと、75歳のいまも益々元気旺盛でご活躍されています。背筋はピンと伸び、教え子に医者はたくさんいるというのに薬は一切服用されず、「君たちの世話にはならん！」と快哉の声を上げておいでです。個展会場では、バランス感覚と体幹を鍛えるための一本足の下駄も披露して下さいました。（写真①参照）

今回の個展では、学生～20代の頃の抽象画から、水彩、水墨、陶芸や書、そして近年の「いのちのたまご」シリーズ（写真②参照）まで、訪れた人の多くが、複数の作家によるグループ展⁉と勘違いするほど、多彩多様な作品が並びました。それらの作品が木造漆喰壁の和風建築、そして庭に設置されたモダンなホワイトキューブの展示室にハーモニーを奏でるように並べられ、空間と作品が調和して心地よい波動を生み出していました。まさにパワースポット。その様子が、新聞やニュースなどマスメディアで取り上げられ、SNS等でもよい評判が拡まったこともあり、多くの鑑賞者が訪れました。（写真③参照：江上先生お勧めの「映え」スポットにて。）そのうち本校の同窓生は、芳名帳で確認できただけでも100名以上の来訪があったということです。

遠路にもかかわらず、時間の都合をつけて足を運んだ同窓生がこんなにも多くいらっしゃったという事実に、改めて江上先生の半世紀に渡る教育実践の素晴らしさ、影響力の大きさを実感しました。先生の薫陶を受けた卒業生の中から、著名な建築家や美術評論家が幾人も出ていますし、直接的に美術や芸術の道に進まなくとも、仕事の中でクリエイティブな感覚や技術を発揮したり、趣味として制作を続けていたり、日常的に美術鑑賞を楽しんだり、という方も多くいらっしゃいます。

信州大学人文学部の金井直教授（35回生）は、放送大学で美術史を講義されたり、地域のアートイベントを企画運営されたりと、美術史研究とキュレーション活動に精力的に励んでおられます。

41回生の高木崇雄氏は、大濠公園のほとりで工藝店を営みながら、日本民藝協会の理事として月刊誌「民藝」の編集長を務め、現代における生活と美について多角的な論考を発表されています。

同じく41回生で、東大医学部卒業後精神科医として研鑽を積んだ田中伸一郎氏は、今春から東京藝大の保健管理センター准教授に就任、若き芸術家の卵たちの日々の悩みに寄り添っています。（彼との縁で、今回展示の「いのちのたまご」シリーズ作品の一つが、歴代巨匠も愛用した浅尾拂雲堂の額に入り、東京藝大キャンパス内に常設されるこ

とになりました！）

進路を決めるときに医学部か芸大か迷ったという鍵本忠尚氏（43回生）は、九大医学部で学んだ後、iPS細胞を実際の治療に生かすためのバイオベンチャー企業を立ち上げ、先生がよく話をされる「三軸自在」を経営のコンセプトに据えて、上場企業の社長として頑張っておられます。

太宰府天満宮の西高辻信宏宮司（47回生）は、先生の授業を通して美術への興味関心を深め、東大文学部（美術史学専修）、ハーバード大学ライシャワー研究所で学ばれた上で、天満宮の歴史と場の力を再認識できるようなアート作品を設置したり、イベントを実施したりと、斬新な企画を打ち立てておられます。

また、今春東京藝大デザイン科に入学した萩原芽衣さん（69回生）をはじめ、近年は、毎年１～２名ですが芸術・美術系の進路を選択する生徒もいて、彼ら彼女らの今後の活躍も楽しみです。

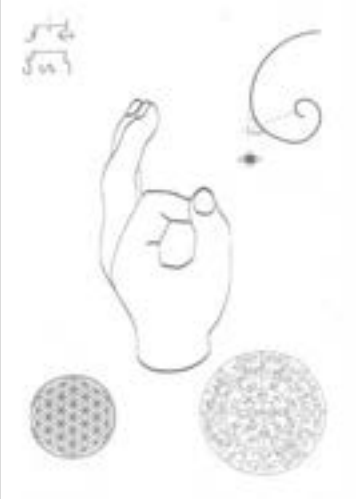
平成10年の学習指導要領改訂で美術・音楽の授業時数が大幅に減らされて以降、学校教育の現場では芸術科の十分な教育活動ができなくなったと言われます。しかし本校では、平成14年度に江上先生の提案で「芸術総合選択制」が導入され、中２～高１の３年間、「声楽・器楽・絵画・陶芸・美術工芸・書道」の中から一つを選択し、週３時間（高１は２時間）ずつ履修するかたちになりました。さらに今年度からは、時代の要請に応えるかたちで、「映像メディア表現」という新科目を開設しました。この科目では、同窓会・後援会からもご支援を受け生徒一人に一台ずつ配布したiPadを活用して、映像作品の制作に取り組んでいます。中１で美術・音楽を必修で学んだ後は、各自の特性に合わせて上記の７つから好きな科目を選択し、受験勉強に入るまでの３年間、じっくり腰を据えて、一つのことに取り組みます。そうすることで、他の分野の深みを理解し鑑賞できる感受性を養うことにも繋がっています。６年一貫だからこそできる本校独自のカリキュラムであり、近年はメディアでも取り上げられるようになりました。

（https://style.nikkei.com/article/DGXMZO66737640X21C20A1000000/）

先日、卒業アルバム用に教科単位の集合写真を撮影した際、江上先生は「前は保健体育科に混じって芸術科一人で写っとった」と仰いました。先生の赴任当初は美術１科目のみだった芸術科は、現在は７科目、８名体制となりました。今回の個展を通して、江上先生が築いて来られた附設芸術科の礎と伝統、その独自性と優位性を再確認するきっかけになりました。

本校ではほとんどの生徒にとって、芸術科の授業は受験に関係ありません。しかし、才能に溢れ、多感な中高時代を生きる生徒たちにとって、「見えないものを見る」目を養い、自らの手で独創的に世界を切り取り、それを形に変える力を身につけながら、創造的な人生を歩んでゆくためにも、芸術科は重要です。社会に出てリーダーとなるべき本校の生徒たちにとっては、むしろ必要不可欠と考えます。江上先生の益々のご健康とご活躍を祈念するとともに、附設で芸術科の授業を担当できる幸せと責任を自覚し、これからも授業にいのちをそそぎ、生徒の成長に寄り添っていきたいと思います。

（執筆：國吉房次）



三軸自在、渦巻きとフィボナッチ数列、黄金比などの概念を、拈華微笑の手印のイメージで示す江上先生の授業プリント。「いのちのたまご」シリーズにもうずまきの構図が用いられています。

國吉房次（くによしふさつぐ）
（中学19回生　高校41回生）

筑紫野市出身
東京芸術大学 美術学部 芸術学科卒業
東京芸術大学大学院 芸術学専攻（美術教育研究領域）修士課程修了、博士後期課程単位取得

附設卒業後、東京で10年学び、沖縄で10年教育研究活動に励んだのち、恩師のご退職、中学共学科に合わせて2013（平成25）年に附設に赴任しました。芸術科主任（担当科目：美術工芸）、美術部顧問、剣道部副顧問を務めています。

定期総会報告

副会長　**古 賀 善 彦**（23回生）

令和４年７月17日（日）、ソラリア西鉄ホテル福岡（福岡市中央区天神）にて定期総会が開催され、全ての議案が承認されましたので、ここにご報告申し上げます。

◆令和４年度定期総会

物故者黙祷、吉田清隆会長（23回生）の挨拶に引き続き、以下の議題について報告がなされるとともに、決議事項につき審議を経て承認されました。

議題１　報告事項

（１）本部活動報告および**（２）各支部活動報告**

中村和徳副会長（27回生）

- 会議や会合は、本部・各支部ともに基本的にはZOOMを活用したリモート会議となるも、熊本支部ではリアルとリモートを取り混ぜたハイブリッド型で開催。
- 同窓会報に掲載する広告の募集活動を、福岡支部幹事団（32回生、坂田敬幹事長）および東京支部幹事団（38回生、髙井良輔幹事長）の皆様と協働で行い、その大半となる総額7,492,500円を、昨年度に続き教育振興基金へ寄付。
- 在校生のための進路講座（2021年10月23日（土）および11月６日（土））も、例年通り、幹事学年を中心に協力。

（３）就職セミナー報告　　中村和徳副会長（27回生）

- 昨年同様オンライン開催にて2022年３月５日（土）に実施。学生23名（半数が女性）、講師14名が参加。情報提供に加え学生目線での先輩への相談しやすい関係も考慮した結果、内定報告が例年以上に多く、参加者の半数を超えた。

（４）広報委員会報告　　勝連治副会長（33回生）

次ページご参照

（５）附設75周年記念事業委員会報告、思考廻廊推進委員会報告　　島添隆雄副会長（25回生）

- 附設75周年事業委員会を2022年４月８日（金）および７月15日（金）に開催。委員長の町田健校長（23回生）のもと、後援会（藤本剛史会長（41回生））と同窓会が協調参画し、今後具体的な内容を高校と相談し、募金目標額を決定。憩いの森改修、体育部部室改修などが候補。
- 記念式典は、2025年（令和７年）11月２日（日）に久留米シティプラザで行う事となった。
- 思考廻廊委員会を設置し、未作成の回生および近年卒業生の掲示物展示の充実を図る予定。

議題２　決議事項

第１号議案　令和３年度決算案

田中英治副会長（23回生）

- 一般会計決算は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響により定期的な事業を行うことができず、予算が消化できない影響で、黒字決算となった。収入合計は1,829万円で、予算対比＋192万円。広告料収入＋105万円ならびに終身会費旧制度分＋81万円が寄与。支出合計は1,652万円で、特別会計繰入れ後の次年度繰越金は751万円と予算対比＋261万円。特別会計への繰入を勘案すれば、当初予算186万円の赤字に対し76万円の黒字となった。
- 特別会計決算は、終身会費旧制度分の34名からの納付額102万円を組み入れ、次年度繰越金は１億８,130万円となった。
- 令和３年度決算案の監査報告については、矢加部浩一監事（25回生）より、一瀬徹夫監事（13回生）とともに監査を行った結果、その内容は妥当と認められるとの説明があった。

第２号議案　令和４年度予算案

田中英治副会長（23回生）

- 概要は、収入合計が1,714万円、支出合計が1,752万円、特別会計への繰入後の次年度繰越金は653万円と、前年度から▲98万円の予算を策定。

第３号議案　役員改選

（１）会長の改選　　古賀善彦副会長（23回生）

- 会長選考委員会にて、吉田清隆会長の再任の推挙。理事評議員会でも、吉田会長の再任の推薦。

（２）理事、評議員、監事の改選

古賀善彦副会長（23回生）

- 各支部から新しい理事、評議員を選出。監事についてはご本人の承諾を得て再任を要請。

（３）副会長の改選　　吉田清隆会長（23回生）

- 砂場泰浩副会長（21回生）が退任。後任として飯沼良介2019年度東京支部総会幹事長（36回生）を推薦。それ以外の５名の副会長については再任を推薦。

令和３年度　活動報告

副会長　**中 村 和 徳**（27回生）

2021年

４月17日　拡大正副会長会議（ZOOMと会議室利用）
　　東京支部回生代表世話人会（完全ZOOMのみで開催）
　　福岡支部回生代表世話人会（会議室利用）
５月８日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
５月22日　中四国支部支部長；理事；評議員の打ち合わせ会
６月12日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
７月10日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
７月18日　附設高校理事評議員会、附設高校同窓会定期総会（完全ZOOMのみで開催）
　　福岡支部定期総会（完全ZOOMのみで開催）
７月24日　東京支部回生代表世話人会（完全ZOOMのみで開催）
８月７日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
９月11日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
　　関西支部総会（完全ZOOMのみで開催）
10月10日　熊本支部総会（ホテル日航熊本にて、ハイブリッド開催）
10月16日　東京支部総会（完全ZOOMのみで開催）
　　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
10月23日　在校生のための進路講座（附設高校で開催）
11月６日　在校生のための進路講座（附設高校で開催）
11月13日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
　　長崎支部総会（完全ZOOMのみ）
12月８日　附設高校および久留米大学表敬訪問
12月11日　拡大正副会長会議（ZOOMと会議室利用）
12月17日　東京支部幹事団引き継ぎ会議
12月18日　同窓会報28号発行、発送
12月20日　幹事団(福岡･東京）引き継ぎ顔合わせ(完全ZOOMのみ）

2022年

１月13日　東京支部幹事団引き継ぎ会議（完全ZOOMのみ）
１月15日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
２月４日　寄付金（附設高等学校教育振興基金）目録贈呈式（附設高校にて）
２月８日　広告募集制度委員会キックオフミーティング（完全ZOOMのみ）
２月19日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
３月５日　WEB就職活動支援セミナー
３月12日　拡大正副会長会議（完全ZOOMのみ）
３月22日　熊本支部卒業生祝賀会（ホテル日航熊本にて、ハイブリッド開催）
３月26日　福岡支部回生代表世話人会（会議室利用）
４月８日　附設高校入学式出席、寄付金（附設高等学校教育振興基金）目録贈呈式、75周年事業委員会（附設高校にて））

広報委員会活動報告

副会長　**勝 連　　治**（33回生）

１．2021年12月に同窓会報を発刊
２．同窓会ホームページに、お知らせと支部便りを掲載
３．同窓会が取得したZOOMのアカウントの利用規程を制定
４．母校のホームページと久留米大学の広報誌に、同窓会から教育振興基金への寄付についての記事の掲載を手配

75周年支援委員会活動報告

副会長　**島 添 隆 雄**（27回生）

１．附設高校75周年にあたり、記念事業を行う事を目的として、「附設75周年事業第１回委員会（キックオフミーティング）」を2022年４月８日（金）に開催。
　・75周年実行委員会、総務委員会、募金委員会、施設・設備委員会、式典・行事委員会、七十五年史委員会の設置が確認され、一部の委員が決定。今後、全ての委員を、中学･高校、同窓会、後援会の各組織から選出予定。
　・校舎建設等（新校舎、第２体育館、寮）については同窓会に寄付依頼はしないという報告を受けている。同窓会としてできる記念事業の内容を高校と相談し、それに伴った寄付目標額を決定したのち、来年度（2023年度）より募金を開始する予定。憩いの森改修、体育部部室改修などが候補に上がっている。
２．第２回委員会を、７月15日（金）に開催。
　・記念式典は、2025年（令和７年）11月２日（日）に久留米シティプラザで行う事となった。

思考廻廊委員会活動報告

副会長　**島 添 隆 雄**（27回生）

思考廻廊の陶板パネルがまだ掲示されていない回生および近年卒業回生分の掲示物の展示を充実するために、思考廻廊推進委員会を設置。展示には校舎内の階段に足場を設営する必要があり、費用が掛かる事から、10年ごとに追加で設置する事を想定していたところ、2012年11月の現校舎竣工から10年後としていた予定を１年繰り下げて、75周年事業と並行して実施する事とした。

令和３年度 一般会計収支決算書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

副会長　田 中 英 治（23回生）

（円）

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費（入会金）	844,000	844,000	0	4,000円×211名
会費（年会費）	3,636,000	3,616,500	△ 19,500	500円×598名×12ヶ月、500円×3名×9ヶ月 500円×1名×8ヶ月、500円×1名×7ヶ月 500円×2名×6ヶ月、500円×1名×3ヶ月
終身会費新制度分	5,678,400	5,647,200	△ 31,200	800円×598名×12ヶ月、800円×3名×9ヶ月 800円×1名×8ヶ月、800円×1名×7ヶ月 800円×2名×6ヶ月、800円×1名×3ヶ月 △返還800円×174ヶ月（前年度転退学者９名分）
終身会費旧制度分	210,000	1,020,000	810,000	
広告料収入	6,000,000	7,045,000	1,045,000	
寄付金	0	120,000	120,000	
雑収入	0	139	139	
当期収入合計	16,368,400	18,292,839	1,924,439	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,887,200	1,790,329	△ 96,871	
事務消耗品	10,000	5,470	△ 4,530	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	**100,000**	**0**	**△ 100,000**	
東京事務所費	**607,200**	**607,200**	**0**	**東京事務所賃借料**
通信費	110,000	108,916	△ 1,084	インターネット利用料　Zoomアカウント利用料　切手他
印刷費	30,000	46,090	16,090	70回生会員カード　名刺　封筒
事務雑費	30,000	22,653	△ 7,347	
2. 事業費	8,630,000	7,234,347	△ 1,395,653	
（会議関連費用）				
理事会評議員会議費	400,000	15,312	△ 384,688	
正副会長会議費	150,000	23,350	△ 126,650	
総会関連支援費	100,000	0	△ 100,000	
支部総会関連（旅費）	100,000	0	△ 100,000	
（寸志）	180,000	0	△ 180,000	
支部支援費	1,000,000	1,042,000	42,000	福岡・東京支部　各500,000円　熊本支部　14,000円　中四国支部　28,000円
回生世話人会議	300,000	256,730	△ 43,270	福岡支部
役員活動費	250,000	425,518	175,518	
（在校生等支援費用）				
生徒会援助費	450,000	300,000	△ 150,000	文化祭援助
部活援助費	390,000	233,400	△ 156,600	サッカー部 30,000円　柔道部　30,000円　合唱部　30,000円　剣道部　27,000円 軟式野球部 30,000円　演劇部 30,000円　バスケット部　30,000円　美術部　26,400円
卒業記念品代	360,000	333,696	△ 26,304	ペーパーウエイト　192個
進路指導費	350,000	124,000	△ 226,000	卒業生模擬試験経費援助
新人歓迎会補助	0	0	0	
就職セミナー費用	150,000	0	△ 150,000	
校外活動援助費	0	0	0	
（同窓会事業費）				
ホームページ管理	650,000	633,600	△ 16,400	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	3,600,000	3,717,279	117,279	会報誌（10,000部）の作成代、CPP袋印刷、発送料を含む
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	定期預金にて積立中
慶弔費	50,000	2,112	△ 47,888	
事業費雑費	50,000	27,350	△ 22,650	70回生卒業アルバム　振込手数料
3. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
3.2 母校支援費	6,500,000	7,492,500	992,500	① 5,492,500円　② 2,000,000円
当期支出合計	18,017,200	16,517,176	△ 1,500,024	
当期収支差額	△ 1,648,800	1,775,663	3,424,463	
4. 特別会計へ繰入（繰出）	210,000	1,020,000	810,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	6,755,503	6,755,503	0	
次年度繰越金	4,896,703	7,511,166	2,614,463	

令和３年度 特別会計収支決算書

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

〔収入の部〕（円）

前年度繰越金	180,279,455
一般会計より繰入	（30,000円×34名）1,020,000
雑収入	14,729
計	181,314,184

〔支出の部〕（円）

貸金庫使用料	14,300
次年度繰越金	181,299,884
計	181,314,184

財産目録	
普通預金（筑邦銀行 本店営業部）	5,187,038円
定期預金（筑邦銀行 本店営業部）	156,088,419円
定期預金（福岡銀行 久留米営業部）	20,024,427円
計	181,299,884円

終身会費納入状況（カッコ内は令和３年度中に完納された方の人数です）

2022年３月31日現在

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	62 (3)	195名 32%	33	178 (1)	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	60 (1)	195名 31%	34	186 (1)	217名 86%	50	135	200名 68%
3	67	135名 50%	19	74	205名 36%	35	159 (1)	209名 76%	51	157	202名 78%
4	75	153名 49%	20	55 (1)	209名 26%	36	176	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	79 (4)	211名 37%	37	161 (1)	199名 81%	53	163	199名 82%
6	67 (1)	159名 42%	22	79	229名 34%	38	157 (1)	210名 75%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	68 (5)	183名 37%	39	167	202名 83%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	74 (1)	214名 35%	40	123	201名 61%	56	139	205名 68%
9	64 (2)	149名 43%	25	100	220名 45%	41	89 (1)	205名 43%	57	144	199名 72%
10	76	150名 51%	26	166	223名 74%	42	108 (1)	206名 52%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	157 (1)	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	174 (1)	217名 80%	44	118 (1)	197名 60%	60	131	199名 66%
13	75	165名 45%	29	160	215名 74%	45	133 (1)	194名 69%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	177	212名 83%	46	129 (1)	195名 66%	62	141 (2)	203名 69%
15	52	161名 32%	31	160 (1)	217名 74%	47	119	194名 61%	63	141	199名 71%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	136 (1)	197名 69%	64	133	200名 67%

※なお65回生以降は、全員完納会員です。

同窓会終身会費会計報告	完納会員（３万円）	分納会員（２万円）	分納会員（１万円）
	7,407(34)名	10(0)名	52(0)名

令和３年度決算、令和４年度予算に関する補足説明

●令和３年度決算

コロナ禍により定期的事業を行うことができず、昨年度同様赤字予算に対して黒字決算となった。

○収入の部

・広告料収入については、幹事学年（福岡支部32回生・東京支部38回生）の努力により前年実績を上回る広告収入があった。

・終身会費旧制度分については、予算21万円に対し102万円の決算になった。会報送付の際、終身会費納入についてのお願い文書を同封した結果と思われる。多くの同窓会員（64回生以前）に終身会費の存在を周知徹底できるよう努力して、引き続き納入率向上を目指したい。すでに会費を納入頂いているにもかかわらず重複して振り込まれたケースがあり、ご本人の了解の上、寄付金として12万円を計上した。今年度の会報を送付する際には、未納の会員にだけ同封する予定である。

○支出の部

・定期的事業がリアル開催できずに軒並み予算を消化しなかった。

・役員活動費が超過してしまったが、３年後に控える75周年事業のための学校との意見交換会等の打合せや母校支援費の贈呈式のための出張費等が増えたためである。

・他の事業に関してはオンライン開催等で行われたため出費が減少した。

●令和３年度特別会計決算

特別会計には一般会計収入の「終身会費過年度分」が振り替えられている。前述のように納入のお願いの文書と共に、回生ごとの、あるいは回生に関係なく同窓生同士での制度の周知活動が必要と思われる。

●令和４年度予算について

社会全般でコロナの影響が少しずつ落ち着いてきているとの判断でリアル開催での事業が行われる前提で予算を計上している。

・広告料収入は昨年度と同額の600万円としているが、このうち40％ずつを福岡・東京両支部などへの「支部分配金」（「支部支援費」を改称）とし、本部の実質の収入は120万円となる。

・２年度および３年度で計上した母校支援費は、４年度では想定していない。

・高校創立75周年事業の具体的な検討立案に入るためにその活動費として100万円を予算化している。

監事の報告書

事務局より提出された令和３年度一般会計収支決算書及び令和３年度特別会計収支決算書並びに関係帳簿、書類を監査しました結果、その内容は妥当と認めます。

令和４年５月２３日

同窓会監事

氏名　一瀬徹夫

氏名　矢加部浩一

令和４年度　一般会計収支予算書

（令和4年4月1日～令和4年3月31日）

（円）

費目	令和3年度決算額	令和4年度予算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費（入会金）	844,000	864,000	20,000	4,000円×216名
会費（年会費）	3,616,500	3,720,000	103,500	500円×7,440名
終身会費新制度分	5,647,200	5,952,000	304,800	800円×7,440名
終身会費過年度分	1,020,000	600,000	△ 420,000	30,000円×20名
広告料協賛金収入	7,045,000	6,000,000	△ 1,045,000	
寄付金	120,000	0	△ 120,000	
雑収入	139	0	△ 139	
当期収入合計	18,292,839	17,136,000	△ 1,156,839	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,790,329	1,887,200	96,871	
事務消耗品	5,470	10,000	4,530	
事務備品費	0	0	0	
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	事務員給与負担金
同窓会本部予備費	0	100,000	100,000	
東京事務所費	607,200	607,200	0	東京事務所賃貸料
通信費	108,916	110,000	1,084	インターネット利用料
印刷費	46,090	30,000	△ 16,090	卒業生会員カード等
事務雑費	22,653	30,000	7,347	
2. 事業費	7,234,347	13,630,000	6,395,653	
（会議関連費用）				
理事会評議員会議費	15,312	400,000	384,688	
正副会長会議	23,350	150,000	126,650	
総会関連支援費	0	200,000	200,000	
支部総会関連(旅費)	0	100,000	100,000	
（寸志）	0	180,000	180,000	
支部分配金	1,042,000	4,800,000	3,758,000	広告協賛金収入（福岡・東京両支部各40%）　※「支部支援費」から名称変更
回生世話人会議	256,730	500,000	243,270	福岡・東京支部　各2回計上
役員活動費	425,518	400,000	△ 25,518	
（在校生等支援費用）				
生徒会援助費	300,000	450,000	150,000	文化祭・体育祭援助
部活援助費	233,400	390,000	156,600	30,000円×13部活
卒業記念品代	333,696	360,000	26,304	ペーパーウェイト
進路指導費	124,000	500,000	376,000	卒業生向け模試・激励会
新人歓迎会補助	0	100,000	100,000	
就職セミナー費用	0	250,000	250,000	
校外活動援助費	0	0	0	
（同窓会事業費）				
ホームページ管理	633,600	650,000	16,400	会員管理システム・ホームページ管理料等
会報	3,717,279	4,000,000	282,721	会報誌(10,000部)の作成代、CPP袋印刷、発送料、広告募集代を含む
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	2,112	50,000	47,888	
事業費雑費	27,350	50,000	22,650	振込手数料等
3. 予備費	0	1,000,000	1,000,000	
3.2 母校支援費	7,492,500	0	△ 7,492,500	
3.3 75周年事業活動費		**1,000,000**	**1,000,000**	
当期支出合計	16,517,176	17,517,200	1,000,024	
当期収支差額	1,775,663	△ 381,200	△ 2,156,863	
4. 特別会計へ繰入（繰出）	△ 1,020,000	△ 600,000	420,000	終身会費旧制度分
前年度繰越金	6,755,503	7,511,166	755,663	
次年度繰越金	7,511,166	6,529,966	△ 981,200	

久留米大学附設高等学校同窓会　令和４年・５年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	8	井手和英
2	福岡	10	古賀暉人
3	福岡	13	長谷川房生
4	東京	19	高橋友作
会長			
	東京	23	吉田清隆
副会長			
1	福岡	23	古賀善彦
2	福岡	23	田中英治
3	福岡	25	島添隆雄
4	東京	27	中村和徳
5	東京	33	勝連　治
※6	東京	36	飯沼良介
理事			
1	山口	10	原　好弘
2	中部	14	安井健三
3	中四国	16	近藤治幸
4	東京	19	小田惠介
5	福岡	19	天本敬吾
※6	北海道	20	西見寿博
7	福岡	20	橋本和幸
8	東京	20	安部政信
9	東京	21	栗木康幸
10	関西	21	甲斐田郁夫
※11	東京	21	砂場泰浩
12	福岡	22	松雪恵津男
13	東京	22	中村尚昭
14	佐賀	22	志田正典
15	福岡	26	実藤光二郎
16	東京	26	原田　稔
17	東京	28	高木裕康
18	熊本	30	西　芳寛
19	長崎	32	山縣雅義
20	福岡	34	秋本丈司
21	校内	41	坂田真一
22	校内	49	伊藤省吾
監事			
1	福岡	13	一瀬徹夫
2	福岡	25	矢加部浩一
支部長			
1	山口	10	原　好弘
2	中部	14	安井健三
3	熊本	16	川﨑　博
4	中四国	16	近藤治幸
5	大分	19	藤原公司郎
※6	北海道	20	西見寿博
7	関西	21	甲斐田郁夫
8	東京	21	栗木康幸
9	佐賀	22	志田正典
10	長崎	24	安武　亨
11	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈　正之輔
2	福岡	3	安恒好太郎
3	福岡	4	丸林茂夫
4	福岡	8	中村　晃
5	福岡	11	重永征廣
6	福岡	13	宮本祐一
7	福岡	15	平田三郎
8	福岡	16	中野　博
9	山口	16	小野康行
※10	熊本	17	砥上幸一郎
11	福岡	17	武田由照
12	福岡	18	村岡和彦
13	福岡	19	横山晴明
14	東京	20	山下喜弘
15	関西	20	山本伸一
16	福岡	21	小林隆利
17	福岡	21	林　公彦
※18	熊本	22	片淵秀隆
19	福岡	22	山口博徳
※20	関西	24	中路秀宏
21	福岡	25	宮原信孝
22	福岡	25	川口武壽
23	福岡	25	山口佳秀
24	福岡	26	藤田幸也
25	福岡	27	執行謙二
26	福岡	27	佐々木郁夫
27	福岡	28	吉本幸治
28	中四国	28	田代　聡
29	中部	29	荒巻卓博
30	福岡	29	森　明彦
31	東京	29	日高雄三郎
32	福岡	30	尾籠博光
33	東京	30	坂本　格
※34	福岡	31	竹下正敏
35	福岡	31	森田　昇
36	佐賀	31	小林元太
37	福岡	34	永田八栄
38	佐賀	34	中里栄介
39	長崎	34	松藤祐次郎
40	東京	35	高尾野　健
※41	東京	36	諸岡健雄
※42	東京	38	高井良輔
43	福岡	39	古賀　篤
※44	北海道	41	草場鉄周
45	福岡	41	川野武志
46	福岡	42	楠田大蔵
47	東京	43	深野　章
48	福岡	45	橋本道成
49	中四国	45	関　太一
50	東京	47	淺枝謙太
51	東京	47	中嶋雅宏
52	東京	50	山口雅彦
53	東京	50	大津良太
54	東京	50	福島智史
55	東京	57	竹下知宏
56	東京	59	尾家杏奈
57	東京	60	岩崎里子
58	関西	61	佐伯洋輔
59	関西	64	廣田　律

※は新任　　（敬称略）

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人

回生	氏名		
1			
2	石橋義昭	中村幸孝	
3	安恒好太郎	大場清隆	
4	日野俊二	中村和正	
5	関順治	高木俊夫	
6	野田尚一	小吹学	
7	松本保正	柿原大督	鶴史雄
8	近藤豊	木下兼吉	
9	城戸英喜	永野盛文	
10	橋本明	中島正利	
11	今里克己	重永征廣	
12	大塚哲也	梅野正裕	
13	荒尾清	小江俊行	
14	大藪誠也	上村修一	
15	福井英二	古澤生敏	
16	中河原哲朗	箱田啓樹	
17	赤司務	福山明	
18	村岡和彦		
19	横山晴明	山口浩生	
20	橋本和幸	武藤邦弘	
21	一ノ瀬元史	高島光	
22	古田司	松雪恵津男	
23	古賀善彦	大野康	
24	小鶴章人		
25	山口佳秀	矢加部浩一	
26	実藤光二郎	新里祐一	
27	佐々木郁夫	高岸智也	
28	江頭修作	岡村和彦	
29	猪飼秀隆	箱嶋雅敏	
30	佐藤茂	古村尚	
31	森田昇	竹下政敏	
32	坂田敬	東晃一	
33	枝國源一郎	渡邊暁	
34	秋本丈司	永田八栄	
35	津福一宏		
36	眞﨑義憲		
37	平野長暁		
38	冨田憲嗣		
39	田上和宏	藤野恭誠	
40	兼行孝幸	古賀哲明	
41	川野武志	富永泰輔	
42	中島研	楠田大蔵	
43	陣内幸史郎	池田昌太	
44	本江嘉将	花吉哲芝	
45	岡本慎太郎	橋本道成	
46	出納正樹		
47	熊谷善昭	小原尚利	
48	北島晧興	山口剛弘	
49	森山裕司		
50	熊丸陽亮		
51	植高貴寛		
52	千代田明久	池辺健太	
53	佐藤孝志		
54	橋本智之	服部幹	
55	井上朝雄		
56	大澤めぐみ	嶋田寛之	岩尾和紀
57	足達咲希	中島孝輔	
58	山下華代	渡邊翔太郎	布花原麻貴
59			
60	二宮彬	村上龍之介	
61			
62	笹栗誠	田中雄士	
63			
64			
65			
66	冨重紀貴		
67	松崎広太		

東京支部回生代表世話人

回生	氏名			
1				
2	加藤勝文	一郡透		
3	野田隆昭			
4	柳昌憲	佐々木進		
5				
6	鹿毛剛	山ノ内盛光		
7	武藤正之	大石弘利		
8	井樋克之			
9	星野英東	戸澤眞也		
10	佐伯信雄	稲田昌秀		
11	橋本雄二			
12	林章			
13	櫛山寿夫	阿志賀雄二		
14	久保田徹			
15	楠田宙生			
16				
17	中本祥一	安永裕相		
18	藏守俊昭	宮本博幸		
19	國友秀世	高橋友作	小田惠介	
20	安部政信			
21	渡辺恵治孫	松村太吉	栗木康幸	
22	中村尚昭	都合寛		
23	吉田清隆	持松和弘	板垣大樹	
24	田中賢司	齊藤力		
25	田中浩一	篠原彰考		
26	原田稔	古橋宏明		
27	中村和徳	上羅豪	古川幸稔	
28	髙木裕康	古賀秀雄		
29	日高雄三郎	大口智文		
30	唐澤達信	坂本格		
31	北島誠也	大村和範	松田聖路	
32	内山修造	佐藤正一	末永和之	
33	木内大	吉開章	勝連治	
34	工藤宏記	阿部高士	田中昭彦	
35	小宮山郁太郎	高尾野健		
36	堀達也	真栄城正	飯沼良介	
37	洞幸司	松本義久		
38	植木正光	高井良輔		
39	福山泰平	古門成年		
40	加藤寛	児玉雄介		
41	白木淳二	相部任宏		
42	清田陽司	見満周宣		
43	深野章	山口桂右		
44	秋本晃伸			
45	中村雄一郎			
46	宮田知明	伊藤周	吉武宏晃	
47	淺枝謙太	中嶋雅宏	光成洋二	
48	平川翔	泉建太郎	吉岡宏起	
49	牟田秀俊			
50	山口雅彦			
51	大津良太	行時直也		
52	喜多村健人			
53	梅井正彦	大神征爾		
54	田邊裕貴	椿聡一郎		
55	山本航平	五十嵐丈鑑		
56	光安麻理恵	安丸佑平		
57	石田大典	宮尾采佳		
58	廣兼佑亮	中島英恵		
59	城戸祐亮	尾家杏奈	為近崚太	
60	畔柳駿一	三原裕介	井手俊晴	
61	與島仙太郎	山本舜介	江崎隆一郎	
62	川野秀太郎	坂口華奈子		
63	冨永勇貴	上田弦		
64	入江啓介	古川敦大		
65	平松昂	白地立		
66	石川惣一朗	杉原菜月		
67	下山拓光	山﨑裕大		

福岡支部職域代表世話人

福岡市役所

33回生　本村和也

九州電力

37回生　平野長暁

西日本鉄道

36回生　上野潔

福岡県庁

38回生　豊村謙治

福岡銀行

45回生　小澄洋光

東京支部職域代表世話人

霞が関等附設芙蓉会

21回生　青沼隆之

（敬称略）

附設高校同窓会 正副会長 プロフィール

吉田清隆（よしだ きよたか）

回　生　23回生
役職・担当　同窓会会長
近　況　6月末で42年3ケ月の外航海運業サラリーマン生活を満了しました。これからは趣味の家庭菜園と折り紙を極めるべく晴耕雨折に移行します。
在校時の思い出　夏休みは学校からキャンプ用テントを借りて友人と甑島(高1)、壱岐(高2)、五島(高3)へ海遊びに出かけ、高２の春休みはサイクリングで四国・関西遠征、補習科（高４）の夏休みは浮羽郡のお寺で朝夕6時の鐘つきと受験勉強合宿生活を楽しみました。

退任 砂場泰浩（すなば やすひろ）

回　生　21回生
退任挨拶　2018年から2期4年副会長を務めさせて頂きました。
今般退任を申し出たところ、後任に飯沼さんという素晴らしい方が副会長を引き受けてくださることになり、安心して、副会長の職を辞することできます。在任中は、広報担当として、主に会報の制作に携わっておりました。執筆推薦、執筆依頼、執筆等を始めてして、皆さまには多大なご協力を頂きありがとうございました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。
今後も同窓会活動に関してお役立つことがあれば　お手伝いさせて頂ければと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任 飯沼良介（いいぬま りょうすけ）

回　生　36回生
役職・担当　同窓会副会長　思考廻廊担当
近　況　事業の成長を支援する投資ファンドの代表を務めております。過去の投資先には本間ゴルフ、ゴルフパートナー、ビアードパパのシュークリーム、ステラおばさんのクッキーなどがあり、どこかで皆様に大変お世話になっていると思います。
在校時の思い出　卒論で文部大臣賞、テニスで県大会出場と15歳で人生はピークアウト！！高校ではスキー委員長、イブニング附設司会など主にエンターテイメント系担当。高1の通信簿には、学校生活（勉学以外）を楽しみすぎですという有難いコメントを頂きました。

古賀善彦（こが よしひこ）

回　生　23回生
役職・担当　同窓会副会長　総務担当

田中英治（たなか えいじ）

回　生　23回生
役職・担当　同窓会副会長　財政担当

島添隆雄（しまぞえ たかお）

回　生　25回生
役職・担当　同窓会副会長　75周年支援担当

中村和徳（なかむら かずのり）

回　生　27回生
役職・担当　同窓会副会長　IT・名簿、支部組織化担当

勝連治（かつれん おさむ）

回　生　33回生
役職・担当　同窓会副会長　広報、広告担当

歴代会長

（カッコ内は回生）

〈初代〉西牟田忠志（1）
〈二代目〉國武　格（3）
〈三代目〉井手和英（8）
〈四代目〉古賀暉人（10）
〈五代目〉長谷川房生（13）
〈六代目〉川嶋文信（19）
〈七代目〉高橋友作（19）
〈八代目〉吉田清隆（23）

2022年度
就職支援セミナー実施報告

大 津 良 太（51回生）
東京支部　副支部長

【実施日時】
2022年３月５日（土）10時～12時

【実施形式】
オンライン

【事務局･講師･参加者】
事務局　57回生竹下知宏、
　　66回生宮瀬崇琉（2022年度入社内定者※セミナー過去参加者）
講　師　事務局メンバー含め14人
参加者　23人（うち、ファミリー１人）

【総評】
昨年に引き続き、オンラインで実施となった。
①社会人、学生の１分間自己紹介
②ブレイクアウトセッションを活用した座談会
を行った。
　就職活動へ対する情報提供はもちろんであるが、それ以上に、セミナー後の「先輩へ相談しやすい関係値づくり」を重要と捉え実施した結果、事後相談および、事後報告が例年以上に多かった。
　オンライン実施における課題は特にないものの、コロナの状況を踏まえ、リアル開催／ハイブリッド開催を今後検討していきたい。

　また、昨年セミナーに参加し、内定を勝ち取った66回生宮瀬が今回事務局として、集客および運営にて奮闘してくれ、盛会となった。
　今後も、就職活動支援活動、同窓会活動がサステナブルな活動になるよう、学生や若手社会人との連携を強めていきたい。

令和3年度
進路講座感想集

第 1 講座
SIer企業での働き方
坂口 華奈子 先生(62回生、企業)

第 2 講座
医師という職業選択、麻酔科の仕事について
中島 英恵 先生（58、医学）

第 3 講座
「就社」ではなく、「就職」をしよう
安達 誠司 先生（32、金融）

第 4 講座
宇宙開発という仕事
猿渡 英樹 先生（38、宇宙開発）

第 5 講座
国家公務員の仕事について
廣兼 佑亮 先生（58、行政）

第 6 講座
放送されない裏方の話
野村 祐一郎 先生（58、企業・メディア）

第 7 講座
人工知能研究の最前線と社会への応用
川上 和也 先生（58、企業・IT）

第 8 講座
起業家としての生き方について
孫 泰蔵 先生（39、起業家）

第 9 講座
Webサービスを作る仕事
平山 いずみ 先生（59、IT）

第10講座
形成外科を知ろう！
岡村 友保子 先生（59、医学）

第11講座
医学部に進学すれば、どのような未来が待っている？
松永 和人 先生・久本 優佳里 先生（32・59、医学）

第12講座
社会の中の医師として、役割をどう果たすか
的場 哲哉 先生（38、医学）

第13講座
次代のインフラを作る
森山 泰明 先生（38、インフラ）

第14講座
日本を飛び出して仕事をする
岡本 達哉 先生（48、企業・生活）

第15講座
楽しいインターネット業界のご紹介
宮田 大督 先生（48、企業・IT）

第16講座
社会課題をホームセンターが解決
柳瀬 隆志 先生（43、企業・小売）

「勝手」進路講座
孫 泰蔵 先生（39）・武内 和久 先生（38）・井上 和久 先生（47）

坂口 華奈子 先生（高校62回生／株式会社オービック 人事部）

第１講座 企業

SIer企業での働き方

【講座概要】

〈自己紹介〉〈進路選択〉〈IT業界とは〉〈SIer（システムインテグレータ）とは〉〈オービックについて〉〈質疑応答〉

【講義の感想】

私は高校から入学したので、今回が初めての進路講座だった。社会で活躍されている先輩方のお話を直接聞くことができ、進路講座とはこんなに面白いものなのかとびっくりした。坂口先生の講座の中で、決断をするときは「理由」を深く考え重視するということと、これからの人生での選択基準をつくるためにたくさんの経験を積むと良いという２点が特に印象に残った。これから進路だけでなく様々な選択をする時には、今回の坂口先生のお話を思い出すと思う。

文責：高１Ａ　緒方　杏菜

中島 英恵 先生（高校58回生／さいたま市立病院麻酔科 専修医）

第２講座 医学

医師という職業選択、麻酔科の仕事について

【講座概要】

〈医学部を目指した理由〉〈慶應義塾大学医学部について〉〈大学生活について〉〈医者としての経歴〉〈麻酔科の仕事について〉

【講義の感想】

今回のお話を聞く以前はほとんど医者について知らず、大変そうだなぁーとしか思っていなかった。また私は進路がまだ決まっていなかったが、医者になるという選択は考えていなかった。そのため今回のお話では勉強になることが非常に多くあった。特に記憶に残ったのは初期研修である。先生は「野戦病院」で、しかもいきなり様々なことをやってみるという生活をしていたと聞き、意外だったと同時に、若いころだからこそできたことだが相当鍛えられたのだろうとも感じた。また医師になるための一般的なコースもご紹介いただき、改めて体力的にも精神的にも医者になること、そして医者として働き続けることは非常に大変だということを学べた。この話を聞き、医者を将来の一つの選択として考えるようになった。

文責：高１Ｅ　大城　義和

安達 誠司 先生（高校32回生／日本銀行 政策委員会審議委員）

第３講座 金融

「就社」ではなく、「就職」をしよう

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設時代・大学時代〉〈お仕事の話〉〈転職のメリット、デメリットとは？〉〈経済学とはどんな学問か？〉〈学生へのメッセージ〉

【講義の感想】

安達先生は講演で、３時間しか寝られないほど厳しく過酷な環境で「幸せに」働いていたのは、経済学が大好きでエコノミストの仕事を楽しんでいたからだとおっしゃっていた。学問に「ハマる」という体験をまだ私はしたことがないが、確かに、自分の好きなことを専門とし自分なりに探究して、更にそれを仕事にできるというのは余程楽しくて幸せなことなのだろうと思う。私も、大学でそんな学問を見つけてぜひ探究してみたい。

とはいえ、まずは受験を突破して大学に入ることが必要だ。後日、安達先生からメールで応援のお言葉を頂いた。

「目先の受験で、結果としてどの大学に入学してもよいので、『やり切った感』を味わえるように勉強していただくのがよいかと思います。受験が不完全燃焼でくすぶり続けている人というのが社会人になっても割といて、そういう人はあまりハッピーな生活を送っているような感じがしないので、受験は結果がどうであれ、やりきった方がよいと思います。まだ、先のことですが、受験がんばってください。」

安達先生の他にも、「高校生の時期に何をしていたかがこれからの人生に影響を与える」と、多くの大人の方々がおっしゃっている気がする。私はまだ16年程度しか生きていないので分からないが、高校時代に、困難（大学受験も含め）を必死で乗り切ろうとした経験が、その後の人生随所の壁を乗り越える上で糧となるのかもしれない。段々と時の流れが速くなってきたように感じるが、一日一日を大切に過ごしていきたい。

文責：高１Ａ　林　　洋希

猿渡 英樹 先生（高校38回生／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）有人宇宙技術部門 有人宇宙技術センター 技術領域主幹）

第４講座 宇宙開発

宇宙開発という仕事

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設時代〉〈お仕事の話〉〈宇宙関連の仕事につくには〉

【講義の感想】

私は、小さい頃から宇宙に興味を持っていたこともあって今回実際に宇宙開発の最先端で活躍されている猿渡先生に直接お話を伺えるのをとても楽しみにしていました。講座ではJAXAでの仕事内容を細かいところまでお話しいただき、進路についても先生自身の経

験を基に様々なアドバイスをいただき、これからの進路選択で参考にしていきたい話が多くありました。また、先生が講座の中で迷ったら難しい方へ進む、とおっしゃっていたのを聞いて、私も難しいこと、大変なことから逃げずに何事にも挑戦していき、先生のように自分の好きなことを見つけてそれを仕事にすることができたらいいなと思いました。

文責：高１Ｂ　中尾　桐子

廣兼　佑亮 先生（高校58回生／経済産業省 資源エネルギー庁 電力産業･市場室 室長補佐）

第５講座 行政

国家公務員の仕事について

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設時代〉〈お仕事の話〉〈学生へのメッセージ〉

【講義の感想】

私が今回、廣兼先生を担当させていただいた理由は、国家公務員の働き方の実情を生の声で聞きたかったからだ。日々国民からの批判にさらされながらも、日の丸を背負って、答えのない問いに真摯に向き合い続けている廣兼先生の情熱を間近に感じることができ、かっこいいなと思った。ここからは、１限目と２限目の両方聞いた者として、それぞれ感想を述べる。

１時間目は、多様な課題を取り扱う経済産業省の仕事の魅力が印象に残った。脱炭素化という国家の一大目標を実現するために、経済産業省が主体となって日本の産業界に働きかけていることが分かった。また、キャッシュレスポイント還元における消費者のデータをめぐった経済安全保障の考え方は、私にはなかった発想であり、新鮮で興味深かった。同時に国の政策次第では、全国民の情報が外国に流出する可能性もあり、経済産業省の責任感の重さも痛感した。

２時間目は先生が国家公務員になられた理由や、働く中での率直な感想が心に残った。私自身インターネット上で色々な国家公務員の口コミを見てきたが、先生のお話を聞くことで、それまで持っていた国家公務員のネガティブなイメージが180度変わった。特に先生が何度も強調なさっていた「様々な分野の人と関われる」という魅力を知り、再び国家公務員に興味を持つことができた。また大学では自分の好きなことを学んでいいという言葉にも勇気づけられた。先生がおっしゃるように、まだ自分の将来像を決めつけずに様々な社会経験を積みたい。その結果、自分の興味と合致した場合は、国家公務員という仕事も候補に入れたいなと思った。また、国家公務員として海外留学する際に備えて、高校、大学と日々の英語学習を続けたいと強く思った。

文責：高１Ｄ　田上　裕樹

野村　祐一郎 先生（高校58回生／株式会社エフエム富士 放送本部 編成制作部）

第６講座 企業・メディア

放送されない裏方の話

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設入学以前〉〈附設時代〉〈ラジオを好きになった理由〉〈大学時代〉〈お仕事について〉〈FM FUJIについて〉〈生徒からの質問〉

【講義の感想】

私は、夏休みにテレビ局に伺う機会があり、同じくマスメディアであるラジオに関心を持ち、この講座を担当させていただきました。講座では、ラジオについ

ての話や、附設での生活の様子などを聞くことができ、間近に迫る進路選択で参考にしたい事柄が数多くありました。休憩中や教室への移動中には、雑談だけでなく、進路についてのアドバイスもしてくださり、大変嬉しかったです。私はまだ自分のやりたいことが見つかっていませんが、いつか野村先生にとってのラジオのようなものを見つけたいです。かなり時間にルーズな私は、野村先生がストップウォッチで時間を計られていたことや飲み会でのエピソードを聞いて、衝撃を受けました。野村先生を見習い、時間にルーズな性格を直していきたいと思います。最近、進路講座の影響で、ラジオを聞くようになりました。少しだけ

世界が広くなったように感じます。

文責：高１Ａ　井上　更紗

川上 和也 先生（高校58回生／Google DeepMind シニアリサーチサイエンティスト）

第７講座 企業・IT

人工知能研究の最前線と社会への応用

【講座概要】

〈自己紹介〉〈人工知能の仕組み〉〈人工知能の社会への適用〉〈人工知能の賢さとは〉〈進路についてのアドバイス〉

【講義の感想】

私はAIに対して、以前からただ漠然と「賢い」というイメージを持っていた。しかし実際には数理システムの一種であり、データから関数の形・係数を学習する能力を持つという点が優れていることがはっきりとわかり、そういう点で「賢い」のかもしれないと再認識できた。また、それとは別にAIの賢さの基準に汎化・学習効率・転移の３点を用いているのは理にかなっているように思われた。

私は、将来の進路はおおよそ固まっており、IT系に進む予定はない。しかし、IT分野はその重要性を年々増しており我々の将来に不可欠になっていくことと、私があまりこの分野を知らずかつ興味があったということがあり、この講座の担当をさせていただくことになった。そんな中で川上先生の講座を聞き、第一

に感じたことは一つ一つの行動が自由で積極的であることだ。そして、そんな行動は常に先生の興味あるいはしたいことに支えられていることが伝わってきた。先生の講座からは、積極性の大切さを実感するとともに、その積極的行動の原動力となる、自分が好きなものを持つことの重要性を考えさせられた。私はこの高校生活を、自分が本当に好きなものを見つける、あるいは作り出す機会にしようと思う。

文責：高１Ｂ　堺　　智弘

孫　泰蔵 先生（高校39回生／Mistletoe 創業者）

第８講座　起業家

起業家としての生き方について

【講座概要】
〈自己紹介〉〈人生を決めたきっかけ〉〈これからの時代の変化〉〈世界を変える若者たち〉〈これからの時代に必要なもの〉

【講義の感想】
　私が今回、孫先生を担当させて頂いた理由は私自身将来起業したいと思っており、また、最先端の技術について知りたかったからだ。講座をお聞きして、これからの10～20年は社会が特に大きく変わる期間であり、そのような激動の時代に振り落とされないようにするためには、常識を疑うことや、疑問やアイデアが浮かんだら、とことん探求し、小さくてもいいからとりあえずやってみる事が大切だという事がわかった。また、ziplineやWOTAなど様々な最先端の技術を知る事ができて、これらの技術の高さや普通なら不可能だと思うようなこと実現していっているということに鳥肌が止まらなかった。周りが不可能だと思うことは自分が可能にしよう、と強く思った。また、孫先生が描く未来予想構造にとても夢を与えられました。

文責：高１Ｅ　森　　彩音

平山　いずみ 先生（高校59回生／株式会社マネーフォワード　クラウド経費開発本部）

第９講座　IT

Webサービスを作る仕事

【講座概要】
〈自己紹介〉〈講座を始める前に〉〈進路決定について〉〈Webサービスをつくる人々〉〈プログラミングについて〉〈エンジニアのコミュニティ〉

【講義の感想】
　私はプログラミングに興味はあったが、なんとなく難しそうなイメージがあった上、どこから手をつければ良いのかわからなかったため始めてこなかった。しかし今回のお話でプログラミングがどれくらい身近なものか、そしてどのように始めたら良いかなどもお話しいただき、プログラミングを始めるハードルがかなり下がった。またまだ進路がはっきり定まっていない私にとって具体的にどのようなものがあるか調べたらよい、というアドバイスは特に印象に残った。私はほとんど詳しいことは調べたことがなかったので、文理分けまであまり時間がないが、いろいろ調べてみて決めようと思う。

文責：高１Ｅ　大城　義和

岡村 友保子 先生（高校59回生／久留米大学医学部 形成外科・顎顔面外科学講座）

第10講座 医学

形成外科を知ろう！

【講座概要】

〈自己紹介〉〈医師を目指したきっかけ〉〈大学受験について〉〈医学部で学ぶこと（長崎大学の場合）〉〈進路選択について〉〈形成外科を選んだきっかけ〉〈形成外科とは〉〈女性医師として〉〈生徒からの質問〉

【講義の感想】

私は、医学部への進学を選択肢のひとつとして考えていることから、岡村先生の講座を担当させていただきました。しかし、実際は形成外科についての知識は全くと言ってよいほどありませんでした。しかし、混同されることが多い科との比較や実際の症例を用いて説明してくださったので、形成外科について知見を広げることができました。形成外科の魅力を語られる先生はとても生き生きとしていて、やりがいのあるお仕事だと思いました。形成外科医、そして女性医師としての使命感や覚悟も伝わってきて、強くしなやかな方だと感じました。「附設にいられること自体が財産だ」という先生の言葉を胸に、高校生活を送っていきたいです。

文責：高１Ａ　井上　更紗

松永 和人 先生（高校32回生／山口大学医学部附属病院 副病院長 呼吸器・感染症内科教授）
久本 優佳里 先生（高校59回生／山口大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科医師）

第11講座 医学

医学部に進学すれば、どのような未来が待っている？

【松永先生の講座概要】

〈医師としての進路〉〈仕事内容〉〈進路へのアドバイス〉

【久本先生の講座概要】

〈医学生の期間〉〈研修医で学ぶこと〉〈医師になってから〉〈大学受験の臨み方・進路へのアドバイス〉

【講義の感想】

この講座は、私にとっては一番聞きたかったことをちょうど聞きたいときに聞けた絶好の機会であった。私は臨床医になることを進路の一つとして考えている身であるが、今回の先生方のお話を聞き、臨床医という職業をより身近に感じることができるようになった。

松永先生の講座では、医師としての一つの進路・生き方を見ることができた。私自身どういう進路・人生を経るか皆目見当がつかないが、どういう道にせよ、松永先生のようにぶれない信条を持ちたいと思う。また、実はよく知らなかった教授としての仕事、そして副病院長としての経験について他では聞けない貴重なことを聞くことができた。

久本先生の講座では、受験への心の在り方、医学生・研修医・若手医師ですることを具体的な形で聞くことができた。大学へ進むときもこれらの話を念頭に置き、考えていきたい。

この講座は医師になるまでの近い話と医師としての

生き方という大きな話をバランスよく聞ける素晴らしいものだった。私にとっては、将来のビジョンをより明確化するための大きな手助けとなったと思う。

文責：高１Ｂ　堺　智弘

的場 哲哉 先生（高校38回生／九州大学病院 循環器内科・講師）

第12講座 医学

社会の中の医師として、役割をどう果たすか

【講座概要】

〈自己紹介〉〈進路選択〉〈理系か文系か〉〈医学部について〉〈データで世界を理解する〉〈COVID-19感染症と循環器疾患〉〈日本における循環器・救急医療〉〈冠動脈疾患〉〈補助循環装置〉〈質疑応答〉

【講義の感想】

医学に興味があり、的場先生の講座を担当させていただいた。これまでは漠然と医学に興味があるだけだったが、的場先生のお話のおかげでより具体的に医師になった際の未来について想像できた。普段聞けないようなCOVID-19や冠動脈疾患に関する専門的で具体的なお話を聞くことができ面白かった。生物の授業で勉強した内容とリンクしているお話があり、生物の授業を受けていて良かったと思った。この講座の中で、良い医者になるために最も大切なものはやる気であるという言葉が特に心に残った。これは、医者だけでなく全ての職業に通じることだと思う。私も、将来自分の職業にやる気が出るように、軽々しく進路を決めるのではなく、もう一度自分の価値観を見直そうと思う。

文責：高１Ａ　緒方　杏菜

森山 泰明 先生（高校38回生／JR東日本 技術士）

第13講座 インフラ

次代のインフラを作る

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設時代〉〈お仕事の話〉〈学生へのメッセージ〉

【講義の感想】

先生の講座を聞いて、都市計画のスケールの大きさと責任の重大さを実感した。同時に先生がおっしゃっていた「形のあるものを作る」からこそ得られる達成感は、都市計画ならではの魅力であるなと思った。また、現職までの経緯を話していただくことで、将来への具体的なイメージが湧いた。もちろん、まだ高校生なので幅広い分野を学ぼうと思っているが、将来に対する漠然とした不安が解消しとてもすっきりした。そして自分に足りない事は何かを考えて、それをすぐ行動に移す積み重ねが先生の今の素晴らしいお仕事につながっているのだと実感した。特にJR東日本に入社していたのにも関わらず、最先端の都市計画を学びたいという気持ちでアメリカに留学した話には感心した。当時は一般人がインターネットで情報を調べることさえも容易でなかったのにも関わらず、尊敬する先生のもとに何度も手紙を送るという地道な行動を続けられ、結果、都市工学を始めとした様々な分野をアメ

リカで修得できたことは並大抵のことではあるまい。都市計画をはじめとした、都市インフラに関わる仕事も魅力的だなと感じたすばらしい講座であった。

文責：高１Ｄ　田上　裕樹

岡本 達哉 先生（高校48回生／SECOM Plc Corporate Planning Manager（在英国・ロンドン））

第14講座 企業・生活

日本を飛び出して仕事をする

【講座概要】

〈自己紹介〉〈お仕事の話〉〈外国人と日本人〉〈外資系企業と日本企業〉〈外国での生活〉〈若いうちにやっておいたことがいいこと〉

【講義の感想】

私は英語が得意ではないので将来外国で働くのは無理だろうと思っていたけれど、今回岡本先生に海外での生活や仕事においての話を聞いて今の時点で英語が得意でなくても将来海外で働くチャンスはあるということを知り、外国で働くことにも興味がわきました。また、先生からいただいた沢山のアドバイスのなかで私が一番心に残ったのは、若さという優位性を生かさないという手はなく、何事にもチャレンジしてみるのが大事、という言葉です。まだまだやりたいことに費やす時間もあり、失敗もまだ許されるうちにいろいろなことに挑戦し、経験を積んでいければいいなと思います。

文責：高１Ｂ　中尾　桐子

宮田 大督 先生（高校48回生／株式会社エクサウィザーズ プロダクトマネージャー）

第15講座 企業・IT

楽しいインターネット業界のご紹介

【講座概要】

〈自己紹介〉〈IT・インターネット業界の説明〉〈どんな人におすすめするか〉〈インターネット業界の転職文化について〉〈インターネット業界に入るには〉

【講義の感想】

私が宮田先生を担当させていただいた理由は、私自身がIT業界に興味を持っており、将来ITの道に進みたいと考えているからだ。今までIT業界というと所謂インターネット業界にあたるようなアプリの開発やWeb上のサービスの構築などのイメージがあったが、他にも通信業界やソフトウェア／ハードウェア業界などもあり、業界によって一つのものをリリースするのに当たってかかる時間や会議の数、個人を相手にしているか会社を相手にしているかなど、たくさんの違いがあることを知る事ができてよかった。そのことも含め、私が今、興味があるのはインターネット業界だと感じた。また、宮田先生がおっしゃっていたように、私も興味があることは、身の回りから行動していこうと思った。

文責：高１Ｅ　森　　彩音

柳瀬　隆志 先生（高校43回生／嘉穂無線ホールディングス株式会社 代表取締役社長）

第16講座 企業・小売

社会課題をホームセンターが解決

【講座概要】

〈自己紹介〉〈附設時代〉〈大学時代〉〈お仕事の話〉〈学生へのメッセージ〉

【講義の感想】

グッデイがDXに成功したのは、柳瀬社長が「新しいことに積極的にチャレンジする」気概を持っていたからだ。「できないことをできるようにする」「失敗したと思わず、少しずつよくしていく」という姿勢は今日からでも実践できることだと思った。

また、人生では様々な人との「ご縁」に助けられることがあるのだと知った。素晴らしい人と出会えるようになるには自分も実力を磨くことが必要なので、毎日努力して自分の実力を伸ばしていきたい。まずは、自分が人生で何をやりたいのか決めて「志」を立てようと思う。

ところで、後日“復習”をするためグッデイに行ってみたのだが、商品を見てもらう・買ってもらうためにどんな工夫がされているか店内を探しまわってみるのは非常に面白かった。ちなみに、グッデイ久留米野中店では附設の学生証を提示すると３%引きになる「附設割」というのがあるらしい（話が脱線しました）。

今回の講演は、単に大学選びをどうするか、なんていう「進路」ではなく、自分のこれからの人生の「進路」について考える契機になった。

文責：高１Ａ　林　　洋希

孫　泰蔵 先生（高校39回生／Mistletoe 創業者）
武内　和久 先生（高校38回生／BLOOMIN’ JAPAN 代表取締役）
井上　和久 先生（高校47回生／グッドラックスリー 代表取締役）

「勝手」進路講座

【講座概要】

＜孫泰蔵先生の講演＞

＜お三方によるクロストーク＞

【「勝手」進路講座の感想】

今までに聞いた講演の中で、一番自分自身に響いたものだった。

私は孫さんが伝えたかったことを自分なりに解釈すると、「社会に対して受動的になるな、能動的であれ」という感じだと思う。今ある社会の枠組み、システムの中を進むのが正しいのではなく（間違いでもない

が)、そのシステムに疑問を抱き続け、変えたければ行動を起こす。個人が社会に造られるのではなく、個人が社会を創る。そういう意味での「創造性」。造られるのはAIで充分こと足りる。また、その点で未来の社会の姿を自分で考えてビジョンを視る「目」は本当に大事だ。

他に心に残っているのは、井上さんがされた「安全領域」の話である。一歩外に踏み出すには勇気がいるが、そこに踏み出さないと大きなものは得られないし見えない、というものだ。「学校」というのは明確な成績が出るし、慣れた場所で安心感がある。けれど私達が本当に生きるのは社会であり、学校ではない。だから、「学校ボケ」していても何も得られない。日常の中の小さなことでもチャレンジしていきたい。

この講演を皮切りに、失敗を恐れない、糧にしていくというマインドを大切にしたい。そして、一度きりのたった80年90年そこらの人生を、何も恐れずに思

いっきり楽しみたいと思う。

今日の講座は、今この進路に悩み、将来の社会を考えている私だからこそ響いたのだと思う。そんな唯一無二の最高のタイミングで最高のお話を聞けて良かった。人生が変わるお話でした。

文責：高１Ｂ　真鍋　佑輔

このお三方の人生の高低の激しさに驚嘆した。みな信じられないくらいの負債や悪評を背負うときもありながら、今も精力的に活動している姿には、底なしのエネルギーがあった。この３人に共通するのがやはり孫さんのおっしゃっていた「行動」だ。「地方から国を変える」を目標に官僚時代から精力的に活動し、県知事選にも出馬した武内さん、先輩と文通をするほどの行動力を高校時代から見せ、会社でも積極的なチャレンジをする井上さん、そして我々には想像のつかない事業やスタートアップを次々と成し遂げてきた孫さん。みな大きな失敗はあったものの、それぞれそれよりも大きなことを成し遂げており、またその活動をしていること自体がとても楽しそうだった。「頭で考えるよりもまず行動をしろ」という言葉自体は初めて聞いた言葉ではないが、お三方の話を聞いていると、この言葉の重みをさらに感じ、より行動することの大切さを実感できた。

また、少子高齢化に関してのお三方の意見は初めて聞くもので、とても印象に残った。少子高齢化はネガティブに捉えられがちだが、それをポジティブに考えるというのが自分にとっては衝撃的で、ものの見方一つで数値上では同じ現象を扱っていてもここまで考えが変わってくるものなのかと強いショックを感じた。

今回の講演、クロストークは自分にとって全く新しい情報の連続であり、即座には全ての話を咀嚼できないほど濃密な３時間だった。このような衝撃的な話は人生でそう多くは聞けないものであろうし、その一回を高校時代に聞けたことはとてもありがたい。この講演で得られた様々な見識を、自分の生活に取り入れつつ、自分の人生をもっとアクティブで楽しいものにしたい。

文責：高１Ｂ　福山　　月

宮 瀬 崇 琉（66回生）

演劇部顧問の岡崎賢一郎先生と

附設同期との北海道旅行で

附設担任団と（長崎出張時）

会社同期と

社会人１年目、学生生活を振り返ります

皆様こんにちは、高校66回生の宮瀬崇琉です。附設には６年間お世話になり、現在社会人１年目となりました。高校卒業後、早稲田大学の基幹理工学部に入学し、今年４月から豊田通商というトヨタグループの商社に入社しました。まだ社会人３か月目ということで、本文では主に学生生活の振り返りをしつつ、現在の社会人生活との繋がりを書いていきます。

［高校～大学入学まで］

附設生は小学生や中学生の時から医者や弁護士を目指し、実際に医学部や法学部に入学する人が大多数です。私も御多分に洩れず……と言いたい所ですが、洩れ倒してまさかの演劇に熱中、毎日遅くまで部室の書道教室でお芝居を創っていました。将来の事など一切考えず文化祭も最大限楽しみ、ついに高３になり否が応でも受験にぶち当たります。

今思えば様々な選択肢があったと思いますが、浪人はしたくなかったので医学部と東大は即行で諦め、阪大と早慶の工学部を受験。イケイケの慶應ボーイを夢見ましたが慶應のみ不合格となり、せめて東京の大学に……ということで高い学費を犠牲に早稲田ボーイ（高田馬場の掃き溜めにいる奴）になりました。

［入学～大学３年時まで］

早稲田大学の基幹理工学部には機械系や情報系など様々な学科があります。私は当時特にやりたいこともなく、至極適当に機械系を選択しました。大学では勉学や研究をある程度真面目にこなしながら、テニスやウィンドサーフィン、旅行や飲み会を楽しむという極めて平凡な大学生活を送りました。

腐っても理系なので研究には真面目に取り組み、窒化ホウ素という先進材料の実用化に向けて実験や論文執筆を行いました。恐らく材料学を専攻していないと馴染みのない物質かと思われますが、窒化ホウ素は電気を通さない（絶縁性）にも関わらず熱は通す（熱伝導性）という通常背反する性質を併せ持つ不思議な物質です。これを樹脂などに混ぜ込んで電子機器の性能を上げたりするわけですが、ざっくりとそんな研究をしていました。

テニスコートや海、居酒屋に出向いては享楽的に日々を過ごし、とりあえずテスト勉強と研究はしておくという生活をしていた私ですが、刻一刻と社会人に近づき、ついに大学３年時に就活にぶち当たります。そもそも大学院に進学してモラトリアムを伸ばそうと考えていたのですが（溢れんばかりの適当さ……）、コロナ禍で大学も無くなって余りにも暇になり、人生について考える時間が出来ました。漠然と大学院に進学しても学費が勿体ないし、そもそもお金と時間をかけてまで研究に打ち込みたいと思わなかったので、就活をすることを決めます。

当初は軽く見ていた就活ですが、始めるとこれが大変で箸にも棒にも掛からぬ状態が半年は続きました。冬になり危機感を覚えた私は附設就活セミナーに参加します。

これは本当に良い選択で、今回寄稿をご依頼してくださった大津良太さん（51回生）や竹下知宏さん（57回生）から始まり、様々な附設OBの方に助けてもらいながら何とか就活を乗り切れました。

平凡でアピールポイントのない学生生活を送ったつもりでしたが、深く掘っていけば案外工夫や努力をしていたことに気づき、またOBの方にご教示頂いた面接におけるプレゼンの改善も相まって、最終的には日系大手企業数社から内定を頂き自身が会社を選ぶ側に立つことができました。内定先の選択ですが、これまた馬鹿の一つ覚えで商社マンに憧れて豊田通商に入社します（面接でメッキが剥がされ五大商社は全落ち）。

［入社から現在まで］

豊田通商に入社してからはトヨタ自動車をお客様として、EV（電気自動車）の車載用バッテリーを製造する機械設備の営業をしています。全国津々浦々、富山・千葉・長崎・大阪など入社３か月で幾度も出張をし、比較的ハードな生活が続いています。エンジン車からEVへの大転換の流れを体感し、開発段階から少しでもそこに携われる仕事は非常に面白味があります。また、海外案件にも携わることができ、英語が一切聞き取れない中で分かっている風を出すスキルを身に付けました。先輩には毎日のように“可愛がって”頂き、私に欠落している根性を育てて頂いています（ありがとうございます!!!）

プライベートでは何より同期社員に恵まれたのが幸運でした。商社は魅力的な人間が多く、国際色豊かでバイタリティのある仲間が大勢できました。休日は彼らをウィンドサーフィンに誘って海に行き、会社のテニス部に参加するなどしています。

［総括］

仕事もプライベートもそうですが、結局は学生時代に行ってきた全てが現在の自分を支えています。何となく選んだ早稲田大学の機械専攻でしたが、トヨタ自動車のエンジニアと話す際は専攻で得た知識や思考が活きてきますし、ハードな社会人生活のリフレッシュにはサーフィンやテニスが一役買います。附設時代は演劇に打ち込みましたが、人前で臆せず話し、人間関係を築くスキルは演劇を通して培ったものです。附設には医者、弁護士、研究者になるなど明確な目標を持って生きている人が多くいました。チャラチャラ流れるように過ごしている人間は稀かもしれません。しかし最近は確固たる軸を持たずとも断片的なことが繋がって結果幸せになる形も十分ありだと思い直しています。マイペースに、締めるところは締めて…愛知県は豊田市で奮闘しております。

的野将吾（まとの しょうご）（67回生）
熊本大学医学部医学科４年

熊本大学に進んでからも附設の「縁」は健在です。

こんにちは。附設高校67回生、熊本大学医学部４年の的野将吾です。

我が家からは熊本城の天守閣を眺めることができます。以前は、熊本地震の被害からの復旧工事のため、天守閣はクレーンと鉄骨で支えられていました。それが今では石垣と生い茂る緑を従え、威風堂々と聳え立つ姿を取り戻したのを見ると、いつしか随分と月日が流れてしまったのだと、感傷に耽ってしまいます。

高校では、私は外部生の「高１Ａ」でした。内部生の同期は「中学共学１回生」であり、その重圧もあってか、我々67回生はいわゆる「真面目」な学年でした。先生方からは、“絶対に笑わない”、“まるで石像のようだ”と持て囃されていたのか揶揄されていたのか、とにかく一目置かれていたように思えます。

さて、附設高校を卒業し熊本大学に進んでからも附設の「縁」は健在です。

入部したバドミントン部には、附設の先輩方が多く所属しています。平素よりいろんな方面でアドバイスをいただいたり、時折美味しいものをご馳走になったりと、大変お世話になっています。今年は、待望の附設の後輩が、新たに入部してくれました！

ともに熊大へ進学した高１Ａ以来の友人とは、一緒に試験対策委員を運営しました。その関係で、現在私は、学年の国試対策委員長を務めています。責任重大な役目ではありますが、月例の国試対策会議は、熊大の国試・CBT事情や、国試関連の運営をされている先生・先輩方のお話を伺える非常に貴重な機会であり、毎々勉強させていただいています。

また、私は附設同窓会の熊本支部の学生幹事を務めています。今春の卒業生祝賀会では、我々学生幹事が中心となって運営を行いました。コロナ禍のため、ZOOMを使用し直接参加人数を制限する等の三密回避策をしっかりとった上での開催と相成りましたが、その際、社会人の先輩方には甚大なお力添えをいたただきました。さらにオンラインでの開催にあたっては東京支部の方々にもご協力を賜り、熊本支部内の、そして支部を超えた附設同窓会の繋がりの強さを実感しました。

附設の先生方や友人には、高校入学当初まだ“苗木”だった私を育んでいただきました。大学に進学してからは、蒼天へ無数の枝葉を伸ばすかのように、幅広い世代の先輩方と繋がることができました。多方面でご活躍されている先輩方のように、私もいつかは立派な“大樹”になれるよう、この附設の「縁」というものをこれからも大切にしていきたいと思います。

最後に、同窓会の皆様には大学在学中に限らず長い間お世話になるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。機会がございましたら、ぜひ熊本にお越しください。

復旧工事中の熊本城。
（私が入学した2019年４月撮影）

熊大の附設出身の先輩方と一緒に。（2022年３月撮影）

水谷　愛（67回生）
九州大学医学部医学科４年

感謝とリスペクトを忘れずに

附設同窓会の皆様、初めまして。附設67回生、九州大学医学部医学科４年生の水谷愛と申します。この度は、同窓会報への寄稿という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。

さて、先程述べたように私は医学部に所属していますが、医学部志望に至った理由の諸要素のうちの２つは「人の役に立てる人になりたいという願望」そして「自分が要領の悪い人間だという自覚」です。中高生活の中で自分の要領の悪さを自覚した私でもなんとかして人の役に立てる方法はないかと考えた結果、真面目に努力(勉強)することで医師免許を取得し、臨床医として患者さんを救うことは私にも目指せるのではないかという結論に至りました。

自分の要領の悪さには自覚があったので、入学当初、私はできるだけ人に迷惑をかけないように、キャパオーバーしないように、とかなり慎重に心がけ、基本的にあらゆる活動に対して消極的な姿勢を取ることにしていました。

ところがそのような心がけに相反して、現在私は医療系の学生団体に所属し、九州の中高生と大学生とでヘルスケアの課題解決に取り組むプロジェクトの立ち上げ・運営に加わっており、しかもあろうことか代表を務めさせていただいています。大学に入学して数年で劇的な成長を遂げてはいなかったので、自分が完璧なリーダーとは程遠いであろうことや、部活の幹部業務・本業である学業との両立を目指せばきっとプライベートが疎かになるであろうという懸念はありました。しかしそれ以上に、どうしてもプロジェクトを実行したい、しないといけない、というモチベーションが大きかったです。ちなみに、そのモチベーションは以下の通りです。

・自分の力では太刀打ち出来ないと諦めていた社会課題に対して、立ち向かう術があるという事実に感銘を受け、自分でも課題解決に取り組みたいと思ったから。
・プロジェクトに参加した中高生・大学生の意識が多少なりとも変化することで、閉鎖的な医療分野（だと私が感じているだけかもしれないですが）に、新しい風を吹かせたいと思ったから。

結果として、やはり私は完璧人間ではなかったので、想定以上に多くの人の多大な力を借りることになっています。日々本当に頭が上がりません。（実は、お力添えを頂いている人の中には附設出身の方々も実は大勢います。この場を借りて心より感謝を申し上げます。）

数カ月後、プロジェクトがどのようになっているのか想像がつかない部分もありますが、感謝とリスペクトの気持ちを忘れずに、まずは自分にできることを一つずつ遂行しようと思います。いつかは受けた恩を返せるよう努めたいです。

児 島 幸 紀
（中学47回生　高校69回生）

東京大学教養学部前期課程文科１類２年

『大学生活も１年半が過ぎました』

初めまして。あるいはお久しぶりです。久留米大学附設中学校47回生・高校69回生、東京大学教養学部前期課程文科１類２年の児島幸紀と申します。入学後、まだ（もう、かも知れませんが）１年と数か月しか経っていませんが、学業とサークル活動を中心に、学生生活をご紹介させていただきます。

【学業】

東京大学では、入学後２年間を全員が駒場キャンパスで送り、一般教養を学ぶ制度が残存しています。この制度の利点は、一方で、多様な学問の雰囲気を感じられる点、他方で、専門外の学問分野のディシプリンを知り、将来的に専攻する分野の特徴をより明確に理解することが出来る点だと考えております。私自身、文科１類ということで、１年次は主に法学や政治学の基礎を中心に勉強していたのですが、ALESAという小論文を執筆する講義では、美術館にまつわる社会学よりのテーマに取り組みました。抽選に外れて第３希望の講義を受けることになった結果ではありましたが、社会学の手法を知ることで、法学の特徴についての理解が逆説的に深まりました。

しかしながら、一般教養は自ら掘り下げないと、浅い教養のまま終わってしまう恐れがあります（それはそれで愉しいのですが）。東京大学には学生１人の手に余るほどの大量の制度・プログラムやサービスが存在しており、勿論それは有難いことなのですが、大量の情報の中から自分に必要なものや適したものを取捨選択し、積極的に学びを深めることの難しさを痛感させられた１年にもなりました。

自動車合宿免許で訪れた山形市内で

【サークル活動】

私は現在、五月祭・駒場祭常任委員会と野球サークルに所属しています。

前者は、高校時代最後の「男く祭」が中止になったことについて、一抹の後悔が残っていたために加入しました。高校時代の文化祭と比較すると規模が桁違いであり、大きな企画を動かすことにやりがいを感じています。五月祭ではキャンパスツアーを担当したのですが、来場者の顔を見ることのできる仕事は達成感が大きかったです。また、アルバイトで集団塾講師をしているのですが、そのお蔭で人前での喋りに抵抗が無くなっていると実感しました。現在、駒場祭ではキャンパスラリーを企画しています。過去２年は完全オンライン開催であり、対面企画のノウハウが途絶えかけていることを逆手に、先例に囚われずに企画を創造しようと努力しています。

余談ではありますが、先日、第52回附設高校文化祭に（弟の保護者枠で）参加させていただきました。名称変更に時代の変化を感じると共に、課長制・各企画の存続や文化委員長の巻頭言を見て、継承されている部分も確かにあると感じ嬉しく思いました。附設文化祭も五月祭も、厳しい入構制限や飲食物調理の禁止など、病禍の規制が続いており、若干閑散としている印象がありました。コロナ前の賑わいが一刻も早く戻ることを願ってやみません。

野球サークルは２年生の始めに加入しました。東大には野球系の部活・サークルだけで約10個ほどが存在するので、自分の日程や腕前と相談しながらどこに参加するか決定できるところが強みです。高校同期の中にも、新しいスポーツや楽器を始めた人が多いです。

附設職員室で細野敬史先生と

以上、大学生活について簡単にご紹介させていただきました。何か一つでも、在校生の方の参考になる部分があれば幸いです。

合 原 崇 生（70回生）
東京大学前期教養課程文科二類一年

何もかも新鮮な大学生活

附設同窓会生の皆様、こんにちは。附設70回生、東京大学文科二類１年生の合原崇生です。苗字に聞き覚えのある方もいらっしゃるかと思いますが、僕の祖父は附設OBであり、母校の教師をしておりました（※編者注：合原俊光先生（９回生））。まだ入学して三か月も経っていませんが、入学後の生活と今後について少し、述べさせていただきます。

特に明確な志望もなく東大に入ったので、僕は入学当初、果たして東大の授業にモチベーションを持って取り組めるだろうかという不安でいっぱいでした。今振り返ると、まったく取り越し苦労だったと思います。大学のかなり自由な履修選択はとても刺激的で、趣味の美術やもともと興味のあった国際関係の講義はそうした不安を一掃してくれました。また、第二外国語はサッカー好きと一度スペインに旅行に行ったことがあるのを理由にスペイン語にしたのですが、その授業も新鮮で面白いものでした（バイトもスペイン料理屋さんにしました、笑）。一方で、文二ならではの経済や数学の講義は、大学に入っても数学をやるとは思ってもいなかった自分にとってはなかなか大変です（深く考えず文二を志望した僕の完全な自業自得なのですが、笑）。

また、僕は69回生の先輩に誘われ軽い気持ちでとある自主ゼミに参加しているのですが、そこでのケーススタディ型の講義がとても面白く、意見を言う力や他人の意見を聞く力、問題解決力が向上しているのを実感しています。

学業についてはここまでにして、その学業を妨げている二つの要素についてお話します。まず一つはサークル活動です。僕はバドミントンサークルと珈琲同好会に所属しており、定期的にバドミントンで汗を流し、趣味のコーヒーを仲間と淹れたりコーヒー屋さんを巡ったりしてとても充実しています。

もう一つは趣味です。東京に出ると福岡にはないようなものがたくさんあって、美術館や映画館を巡ったり、行ったことのないコーヒー屋さんに行ってみたり、そうこうしていると休日があっという間に過ぎ去ってしまいます。またロードバイクで遠出するのも好きで、この間は片道３時間以上かけて鎌倉・江の島まで足を延ばしました。

大学に入ってからはやりたいことが次から次へと湧いてきて、勉強どころではなくなってしまいがちです。でも大学はあくまで学業をする所。「東大までの人」にならぬよう、学業にも精進していきたいと思います。まだぼんやりとですが来年か再来年に留学をしたいと考えているので、今は特に英語の勉強をしています。

ただ、そうはいうもののプライベートも以前より重要になったと感じます。最近で言うと、高校までやってきたサッカーが大学ではまだできていないので、近いうち社会人サッカーに加わろうと思っています。このように、大学に入るとあらゆる面での自己管理が大事になりました。今後も自己管理に気を付けて、短い大学生活を楽しみたいと思います。

附設合格状況

附設高等学校進路指導担当　行 正 幸 司（47回生）

コロナ禍の受験をふりかえって

東京大学合格者数

36名（2021年度）→43名（2022年度）

現役の卒業生は、高１の３月～高２の５月に「緊急事態宣言」による休校を経験した世代でした。高校２年の年度末に予定されていた修学旅行も中止を余儀なくされ、何かと高校生活において行動が制約された学年でしたが、生徒一人ひとり、うまく心の整理をしつつ、受験勉強へと重心を移動していったと思います。学習面での基本事項の仕上がりが早く、愚直に努力を積み重ねた結果、共通テストの難化にもひるむことなく好結果を残しました。中でも東京大学には43名が合格し、そのうち20名を占めた現役の文系は近年の中でも極めて優秀な集団でした。

「現役合格率」は全国２位

現役合格者数（国公立医学部医学科）

45名（2022年度）

今年の国公立医学部医学科（産業医科を除く）合格者数は64名。これは全国４位の数字です。そのうち現役合格者数は45名となっており、「現役合格率」では全国２位となりました。近年、附設では現役での医学部合格者数が増加しています。これは、2013年に中学を男女共学化し、入学時から医学部を志望する女子が増えてきたことが一つの要因だと感じています。現役高３(70回生)は文系の生徒数が多く、例年よりも理系は少なかったのですが、それでも高水準の結果を残しました。医学部受験が当たり前の環境にあり、一緒に頑張るという雰囲気が醸成された効果も大きいと思います。

私立大学合格者は若干増加

私立大学合格者数

173名（2021年度）→221名（2022年度）

現役での進学数が増加し、それに伴い浪人生が減少しており、ここ数年附設では私立大学の合格者数は減少傾向にあります。そんな中、今年は私大の合格者数が増加しました。これは上述の通り、例年よりも現役高３に文系選択の生徒が多かったことと、浪人生にも文系の生徒が多かったことが影響しています。また、共通テスト利用での合格者も40名程度増加しており、今回の難化した共通テストでも健闘してくれた生徒が多かったと考えられます。次年度は現役、浪人ともに文系の数が減るため、近年の傾向に戻ると予想しています。

今後に向けて

高２までは日々の学習を年間５回の定期テストで確認しますが、高３と浪人生希望者は年４回の校内模試を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は約４割。４回平均で５割以上だと、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に、東大理系以外は、４割５分以上でほぼ合格できます。問題作成と採点には、本校入試同様、ほぼ全教員が参加し、成績検討会にも出席します。直接高３の授業を担当していなくても、問題作成と採点を通じて毎年受験生と関わりを持つことになります。自分が担当する学年が高３になったときに、この校内模試に対応できる実力がついているよう、高２以下の生徒の学習指導に活かしていきます。

現役高３(70回生)は、体育科の学年主任を中心に、英数国理社の担任団が生徒・保護者と綿密にコミュニケーションを取りながら、コロナ禍の高校生活を支えてきました。英数の基本を早い時期から徹底して指導し、その結果高３の一年間は十分に時間を使って思考力を鍛え、多くの生徒を希望する大学へ導きました。一方、成績開示を見ると、あと数点足りずに不合格という生徒もおり、受験の厳しさも同時に知りました。これからも、授業と特別講座で真剣に学び、校内模試で現浪が切磋琢磨して実力をつけてほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

国公立、大学校など合格者数（単位：人）

2021年度		2022年度	
東京	36	東京	43
九州	42	九州	37
長崎	17	京都	17
佐賀	9	佐賀	10
大阪	8	熊本	7
山口	8	山口	6
熊本	7	大阪	4
京都	6	鹿児島	3
防衛医科	16	防衛医科	7
その他	54	その他	44
国公立計	203	国公立計	178

※その他に、自治医科、産業医科、大学校（防衛医科除く）を含む

国公立医学部医学科合格者数（単位：人）

2021年度		2022年度	
九州	26	九州	24
長崎	14	佐賀	9
佐賀	9	熊本	7
山口	8	山口	5
熊本	6	東京	4
大阪	4	鹿児島	3
鹿児島	4	長崎	2
東京	3	京都	1
広島	3	大阪	1
その他	18	その他	13
国公立計	95	国公立計	69

※その他に、後期との選択のため、自治医科、産業医科を含む

私立大学合格者数（単位：人）

2021年度		2022年度	
早稲田	19(－)	慶應義塾	30(1)
中央	18(－)	早稲田	29(－)
慶應義塾	16(－)	明治	19(－)
東京理科	15(－)	同志社	16(－)
福岡	14(7)	中央	13(－)
久留米	11(11)	福岡	12(7)
同志社	7(－)	立命館	11(－)
立命館	7(－)	東京理科	10(－)
西南学院	7(－)	久留米	7(7)
その他	59(16)	その他	74(13)
合計	173(35)	合計	221(28)

※（　）の数字は医学部医学科合格数、（－）は設置なし

城 野 光 喜（71回生）
生徒会長

感染症と拘う高校生活、積極的瞞し

はじめまして、附設高校71回生生徒会長を務めさせていただきました、城野光喜と申します。呆気なく生徒会長の任期が終わってしまったと感じていたのですが、生徒会長として、最後に同窓会報を通じて附設で日々を過ごした皆さんと関われるような気がして嬉しく思います。さて、私からは附設の2022年７月現在の様子をお伝えします。

まずは、新型コロナウイルスと私たちの生活の関わりについてお伝えします。私たちの代でも修学旅行は中止となってしまい、消毒や検温をはじめとする感染対策も徹底して行う必要があり、休み時間の友人との食事も儘ならず、未だにコロナ禍以前の状況を完全に取り戻すことは出来ていません。ただ、制約がありながらも、無事に体育祭、文化祭を敢行でき、最近では、一つ下の代がクラスマッチの運営を成功させ、活気のある附設の日々が取り戻せてきているのではないかと感じます。中でも、文化祭では生徒の家族が来場可能となり、まだまだではありますが、「祭り」の賑わいも取り戻してきました。部活においても、外部との練習試合も行われるなど、回復の兆しが見られます。また、保護者入場不可だったため、体育祭のDVD発行、オンラインでの進路講座の開催や、Zoomを用いた遠い場所にある高校生徒会との交流など、コロナ禍だからこそ成し得たことも少なくありません。

私たちが附設高校に入学したのは、新型コロナウイルスによる約一ヶ月の休校明けであり、高校３年間全てを完全にコロナウイルスによる影響で制約された初めての年になる筈ですが、だからといって他の代よりも不遇な代という訳ではありません。苦難に塗れた日々だったからこそ、各行事の成功は人一倍喜ばしいものでした。

呆気ない：予想したよりも簡単で物足りない

先程、呆気なく生徒会が終わってしまったと申し上げたのですが、生徒会だけでなく、附設での日々は決して簡単な日々ではありませんでしたし、これからも困難なものでしょう。御察しの通り、簡単だから張り合いがなく、あっという間だったという訳ではなく、楽しすぎて充実していたからこそ、あっという間の日々だったと申し上げたいのです。

今では特講も始まり、第一回校内模試も終え、受験をかなり意識した生活となっています。この日々が、呆気ないものだった、と感じてしまわないように、一生懸命勉学に励む所存です。

但し、ここまで記した後、前代の生徒会長である井浦健人先輩（70回生）の文章を拝見したのですが、コロナウイルス感染による学級閉鎖も余儀なくされ、感染者も散見されるようになっている現状を鑑みると、正直なところ、昨年と状況はそこまで大幅に変化していないものと思われます。これを私たちがどう捉えるべきなのか。繰り返す困難の二巡目と捉えるか、極大値を過ぎて減少していくうちの変位の等しい点でしかないと捉えるか。私たちは後者を選び取り、不確かな未来を前向きに着実に進んでいこうと思います。そうして、これまでの先輩方が築き上げてきた、この附設という強固な城を拠点として、受験戦争に果敢に挑みたいと息巻いております。

私たちが、新型コロナウイルスによる新しい生活をある意味満喫できた、最後の代になることを期待し、私からの現状報告とさせていただきます。

大 塚 悠 航（71回生）
第52回久留米大学附設高等学校文化祭
実行委員長

文化祭の所感

私が文化委員長を務めた１年間、私は何よりも「出来るだけ多くの人にとって楽しい文化祭にする」ということを心がけていた。それが文化祭に携わる私の姿勢の軸であった。文化祭を終えて二ヶ月ほど経つが、精力的に準備や練習に励む同級生や後輩の姿、当日の生徒や家族の楽しげな様子、２日目のED（エンディング）で舞台上から見た皆の表情が今なお鮮烈に脳裏に浮かぶ。私が高校生活の全てを捧げてきた理想の「文化祭」が確かにそこにあったと思う。

「出来るだけ多くの人にとって楽しい文化祭にする」というのは難しいもので、これだけ多様な趣味嗜好を持つ生徒が集まる附設では、一人一人が文化祭でやりたいことも大きく異なるし、文化祭への積極度も様々だ。加えて、やっている生徒たちだけが楽しいものになっては意味もなく、来場する家族や一般の方（今年度はコロナウイルスにより一般公開は出来ず）にとっても楽しいものでなくてはならない。そして、これだけ大規模な行事をするのだから当然多くの人が裏方として働くことになる。私は中高の行事を運営側に立って眺めてきて、この裏方に徹している人たちが行事を心から楽しめているだろうかという懸念をずっと持っていた。表面上は華やかに見えた行事でも、裏方の人にとってそれが苦い思い出となっていれば最悪である。私が一番の長を務める文化祭では、皆がそれぞれ自分のやりたいことを最大限実現できて、かつ裏方の人も楽しかったと心から言えるようなものを目指した。

私の代で新しく始めた試みや制度は沢山あるが、そのうちの大きなものの一つとして、する企画をボトムアップで決める、というものがある。記録を辿る限りでは、今までの文化祭では文化委員やP（プロジェクト）長がする企画を決めて、トップダウンでこういう企画をやります、ということを伝達する方式がとられていた。しかし、この方法では皆がやりたいことを実現できているとは言い難い。Pメン（プロジェクトメンバー）が何十人もいるのだから、数人で企画を決めるより何十人でアイデアを出した方がより良いアイデアが生まれるに決まっている。もちろん文化祭という枠がある以上出たアイデアを全て実行に移すことはできないし、何十人もの意見を取りまとめるのは途轍もない労力を要する。「今年の文化祭は絶対に失敗する」なんて事をある先生に言われたこともあった。何年、何十年も続いたものを変えて新しいことを始めるのは多くの障害が付き纏うし、不安要素も多い。だが、無思考・無批判にただ旧態を受け継ぐよりも、より良いものをつくろうとして生まれた改革の一手の方が何倍も価値があるし、より良い結果に結びつくだろうと私は信じていた。文化祭を終えてみても、変化を恐れずに数々の改革の手を打ってきたことが文化祭の成功、ひいては参加した皆の笑顔に繋がったと思う。

附設は自由な校風を掲げており、行事においても他校と比べて出来ることの幅は非常に広い。自由というのは一見良い響きを持っている言葉のようだが、恐ろしい面を持っている言葉でもある。同じキャンパスと画材を与えられても素人は駄作しか描けないが、画家は人の心を動かす作品を描くことができる。自由というのはその自由を与えられた人の性質をそのまま投影する。くだらない人間であれば自由を与えられても生み出すものはくだらないものにしかならない。私たちがこの与えられた自由の中で一体何を生み出すのか、それは私たちの鏡であり、そういう意味で私たちは大人たちから試されているとも言える。文化祭という附設最大の「自由」を持つ行事をつくり上げる中で、一体どのような文化祭を目指すのか、私の高校生活はそれを模索し続けた日々であった。

私が文化委員長を務めて痛感したことだが、行事の要は人であり、人と人の繋がりである。その中で、自分勝手にならず、想像力を働かせて他人を思いやり他人の為に動けることが出来るというのが何よりも重要だ。このことが行事の成功の鍵を握ると言っても過言ではない。もちろんこれは一朝一夕に出来ることではないし、悲しい哉、全ての人が出来る訳でもない。人の事を考えられない自分勝手な人に怒りを覚えることもあった。だが、人の為に行動した人にしか見られない景色が必ずある。為他の精神を持ち、同じ目的の為に人と力を合わせた人にしか味わえない感動が必ずあるのも揺るぎのない事実だ。

最後になるが、協賛をはじめ本校に多大なる援助をして下さる先輩方のおかげで今年度も文化祭を無事開催することができた。心より感謝の意を述べたい。

令和２、３年度教育振興基金を財源とした活動の報告について

町田　健
附設高等学校・中学校
校長

新型コロナウイルス感染症は流行の３年目を迎え、「福岡コロナ警報」は解除されたものの、未だ終息には至っておらず、日々、感染防止対策に努めています。そうした中で、令和２年度、３年度と附設高校同窓会および同窓生ならびに保護者より多くのご寄付をいただき、以下の感染対策を実施できました。これにつきまして、心より感謝申し上げます。令和７年度には高校創立75周年・中学創立55周年を迎えますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

●令和２年度は臨時的かつ火急的な支出、令和３年度は事業計画等によるもの

○臨時バス（令和２、３年度）

学校再開に伴い、密を避けるための措置として、登校時間を中学と高校で一時的に分割することといたしました。しかし、中学の登校時間帯は路線バスの本数が少なく、１便あたりに乗車生徒が集中してしまうことが予測されたため、急遽、堀川バスに協力を要請し、令和２年は６月から７月初旬、令和３年は９月から10月初旬のそれぞれ１か月間、ＪＲ久留米駅および西鉄久留米駅からの臨時バスを運行させることができました。朝は４便、夕方は３便の計７便を発着させ、生徒の登下校時の利便性と安全性の向上を図りました。

○生徒用ＬＴＥ（携帯電話の通信システムを利用する仕組）タブレットの配付（令和２年度）

附設ではこれまでもＩＣＴ教育環境を段階的に導入する計画を立てていました。しかし、コロナ禍において生徒のオンライン家庭学習環境を充実させることが急務となり、生徒個人へのタブレットの配付を決定いたしました。その際、採択されたＮＴＴドコモのセルラーモデルのレンタル料金を、令和２年11月から３月分は保護者負担にはせず、教育振興基金を原資として賄うことで迅速に導入することが可能となりました。令和３年度からは保護者負担に移行し、令和４年度には全学年の導入が完了します。

○食堂用アクリル板の設置（令和２年度）

令和２年６月の学校再開と同時に開寮もいたしましたが、食事の際の飛沫感染防止対策が必須でした。急遽座席を間引きし、テーブルの中央にビニールを張り、対面で食事する環境を回避しました。また、日中は学食として利用されるため、昼休みの時間は中高で分割させるなどの配慮をしましたが、衛生上、 感染対策用品も充実させ、入手しやすくなった年末に、アクリル板を購入・設置し飛沫感染対策を行いました。

○女子生徒更衣室へ紫外線照射装置（空気清浄機）の設置（令和３年度）

女子生徒の更衣室は中学１年から高校３年生まで各学年１部屋、計６部屋あり、着替え中は密にならないように分散していますが、更衣室という場所柄、換気が不十分なことや部屋が狭いことでの飛沫感染や空気感染のリスクが高いことから、９月に設置しました。

○教室等へ二酸化炭素濃度測定器の設置（令和３年度）

新型コロナウイルスの感染対策として、最も有効な方法は教室の換気があげられますが、教室の空気の状態を「見える化」し、過密状況を把握して、換気するタイミングを確認するため９月に35台を設置しました。

○教室等へ空気清浄機の設置（令和３年度）

教室や食堂が密になることから新型コロナウイルス感染対策として、教室、中・高校寮、食堂等に計65台の空気清浄機を９月から10月にかけて設置しました。換気は常日頃から行ってはいるものの、授業中および中・高入試時は生徒や受験生が密になり、飛沫・空気感染のリスクが高いことから導入しました。

在校生の活躍

在校生が本校外部の各方面で活躍しています。その一部を紹介します。

副会長　**勝 連　治**（33回生）

（2021年11月）全日本模擬国連大会に出場

模擬国連とは、豊かな国際感覚と社会性を有し、未来の国際社会に指導的立場から貢献できる人材の育成と輩出を目指すべく、国連大使になりきって議論や交渉をする活動です。第15回全日本高校模擬国連大会（主催：一般社団法人グローバル・クラスルーム日本協会、グローバル・クラスルーム日本委員会）が、「核軍縮・核不拡散」を議題として、書類選考を通過した50校60チームにより、11月13日（土）～14日（日）に兵庫県淡路市で開催されました。本校からは、ＥＳＳ部所属の高校２年の白倉諒子さんと細川留花さんの２名が昨年に続いて出場し、オランダ大使の役を担い、各国大使を担ったチームとの間で、事前準備を存分に活かした議論を展開しました。

（2021年12月）全国高校生創作コンテストで最優秀賞を受賞

「全国高校生創作コンテスト」は、短篇小説・現代詩・短歌・俳句の４部門において、文章を書く喜び、ものを創り出す苦しさ、自分の考えを短い文章で言い表す難しさ、できた時の達成感などを、全国の高校生に味わってもらうことを目的としています。第25回全国高校生創作コンテスト（主催：國學院大學・高校生新聞社）で、高校２年の濵田桃実さんの作品「ねじねじおじさん」が、585作品が応募した現代詩の部にて最優秀賞を受賞しました。12月５日に行われたオンライン表彰式では、詩人・社会学者で國學院大學教授の水無田気流さんから作品について講評をいただきました。

（2021年12月）国際オフライン柔道技競演会で敢闘賞を受賞

オフライン柔道技競演会は、国内外の柔道愛好家が、自分の技を極め、競い合い、柔道を通して交流できることを図るもので、動画で撮影された各技は、キレ・スピード・創成力／創作力の３つの要素で評価され、リモートでの開催が可能な柔道技の個人競技の形で行われます。12月12日（日）に行われたサニックス国際オフライン柔道技競演会2021の男子20歳以下の部において、高校１年の鶴丸夏希さん、真鍋佑輔さん、福山月さん、藤丸雅大さん、小出晴也さんの５名（ならびに中学３年の松藤汰史さん、瀬戸浩陽さんの２名）が敢闘賞を受賞しました。

賞状

Certificate of Commendation

サニックス国際オフライン
柔道技競演会２０２１

SANIX International Offline
Judo Technical Championships 2021

男子U-20敢闘賞
鶴丸夏希 & 真鍋佑輔 殿

Men U-20 Fighting Spirit Prize
Natsuki TSURUMARU & Yusuke MANABE

December 12, 2021

Masaki Muneman
Representative Director
SANIX Sports Foundation

（2022年３月）演劇部が春季全国大会に出場

第三十六回高文連（福岡県高等学校芸術・文化連盟）令和三年度福岡県高校総合文化祭福岡県高校演劇大会が2021年11月27日（土）～28日（日）に飯塚市で開催されました。10月29日（金）～10月31日（日）に筑後市で開催された筑後地区大会を勝ち上がった本校が上演した、架空のスポーツ“豆球”に情熱を燃やす高校生たちの青春物語「豆球～マメキュー!!～」（作：演劇部顧問・岡崎賢一郎先生）が最優秀賞を受賞しました。

この結果を受け、12月18日（土）～19日（日）に大分市で行われた第63回九州高等学校演劇研究大会に福岡県代表として出場し、最優秀賞に続く優秀賞（一席）に輝きました。更には夏の全国大会の次位として位置づけられる第16回春季全国高等学校演劇研究大会（大阪府富田林市、2022年３月19日（土）～21日（月・祝））に、昨年に続いて出場しました。

（2022年７月）国際生物学オリンピックで銅メダルを受賞

７月10日（日）～18日（月）にアルメニア・エレバンで開催された第33回国際生物学オリンピックの４名の日本代表の一員として、全国3,080名の受験者から三次にわたる試験を経て選ばれた、「日本生物学オリンピック2021」にて銀賞を受賞した高校３年の川上航平さんが、大学教員や専門家も交えた国際生物学オリンピック日本委員会・プロジェクトチームによる特別教育を受け国際大会に臨んだ結果、銅メダルを受賞し、また、その結果を受け、文部科学大臣より「文部科学大臣表彰」を受賞しました。

附設グッズのご紹介

URL　https://kurume-u-ep.jp/news/fusetu-item/

附設カレーや附設グッズの売り上げの一部は教育振興基金に寄付され母校の教育環境整備のために使われますので、同窓会員の皆様にも売り上げへのご協力をお願いいたします。母校売店やインターネットにて購入できます。附設グッズはその他にもございます。上記URLよりご確認下さい。

久留米大学附設カレー　￥540（税込）
商品番号：058
容量：1人前／180g
附設卒業生にも忘れられない食堂カレーの味をベースに国産牛肉を使用。辛さも抑えて食べ心地よい味わいに仕上げました。
※原材料の一部に小麦・乳成分・牛肉・ごま・大豆・鶏肉・豚肉・りんごを含む

附設中高グッズ　エコバッグ　各￥880（税込）
商品番号：060
サイズ：本体／約290×360（持ち手含む540）mm
　　持ち手／約60×180mm
　　折りたたみマチ／約190mm
容　量：14L
素　材：ポリエステル
カラー：黒・紺・青・赤・カーキ
人気のエコバッグ「クルリトデイリーバッグ」から附設バージョンが登場。附設校正門をモチーフにしたデザインがプリントされています。クルクルと簡単にたためてコンパクトに持ち運べるのが最大の特長です。質感や持った時の手の感触にこだわった高密度ポリエステルは、洗濯ができる上に、使っていてもシワになりにくい素材で、手に持ったとき、肩にかけたときに負担になりません。

附設中高グッズ　三菱五角（合格）鉛筆　あずき色HB
1セット5本入り　￥500（税込）
商品番号：054
附設校の正門をモチーフにした校名入り。
中学バージョンと高校バージョンがあります。

附設中高グッズ　マフラータオル　各￥1,500（税込）
商品番号：055
サイズ：20×110cm　色：赤・黒
体操服などに使われている「FUSETSU」のロゴ入り。
今治産のジャガード織で表と裏がキレイに反転します。

同窓会ホームページの「ご利用の手引き」です

保存版

同窓会WEB名簿ご利用の手引き

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

「HPの新しいドメインはhttp://fusetsu-dosokai.com/です」

IDおよび初期パスワードのお知らせ

同窓会WEB名簿にアクセスして、以下のID・パスワードでログインして下さい。
ログイン後、現在登録されている情報をご確認いただき、必要な変更を行うことが出来ます。

ログインID：旧ログインIDと同じ
パスワード：旧初期パスワードの最初に「fst」を加えた8文字

※ログインID、パスワードがご不明な方は「お問合わせ」メールフォームからご連絡ください。

① ホームページのWEB名簿ボタンをクリックして下さい。

クリック!!

② 「会員ID／パスワード」を入力後、ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。

- ✔ メールアドレスと生年月日を入力された後、すぐに確認メールが届きますのでご確認下さい。
- ✔ ログイン後、会員ID／パスワードは自由に変更できます。
- ✔ 万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、登録済のメールアドレスと生年月日で即時に再発行を受けることができます。
- ✔ セキュリティはシステム管理者にて充分に守られますが、各会員におかれましても、ご自身のID／パスワードは確実に保管していただきますようにお願いいたします。

③ 会員専用サイトでは主に以下のような機能があります。

- ✔ ご自身の登録情報の確認と変更
- ✔ 同窓生の検索・閲覧（WEB版同窓会名簿）
  同窓生の情報のうち、開示されたものを検索・閲覧することができます。

④ ご自身の登録情報の確認と変更 開示の可否はご自身でお決めください。

- 住所、勤務先などの情報はご自身でご変更いただきますようお願いいたします。
- 登録情報をどの範囲の会員に開示して良いかは、ご自分で設定してください。「全同窓生に公開」「同期のみに公開」「非開示」の設定ができます。

⑤ WEB版同窓会名簿の閲覧

卒業年・期数、氏名、住所、勤務先、利用しているSNSを検索し、本人が開示した情報を閲覧できます。

メールアドレスをお持ちでない方は、FAXやお電話で代理入力しますので同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL：0942-44-2222 / FAX：0942-44-8257

●同窓会室の紹介●

１号館１階の旧事務室の後方（体育館側の入口から入って右手側）に、同窓会室と後援会室が一体的になって同じ室内に設置されております。同窓会と後援会のより一層の連携・協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っております。卒業アルバム、附設50年史をはじめとした記念誌、同窓会報バックナンバー、冊子で発行された過去の同窓会名簿なども資料として保管されており、閲覧が可能です（但し、一部欠落がございますので、予めご了承下さい）。このご時世ですので、事前にご連絡頂いた上で、同窓会室にお越し頂ければと存じます。

同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト　▶

同窓会に対する各種問い合わせについて

【電話】0942-44-2222　【FAX】0942-44-8257

【問合せフォーム】http://fusetsu-dosokai.com/contact

【同窓会ホームページ】http://fusetsu-dosokai.com/　【web名簿】https://pu.palsyne.net/s-fusetsu/

【同期の回生代表世話人】P.45ご参照　回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせください。世話人の同意を条件に回答を差し上げます。

※住所変更などのご連絡は、メールの他、電話およびFAXでも受け付けしております。（本文P.71ご参照）
※ご同期などの物故者に関する情報をお持ちの方は同窓会までご連絡ください。

同窓会ZOOMについてのご案内

コロナ禍以降はオンラインミーティングの機会が格段に増えておりますが、この度、同窓会で取得したZOOMのアカウントを同窓会員の皆様にも開放する事といたしましたので、ご同期との懇親会などで積極的にご活用いただければと存じます。詳しくは、同窓会ホームページの８月４日付のお知らせ「同窓会ZOOM利用のご案内」をご覧下さい。

過去の同窓会報を探しています！

同窓会報は、2013年（平成25年）発刊の第20号以降はＡ４判の冊子で毎年発刊する事となりましたが、それ以前はタブロイド判で、発刊のサイクルも明確には決められていなかった模様です。ところで、同窓会室には、1980年（昭和55年）発刊の第４号以降はございますが、それ以前の第１号から第３号までが見当たりません。当該会報をお持ちの方は、会報をスキャンさせて頂きたく、同窓会事務局までご一報下さいますと幸いです。

◆編　集　後　記

一昨年・昨年と、コロナの影響で会報の発刊が年末にずれ込んでいましたが、今年は例年通り、定期総会直後の発刊に戻すことができました。準備期間が短かった事もあり、バタついておりましたが、無事に発刊までこぎつける事ができ、ホッとしております。同窓会員の皆様におかれましては、こちらの会報を手に取って頂き、附設への想いやご理解を深めて頂ければと存じます。また、今後の内容の更なる充実に向け、ご意見やご感想をお寄せ頂ければと存じます。

最後になりますが、本会報にご寄稿ご協力頂きました皆様、編集・印刷にご協力を頂いた粂川印刷様（高尾野健社長(35)、岩佐直樹様）に改めて厚くお礼申し上げます。　（広報委員会委員長　勝連　治(33)）

久留米大学附設高等学校同窓会
広報委員会：勝連　治(33)・古賀善彦(23)・中村和徳(27)・砂場泰浩(21、7月17日まで)
広告募集制度委員会：勝連　治(33)・古賀善彦(23)・中村和徳(27)・栗木康幸(21)・実藤光二郎(26)・枝國源一郎(33)・金城順之介(39)
協　力：白水孝典先生・行正幸司先生(47)・藤木克哉先生
穴井陽一附設中学校・高等学校事務室長
中村昌子様(同窓会事務局)・長野佐知子様(同窓会東京支部事務局(メディア総研))